

草加市 幼保小中一貫教育プログラム

目指す「草加っ子」を育む 幼保小中を一貫した草加の教育



草加市教育委員会
平成31年3月

所属名

() 用)

※この冊子は年度末に回収するなどして、次年度の職員に確実に引き継いで使用してください。

はじめに

平成28年度末に、学習指導要領等が告示されました。「生きる力」を資質・能力の三つの柱で整理し、この観点で幼児期の教育から高等学校教育までの一貫性が示されています。これは高大接続システム改革会議「最終報告」に示された、いわゆる「大学入試改革」と深く結び付いており、未来社会の創り手となる子どもの育成に向けた国の強い決意の表れであることが分かります。

このような学校教育全体の教育の質的転換は、平成8年中央教育審議会答申で「生きる力」が示されて以来のことであり、幼児期の教育や義務教育を超えて、高等学校教育や大学教育にまで及んでいます。

幼児期の教育では資質・能力が一体的に育まれた5歳児後半の姿として『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』が示され、小学校教育は幼児期の教育の成果の上に、中学校教育はさらにその上に、それぞれ教科等の学習を通して資質・能力の育成を目指すこととなっています。

本市は、平成24年度に中学校卒業までに育ってほしい子どもの姿として「自ら学び 心豊かに たくましく生きる草加っ子」(本プログラムでは、「目指す「草加っ子」(15歳の姿)」と示すものとします。)を定めました。未来の草加を託す子どもたちの資質・能力にスポットを当て、シンボル化したものです。以来、この姿の実現に向けて幼保小、小中の交流・連携を、平成28年度からは「0歳から15歳までの『学び』『心』を結ぶ幼保小中を一貫した草加の教育」(本プログラムでは、「幼保小中を一貫した教育」と示すものとします。)を推進してまいりました。

各園・各学校では「目指す子ども像(目標)の共有」「15年間を通じた教育課程等の編成・実施」「幼保小中を一貫した教育を推進する組織づくり」といったハード面を視点として、真摯に、実践的な研究に取り組んでいただきました。その結果、平成30年度から市内全中学校区で幼保小中を一貫した教育をスタートすることができました。今後は、これら三つを有機的に機能させ、資質・能力の観点から教員・保育士一人一人が目の前の子どもの“15年間の担任”であるといった意識をもって教育の質向上を目指す、ソフト面の一層の充実が不可欠です。

そこで、『草加市幼保小中一貫教育プログラム』をここに策定しました。草加市の幼保小中を一貫した教育が、さらに充実したものになるよう、具体的なカリキュラムの編成や資質・能力のとらえ方などを示しています。併せて『目指す草加っ子(草加市幼保小中教育指針)』『草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム』を活用することで、幼保小中を一貫した教育の質向上に資するものになると考えます。

結びに、本プログラムの作成に当たり、専門部会で手厚いご指導をいただきました、埼玉大学教育学部教授 首藤敏元 様、國學院大學人間開発学部教授 田村学 様、ベネッセ教育総合研究所主席研究員 木村治生 様を始め、検証・編集、作成にご尽力いただいた先生方に、厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

草加市教育委員会
教育長

高 木 宏 幸

目次

1 プログラムを活用するための概要

対 象： 幼 保 小 中

1

- 1 これからの社会で求められるもの 2
- 2 草加市の取組に関する経緯 3
- 3 幼保小中を一貫した教育の目的 4
- 4 草加市幼保小中一貫教育プログラムのねらい 5
- 5 資質・能力の一貫性について 6
- 6 幼児期の教育において育む資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 7

2 アプローチカリキュラム

対 象： 幼 保 小 中

11

3 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？

対 象： 幼 保 小 中

33

- 1 年長児事例 7～9月 34
- 2 年長児事例 10～12月 36
- 3 年長児事例 8月・2月 38
- 4 年長児事例 1月・2月 40
- 5 年長児事例 2月・3月 42

4 スタートカリキュラム

対 象： 幼 保 小 中

45



5 幼保小中を一貫した教育の取組

対 象：

幼 保 小 中

61

- 1 一貫教育にふさわしい組織づくりに関する取組
 - 1-1 中学校区幼保小中連絡協議会 62
 - 1-2 幼保小中学校教職員合同研修会 64
 - 1-3 幼保小連絡協議会 66
 - 1-4 入学予定児童の引き継ぎを目的とした小中連絡協議会 68
- 2 幼保小をつなぐ取組
 - 2-1 幼保小の交流①「なかよし交流会」～できることを発表し合おう～ 70
 - 2-2 幼保小の交流②「わくわく交流会」～〇〇小学校を知ってもらおう～ 72
 - 2-3 教員による保育体験 74
 - 2-4 小学校体験入学 76
 - 2-5 交流給食 78
- 3 小中をつなぐ取組
 - 3-1 中学校教員による乗り入れ授業(体育) 80
 - 3-2 中学校教員による乗り入れ授業(算数) 82
 - 3-3 児童生徒合同授業 84
 - 3-4 小学校における一部教科担任制の充実 86
 - 3-5 生活・学習指導の連携～「エンジョイ!中学校生活」の活用～ 88
 - 3-6 生活・学習指導の連携～進学後の生活を見通した指導～ 92
 - 3-7 部活動体験 94
- 4 家庭教育への支援の取組
 - 4-1 保護者向け講演会(給食試食会) 96
 - 4-2 「家庭・学校連携シート」の活用 98
 - 4-3 保護者向け「親の学習」講座 100

6 幼保小中を一貫した教育の参考指導資料

対 象：

幼 保 小 中

103

- 1 草加市小中学校「生活・学習のめあて」 104
 - 2 親子で考えようケータイ・スマホ 110
 - 3 家庭学習のすすめ 114
- 委員名簿・審議経過等 117

1 プログラムを活用するための概要

対 象：

幼

保

小

中

1 これからの社会で求められるもの

『社会からの要請』に基づく人材育成から、社会の急激な変化に対して、『社会に適応する』人材育成が求められています。そこで、学校教育と社会とが連携・共同しながら子どもたちが未来社会の創り手となるために必要な資質・能力とその育成に向けた手立てが次のように示されています。

社会背景

- 生産年齢人口の減少
- グローバル化の一層の進展
- 絶え間ない技術革新
- 急激な高齢化
- 人工知能（AI）の進化

未来社会の予測

子どもたちが生きていく社会では…**厳しい挑戦の時代・予測が困難な時代の到来**

育成に向けた手立て

(1) 未来を切り開くための資質・能力を学校教育全体で育成（資質・能力の一貫性）

資質・能力の三つの柱を一体的に育む。

- ①生きて働く知識・技能の習得
- ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- ③学びを人生や社会にいかそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

(2) 社会に開かれた教育課程の実現（地域社会との連携・協働）

子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する。

(3) カリキュラム・マネジメントの実現

- ・教育内容の組織的な配列
- ・PDCA サイクルの確立
- ・地域の教育財産、人的資源などの活用



2 草加市の取組に関する経緯

平成 24 年度

課題 小中学校間での生活や学習への適応、安定した生活リズム、豊かな体験、学校・家庭・地域との「子どもの育ち」の共有など

平成 25 年度～平成 27 年度 第一次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画

取組の方向性 子どもが生まれてから中学校卒業までの育ちを共に支え「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子ども」を育てる（基本理念）

主な取組

- ・ 目指す「草加っ子」（15 歳の姿）を定め、学校・家庭・地域で共有
- ・ 草加市幼保小中教育指針を始めとする子ども教育プログラムの策定と活用促進
- ・ 幼保小の交流・連携、小中連携を推進し、その成果と課題を教育関係者等で共有
- ・ 家庭教育充実に向けての支援（「親の学習」講座、子育て講演会、リーフレットの配布）
- ・ 地域への取組の周知

主な成果

- 交流・連携の取組の充実と小中入学当初の生活や学習の安定
- 豊かな体験活動に対する積極的な取組及び家庭・地域の子ども教育連携推進に関する取組への理解

課題

- ▲ 小中学校教育全体の充実に向けた幼保小中を一貫した教育の実施
- ▲ 幼保小の円滑な接続に関する保育の充実に対する支援
- ▲ 子ども教育に対し、家庭・地域の理解を得る

平成 28 年度～現在 第二次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画

取組の方向性 0 歳から 15 歳までの「学び」「心」を結ぶ幼保小中を一貫した草加の教育～「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子ども」を育てる～（基本理念）

主な取組

- ・ 中学校区における幼保小中を一貫した教育の推進
（全ての中学校区において平成 29 年度に小中一貫教育、平成 30 年度から幼保小中を一貫した教育へと段階的に実施）
- （1）各中学校区において目指す「子どもの姿」の設定
- （2）15 年間の子どもの育ちを見通した教育課程などの編成
- （3）園、学校、家庭、地域の代表者を構成員とした「連絡協議会」の設置

幼保小
接続



小中一貫
教育



家庭・地域
との連携



幼保小中を
一貫した
草加の教育

3 幼保小中を一貫した教育の目的

目的

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子
(目指す「草加っ子」15歳の姿)を育むこと

方法



草加市幼保小中教育指針に基づき、子どもの育ちに応じて0歳から15歳まで「学び」「心」を結ぶよう、保育・教育の内容・方法を工夫する。

【工夫の内容】

- ① 目指す子ども像の共有
- ② 15年間を通じた教育課程の編成
- ③ 一貫教育にふさわしい組織づくり

「自ら学び、心豊かに、
たくましく生きる」
草加っ子の育成

目指す「草加っ子」(15歳の姿)とは？

学校・家庭・地域がそれぞれの保育・教育の充実と、連携、協働を図りながら育む「資質・能力」を身に付けた中学校卒業時の子どもの姿

4 草加市幼保小中一貫教育プログラムのねらい

(1) 草加市幼保小中一貫教育プログラムとは

本プログラムは、小中学校学習指導要領等及び幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴い、これまでに草加市で発行された「草加市幼保小接続期プログラム」と「草加市小中連携プログラム」を見直し、本市の幼児教育・義務教育における現状や課題を踏まえ、各発達段階等間において重要となる考え方と接続期、移行期を含め一貫教育を一層充実させていくための交流・連携の実践例を示したものです。



草加市幼保小中一貫教育プログラム

幼保小の接続期
(幼保小接続期
プログラム)



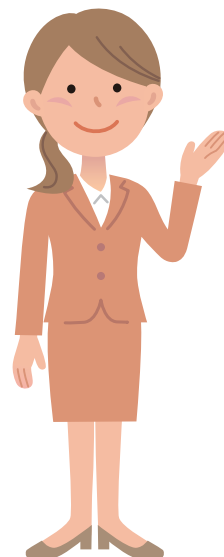
小中の移行期
(小中連携プログラム)



幼保小中を
つなぐ実践事例

(2) 草加市幼保小中一貫教育プログラムのねらい

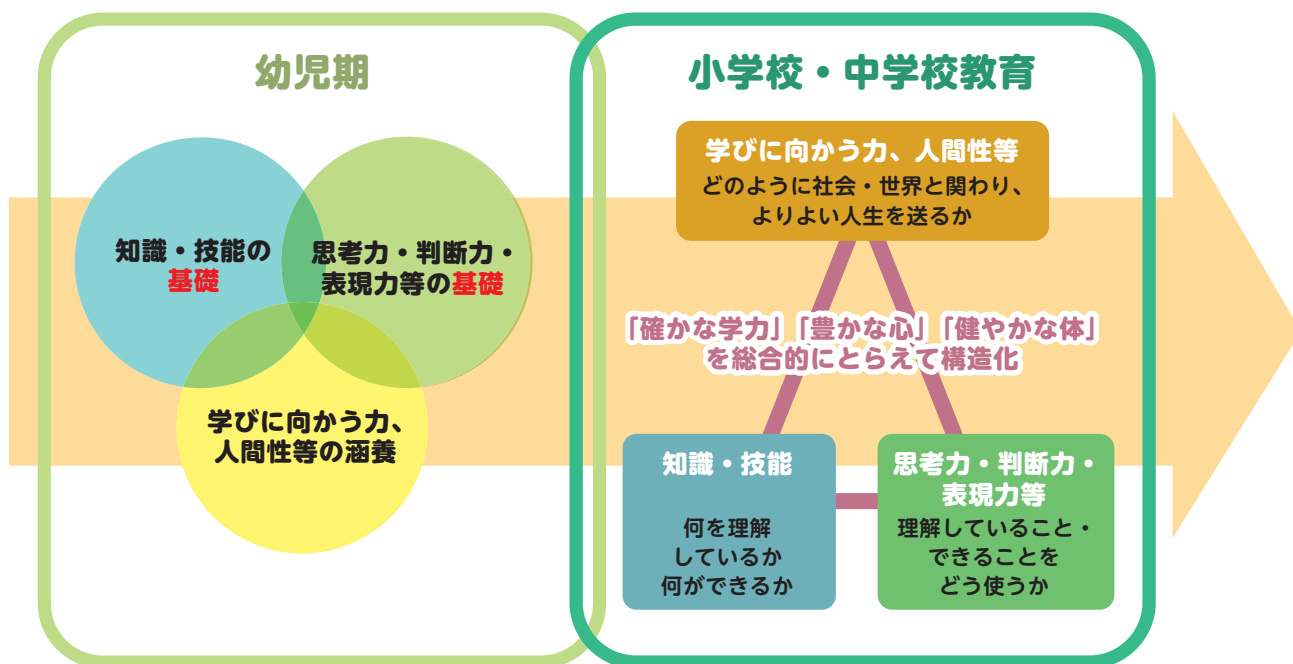
- ① 幼保小の円滑な接続のため、それぞれの保育計画、教育課程を資質・能力の観点で一貫性を示すこと。
- ② 各園・各校が校種等を超えて0歳から15歳までの子どもの育ちを見通すための交流や連携の取組の充実につなげること。



5 資質・能力の一貫性について

「子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにする」（平成28年12月21日 中央教育審議会答申より）ため、育成すべき資質・能力を次のように示しています。

資質・能力の三つの柱



学校・家庭・地域で共有し、学校教育全体を通じて育む



【草加市】幼保小中を一貫して資質・能力を育む

これまで、幼児期の教育は学校教育としての幼稚園を始め、学校教育と児童福祉施設の二つの機能をもった幼保連携型認定こども園、児童福祉施設としての保育所が行ってきました。今回、保育所保育に教育を行う施設として積極的な位置付けを行い、教育に係る内容の一層の整合性が図られました。

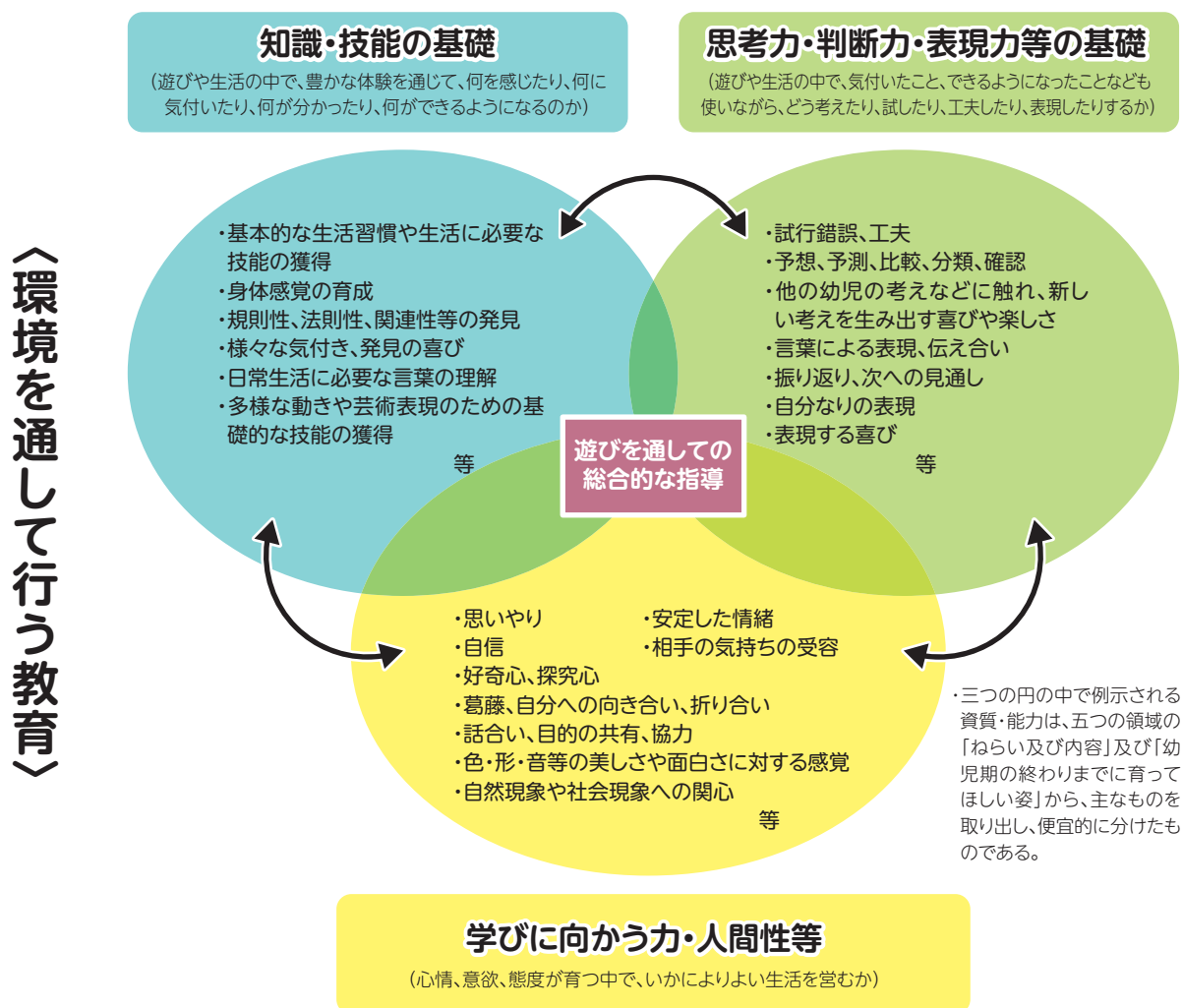
このことから、学校教育全体を通じて育むとは、本市の教育施設の現状に照らすと、幼保小中を一貫して資質・能力を育むことになります。

6 幼児期の教育において育む資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

育成すべき資質・能力の一貫性を担保するため、各園には、義務教育及びそれ以降の子どもの育ちを見通して保育を行い、生きる力の基礎を育むことが求められます。また、生きる力の基礎となる幼児期の教育において資質・能力が育まれた姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、関係法令に示されています。

関係法令：幼稚園教育要領 第1章 第2節、保育所保育指針 第1章 4、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章 第1節 3

幼児期の教育において育成すべき資質・能力は次の3つの柱に整理されています。



幼児期にふさわしい遊びや生活を通して、保育者は幼児のよさや可能性を見取りながら、5領域に示されたねらいや内容に沿って総合的に保育を行うことで、資質・能力が一体的に育まれます。**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**は、資質・能力が一体的に育まれた5歳児の修了頃の姿であり、この姿が幼児期の教育の成果であるとともに、「生きる力」の基礎となるものです。

幼稚園教育等の基本を踏まえる

生活・遊び



5領域の
ねらい・内容



幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿

【5 領域】「子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」という保育の原理を実現するための具体的な目標設定をする際の領域のことです。

健康	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
人間関係	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
環境	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
言葉	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

幼稚園教育等の基本を踏まえ、幼稚園教育要領等に示されているねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている5歳児後半の具体的な姿のことです。

…（ ）内は保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の表記

1 健康な心と体	2 自立心
幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
3 協同性	4 道徳性・規範意識の芽生え
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
5 社会生活との関わり	6 思考力の芽生え
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
7 自然との関わり・生命の尊重	8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを関わるようになる。	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
9 言葉による伝え合い	10 豊かな感性と表現
先生（保育士等、保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

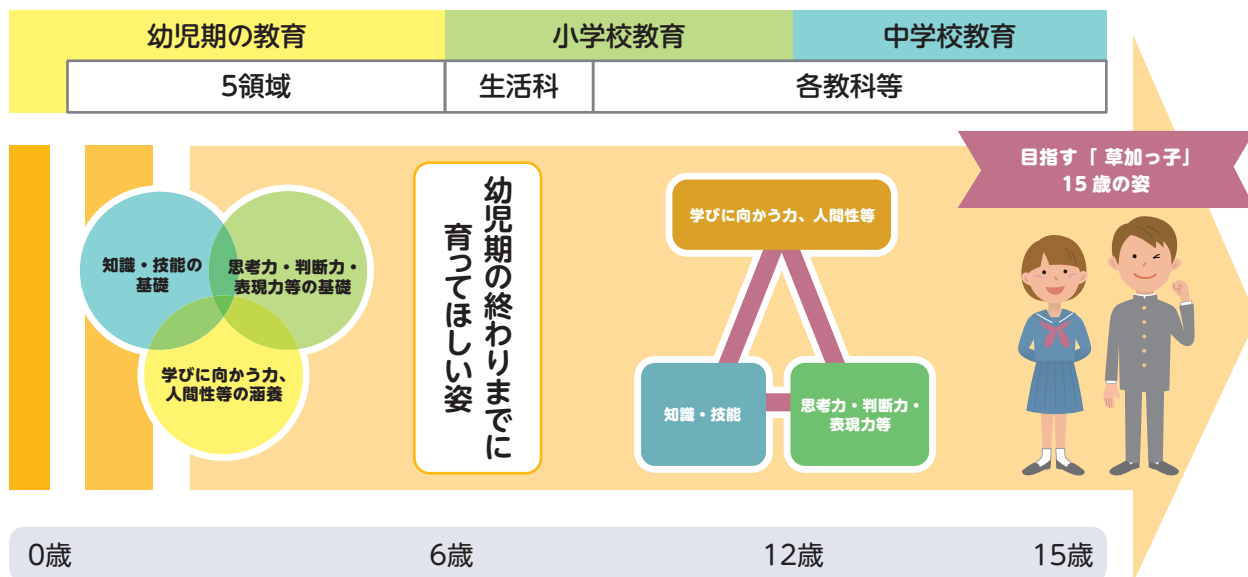
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、主に次の三つによって育まれていきます。

- ① 環境を通して行う教育を基本とした保育
- ② 幼児期にふさわしい生活や自発的に取り組む遊びを通した保育
- ③ 子どものよさや可能性を見通して、5 領域のねらいや内容を含んだ保育

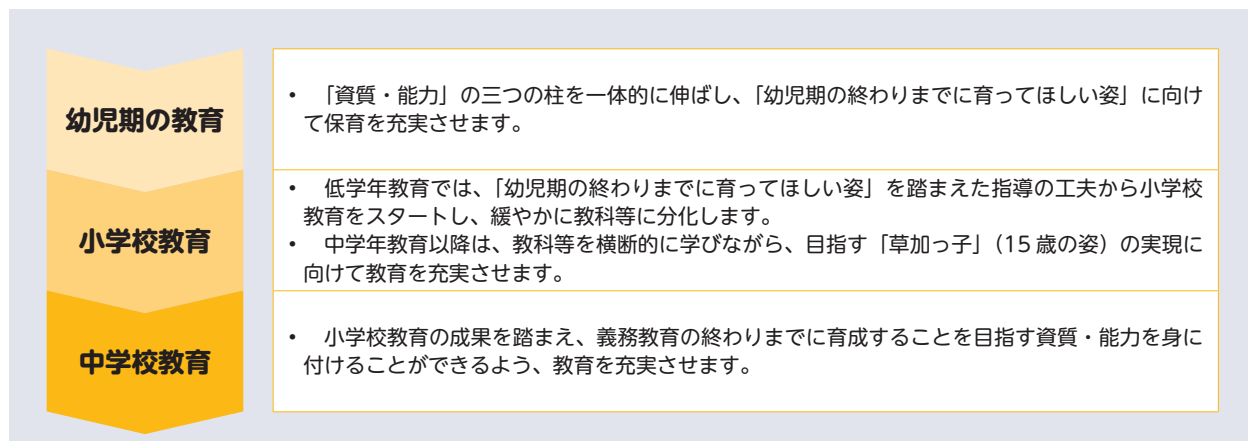
今回改訂された学習指導要領等では、教科等が個別的・系統的に学ぶ縦断的な学びに加えて、教科等間の横断的な学びや学校段階等間の連続した学びを実現するカリキュラム・マネジメントが求められています。

関係法令：小学校学習指導要領 第1章 総則 第2の4 学校段階等間の接続

以上のことを本市の取組に当てはめると、次のようになります。



目標となる育成すべき「資質・能力」は、幼児期の教育から中学校教育を貫くものですから、各園・各学校においては、次のような流れで教育を一貫させ、目指す「草加っ子」（15歳の姿）を育てます。



「幼保小中を一貫した草加の教育」全体で目指すべきゴール

草加市では、『未来社会に適應する力』が育まれた中学校修了時の姿を目指す「草加っ子」（15歳の姿）としています。この姿は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の延長線上にあるという構造です。

2 アプローチカリキュラム

対 象： 幼 保 小 中

5歳児							小学校1年生				
4～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8～3月
	≪ 接 続 期 ≫ ＊ 小学校就学に際し、特に配慮や工夫が必要な時期										
	アプローチカリキュラムによる指導 リーフレット「もうすぐ1年生」の配布・活用						スタートカリキュラムによる指導 幼児期の学びと育ちを踏まえた指導				
← 草加市幼保小中一貫教育プログラム 実践事例「幼保小をつなぐ取組」(P.70～79) →											

1 アプローチカリキュラムって何ですか？

幼稚園・保育園・認定こども園において編成する「5歳児後半のカリキュラム」のことです。



- ① 幼児が、小学校以降の生活や学習へ適応できるようにするために編成します。
- ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児の内面の育ちをとらえ、その後の育ちを見通して、保育の充実を図ります。

2 どんな効果があるのでしょうか？

- ① 幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続され、**資質・能力の一貫性**が確保されます。
- ② 幼児期の教育において**小学校以降の生活や学習の基盤**が育まれ、小学校生活の安定が図られます。



3 指導計画とアプローチカリキュラムの位置付けは、どのようになっているのでしょうか？

指導計画は、**全体的な計画**に基づき、長期・短期の計画に分かれます。長期の指導計画として**年間指導計画**があります。また、短期の指導計画には、**期の計画**や**月の指導計画（月案）**、**週の指導計画（週案）**や**日案**といったものがあります。

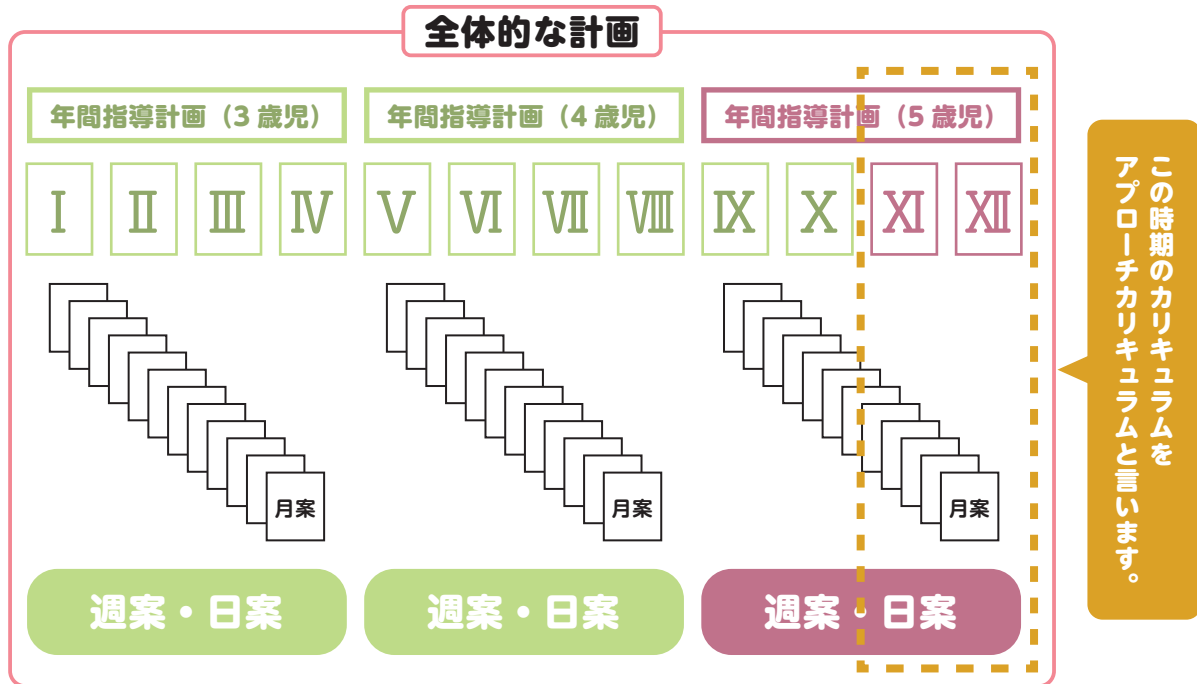
なお、これらの計画は、全てを必ず作るわけではありません。各園の実状に応じて週案の中に日案を組み込んだり、月案の中に週案を組み込んだりと、作成状況は様々です。

これらのうち、5歳児後半に当たる時期の計画を草加市では「アプローチカリキュラム」と称しています。各計画の位置付けについては、次のページを参照してください。

カリキュラムの具体的な様式や記載例は、P.26～29の例や、埼玉県幼稚園教育課程編成要領等を参照してください。



(参考) アプローチカリキュラムの位置付け イメージ



4 カリキュラムを編成・実施するときに気を付けることは何ですか？

まずは、幼児期にふさわしい保育・教育を心掛けましょう。



「5 歳児後半の保育・教育」は、次の三つを踏まえて行います。

- ① 幼児の主体的な活動を促し、**幼児期にふさわしい生活**が展開されるようにすること。
- ② **遊びを通しての指導を中心として**、保育・教育のねらいが総合的に達成されるようにすること。
- ③ 幼児一人一人の特性に応じて、**発達課題に即した指導**をすること。

こんなこと、していませんか？

- ① 平仮名の読み書きや鉛筆の持ち方など小学校入学当初の学習内容を取り出して一定期間にまとめて指導する。
- ② 手の挙げ方や椅子の座り方などのきまりや約束ごとなどを、保育者や大人から一方的に指導する。

Point > 幼児期の教育は小学校教育の先取りをするものではありません！

小学校のカリキュラム編成・幼保小の接続について、詳しく知りたい。⇒ P45 4 スタートカリキュラム



そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに教職員と保育者が子どもの育ちを共有しましょう。



- ① 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼児期の教育と小学校教育における共通の手掛かりとして、子どもの育ちを共有しましょう。
- ② 幼児期の教育と小学校教育の違いを整理し、理解に努めましょう。

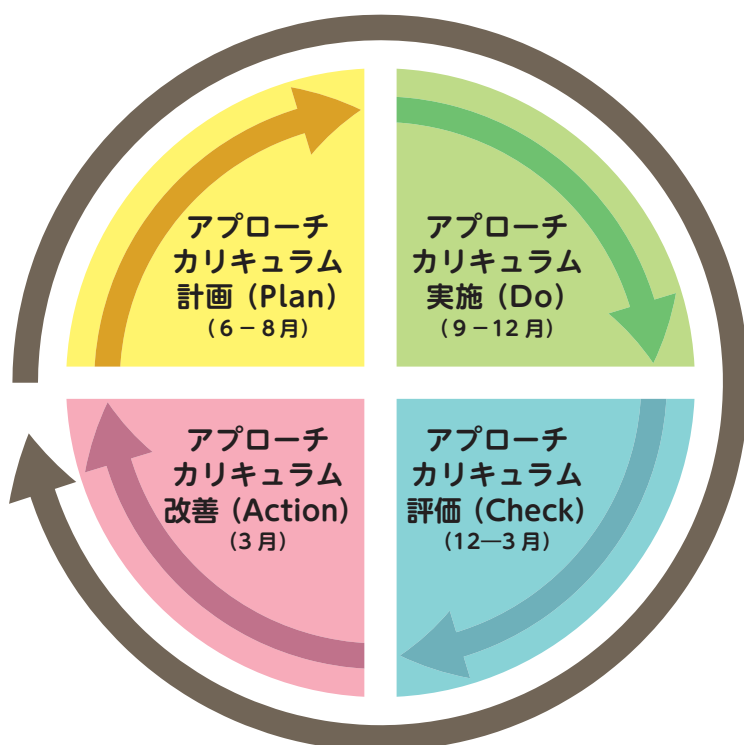
【「子どもの育ち」を共有するまでの流れ】



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、詳しく知りたい。⇒ P 8 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

5 アプローチカリキュラムを編成してみましょう

カリキュラムは、次の四つの流れで編成すると効果が高まります



①計画 (Plan)

実態把握



②実践 (Do)

保育の工夫



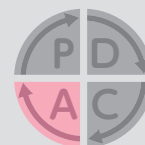
③改善 (Check)

確認と
期の計画の再調整



④検証 (Action)

要録と次年度の
年間計画の作成





①計画（Plan：6月～8月）

まずは、幼児の実態を把握しましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として、5歳児の内面の育ちをとらえるとともに、5歳児後半の年間計画や期の計画を見直して工夫や改善を行います。

【計画の流れ（例）】

作成に向けて
組織をつくります

・園長先生、主任先生、5歳児クラス担当の経験者等を中心に、カリキュラムを作成するための組織をつくりましょう。

昨年度の活動を
振り返ります

・前年度の5歳児クラス後半の指導計画を見て、小学校教育とのつながりが意識されている活動や効果があると思われる活動を見付けましょう。

今年度の活動を見通します

・今年度の5歳児クラスが、10月から3月までの間に取り組む活動やできそうな活動を出し合ひましょう。

小学校教育との
つながりを見出します

・出し合った活動例の中から、小学校就学後の生活や学習を意識した活動を見付けましょう。活動の具体例として、次のページの例も参考にしましょう。

（可能であれば…）

・連携先の小学校を訪問して、校長先生や教頭先生、教務主任や1年生の先生から、就学後の生活や学習の観点から意見をもらいましょう。これには、年度当初の幼保小連絡協議会などを活用するとよいでしょう。



この他に、園内組織（研修推進など）を中心に、5歳児一人一人のよさと可能性を把握し、計画に反映していく方法も考えられます。

小学校教育以降の生活や学びとつながりがある活動の具体例

5 歳児

10 月

11 月

12 月

生活する力

- 戸外で友達と一緒に十分に体を動かして活動する。
- 危険な場所が分かり、安全に気を付けて行動する。
- 栽培、収穫、簡単な調理を通して食べ物に関心をもつ。
- 先を見通し、時間を意識しながら友達と声をかけ合って生活する。
- 健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。
- 生活に必要な活動を自分から進んでする。
- 困った時は自分で考えたり、周りの人に聞いたりする。
- 自分の持ち物の整理や脱いだ服の始末を進んで行う。
- 自分で必要性を感じながら、園やクラスのことを片付ける。
- 共同で使う遊具を大切に使う。

人と関わる力

- 自分の経験したことや考えたことを相手に分かるように話す。
- 地域の人や高齢者、異年齢の子どもとふれ合い、人の役に立つ喜びなどを味わう。
- 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。(あいさつ、返事、ありがとう、ごめんなさい等)
- 問題が生じたとき、自分たちで解決しようとする。
- 友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。
- 友達の話をよく聞き、相手に分かるように話す。
- 友達と遊びのイメージを共有し、思いや考えを言葉で伝えようとする。
- 遊びの中で友達のいろいろなよさを認め合う。
- 友達との関わりや生活を通して、きまりの必要性や大切さが分かる。
- 集団行動(運動会、遠足)を意識して、皆と一緒に行動する。
- 公共施設(図書館、公園、児童館など)を利用し関心をもつ。
- 友達と役割を分担したり、交代したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 活動に合わせてルールを考えたり、工夫したりしながら遊びを楽しむ。
- 良いことと悪いことを自分で考えて行動する。

自ら学ぶ力

- 秋の自然物を積極的に遊びに取り入れたり、物の仕組みに関心をもって使ったりし、生活を豊かにする。
- 飼育動物や昆虫等の世話を通して、生態や飼い方などを調べる。(絵本、図鑑、事典など)
- 季節の変化に関心をもち、遊びに取り入れたり興味をもって調べたりする。
- 身近な環境に積極的にかかわり、生活の中に取り入れようとする。
- 遊びに使う物の数、人数、数量を数えたり、比べたりする。
- 遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり、読んだりする。
- 文字や数を遊びの中に取り入れる。
- 物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
- 友達と一緒にリズムカルな動きを楽しむ。
- 絵本や物語などを通して、イメージを豊かにする。
- 絵本や物語に親しみ、イメージを膨らませたり、演じたりして遊ぶ。

1月

2月

3月

- 活動の区切りや時間を意識しながら生活する。
- 就学への期待をもち、自信をもって行動する。
- 友達とルールを考えながら、十分に体を動かす遊びに取り組む。
- 危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。
- 健康な生活に興味をもち、生活に必要な習慣やリズムを身に付ける。（※ハンカチの使用、午睡なしでの生活への切替）
- 自分の遊びや生活の場を整えようとする。
- 自分たちの活動を振り返りながら、当番の仕事の引継ぎをする。

- 大勢の友達と目的を共有し、保育者や友達と相談しながら見通しをもって進める。
- 目的に向かって課題に根気強く取り組んだり、工夫したりしてやり遂げた喜びや充実感を味わう。
- 友達と共有した目的を実現するために、言葉で伝える。
- 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- 共通の課題に向けて挑戦したり、話し合ったり、役割を分担したりして、目的を果たす喜びを味わう。
- クラス全体で一つの活動などに取り組んだり、共通のイメージをもってそれぞれの遊びをつなげたりする。
- 遊びや活動の中で友達の意見を尊重したり、優先したり、折り合いを付けたりする。

- 冬の自然現象に興味をもち、見たり試したりする。
- 季節の移り変わりとともに生活にも変化があることを知る。
- 文字を使うことの楽しさや意味に気付き、生活の中で文字を使って伝える喜びを味わう。
- 生活の中で数の必要性や便利さに気付き、書いたり、読んだり、比べたり、分けたりする。
- 伝承遊びにふれたり、伝統行事の意味を知ったりして、親しむ。
- 就学することを喜び、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人に感謝の気持ちをもつ。
- 考えたこと、感じたことをいろいろな方法で表現する。



②実践 (Do: 9月～12月)

「六つの視点」で保育を工夫しましょう。

計画ができれば、次は実践です。各園の特長をいかながら保育の充実を図りましょう。

草加市では、一つの小学校が複数の園から就学児を迎える実状があります。そこで、各園で共通して保育等に次の「六つの視点」を取り入れることが大切です。

【視点1】 見通しをもって生活や遊びを進める

5歳児後半の幼児は、一日の生活や季節の行事など流れをある程度分かっています。ですが、あと片付けをすることなどが毎日決まった時間に行われているわけではありません。それは、登園から降園までの活動や生活が、子ども達にとって充実したものになるように、保育者が、幼児の興味・関心の高まりや思い・願いを実現するまでのストーリーを予測して、柔軟に保育の時間を配分しているからです。

ところが、小学校教育以降では、個人やグループの活動よりも、学年・学校のスケジュールが優先される場面が増えていきます。それには、次のような理由があります。



- ① 日課表や時間割によって、活動時間が細かく設定されている。
- ② 学年活動や学校行事などの大集団で活動することや、クラス代表やクラブ・委員会活動等、特定の子どもだけが活動する場面が増える。

ですから、5歳児後半の保育では、先生や友達と共に生活する中で、見通しをもち、気持ちを切り替えて生活したり、その際に自分でしなければならないことを自覚して行ったりする姿を育む必要があります。これは、社会生活でも必要な力となります。そこで、次の2点を保育に取り入れてみましょう。

(1) 一日の生活を見通すための工夫

登園・降園時の活動や当番活動、昼食の準備や片付けなど、一日の生活の流れが分かり、一つ一つの活動に見通しをもって取り組めるようにします。

このことで活動の切り替わりとともに、気持ちを切り替えられるよう、友達同士で声をかけ合ったりするよう支援します。

また、今やっていることの「続き」がいつできるかを子どもたちが見通せるようにすることも気持ちの切り替えにつながります。

(2) 行事(予定)や時間を意識した生活をするための工夫

カレンダーや時計などを保育室に用意し、「生活発表会まであと○日」など長期的な見通しや、「時計の針が○をさしたら、あと片付け」など短期的な見通しをもって生活するようにします。このことは、月・日にち・曜日や時間感覚のほか、数や文字に対する関心・感覚の高まりにつながります。

【視点2】 活動や活動内容の工夫

5歳児後半頃、幼児の小学校入学に対する意識が高まります。そして、一定期間継続して一つの活動に取り組む姿や、挑戦的・探究的に取り組む姿が見られるようになります。こうした姿をとらえ、幼児が「知りたいな」「もっとうまくなりたいな」といった気持ちや願いを読み取り、可能性を広げたり、その実現に向けて試行錯誤したりしながら活動に取り組めるように環境を構成することが大切です。

環境を構成する際、次の3点に留意して活動を充実させましょう。

- ① 幼児が、自分の力を発揮できる環境の構成を設定する。
- ② 幼児が、自分の力で実現できたという充実感を味わえる支援を心掛ける。
- ③ 幼児が、粘り強く取り組んだことや自信がもてるようになったことを認める。

このことにより、新しい環境においても、友達と一緒に生活する楽しさや学習する面白さが得られ、学習意欲の向上へとつながっていきます。このことは義務教育以降においても、学んだことを生活・社会・人との関わりへいかすようになります。

そこで、次のことを取り入れてみましょう。

（1） 戸外で体を動かす

運動会や季節の遊び（凧揚げ、コマ回しなど）などをきっかけにして、「皆で外に出て体を動かす楽しさ」「汗をかく心地よさ」を味わわせましょう。

様々な活動に目標をもって取り組んだり、困難につまずいても気持ちを切り替えて自分なりに乗り越えたりする経験をととして「健康な心と体」を育てていきます。

（2） 自然の中で心を動かす出来事に触れる

季節の自然物やその性質、自然現象などの美しさや不思議さに直接触れたり、それを遊びや生活に取り入れたりしましょう。

例えば、草花等の植物を素材にした色水遊びでは、「○○ジュース」に近い色を出すためにいくつかの色を混ぜたり、各色の混ぜる量を少しずつ変えたりするなど試行錯誤します。イメージした色を再現できたときの喜びとともに美しさや不思議さを実感することになります。

また、クラスで生き物を大切に飼育することを通じて幼虫の成長を喜んだり、色や形が変化していく様子に驚いたりする経験は、『自然との関わり・生命の尊重』などの育ちへとつながっていきます。



（3） ものの性質や仕組みなどを遊びにいかす

この時期の幼児は、土や砂、紙など、ものの素材のよさや特徴を遊びに取り入れて遊びます。例えば、泥団子を作る経験をととして、場所によって土や砂の性質が異なることに気付きます。

泥団子を作るときには花壇の土に水を加えながら形を整えたり、園庭にあるきめ細かい砂を利用することで表面をきれいに仕上げる経験をととして、性質の違いを実感していきます。

また、幼児は、プールや観察池などに浮かべた帆掛け船に風を送って進める遊びをととして、ものの仕組みを感じ取っていきます。風を送ることを繰り返しているうちに、うちわの扇部分が広



い方が強い風を送れることに気付き、うちわの形を改良し、試したりし始めます。

このことにより、『思考力の芽生え』が育まれていきます。同じものでも性質や形の違いを利用して思いを実現したり、ものの仕組みを遊びに取り入れてより面白くしたりする経験を大切にしましょう。

（４） 幼児の思いや願いを実現するための工夫

環境を構成する際は、幼児の思いや願い、実現までのストーリーを予測してみましょう。

ドーナツ屋さんごっこを考えてみましょう。この遊びを始める幼児たちは、必要なものを思い描きます。お店に必要なドーナツや看板、メニューやスタンプカードなど、発想は広がります。それらを作るとき、ハサミやのり、画用紙がある制作コーナーや、絵を描くときに参考となるイラスト集や調べものをするときに役立つ図鑑などを置いた本のコーナーがあったらどうでしょう。幼児は、それぞれのコーナーで自分が任されたものを作り、それを持ち寄ることによってドーナツ屋さんを本物らしくしたいという思いや願いを実現できます。

ちなみに、このような遊び方は、小学校教育以降の生活科を中心とした教科等との合科的・関連的な学び方や、総合的な学習の時間の学び方の基盤となっていきます。

【視点３】 人との関わり

幼児は、保育者や友達と生活する中で、次第に相手の心情や考え方などの特性に気付き、それに応じて一緒に活動するなど、人との関わりを楽しむようになります。そして、幼児の活動に次のような深まりが見られるようになります。

- ・先生や友達と一緒に体を動かす。
- ・目的の実現に向けて、みんなで力を合わせる。
- ・目的の実現に向けて、友達からの情報を遊びや生活にいかす。

さらに、友達との関わりを土台として、学級又は園全体へ関わりを広げるとともに、園で育まれた力を他の園との交流や小学生・高齢者等との関わりへといかすことで、次のような経験をさせます。

- ・人の役に立つ喜びを味わう。
- ・地域に親しみをもつ。
- ・園内外の環境と関わる中で必要な情報を取り入れたり、情報に基づいて判断する。

なお、こうした経験は義務教育以降、主に次のことにつながっていきます。



- ① 相手の考えや気持ちを尊重しながら、力を合わせて目的を実現しようとする姿
…共有する仲間が多ければ、目的も大きく広がり、達成感が高まります。
- ② 相手の状況や気持ちを考えて関わろうとしたり、様々な世代との関わりから学んだことや、得た情報を自分の生活に取り入れたり、さまざまな立場の人との関わりにかいたりする姿
…様々な立場の人から情報を得ることで、解決の手がかりを得られることなどを体験します。

具体的には、次の４点を意識してみましょう。

（１） 友達と共に生活するよさを味わわせる

友達と生活し、遊ぶ中で、心を通わせたり、やり遂げたりする経験を積み重ね、人間関係を深められるようにします。例えば、ケガをしたときに「痛い？」「大丈夫？」と声をかけられるなど、相手の優しさに触れる経験をとおしてその人のよさに気づき、互いに認め合いながら一緒に生活するよさを感じられるようになります。こういった心通わせるような経験を味わわせるようにします。

（２） 友達と目的を共有して遊ぶ経験

５歳児後半になると、就学先が一緒であることなどをきっかけに、関わりの薄かった友達を誘うようになります。互いに関わる中で、自分のもつイメージを相手に伝えたり、相手のもつイメージに気付いたりしながら目的を共有できるようになります。生活発表会や遠足などでは、園最後の行事であることを強く意識します。学級全員の思いや願いを共有して目標に向かって取り組み、自分らしく力を発揮したり、自分の気持ちをコントロールしたりして、挑戦的に目的を達成する姿や、試行錯誤を繰り返しながら遊ぶ姿を支援し、達成感や充実感を味わわせるようにします。

（３） 幼稚園・保育園との交流（幼保、幼幼、保保、児童福祉施設との交流）

気の合う友達から、学級全体、園全体へと人との関わりを広げます。また、近隣の（同じ小学校区内）園どうしで交流する機会などを設け、身に付いた力をさらに伸ばしていきます。やがて、共通の話題を見付けたり、それぞれの知っている情報を伝え合うことで、自分の生活が豊かになったりし、遊びを楽しくする新しいアイデアがもてるようになります。



（４） 児童との交流や地域との交流

就学時健康診断で高学年の児童と関わったり、生活科・総合的な学習の時間で低学年・中学年の児童と交流をしたりする中で、自分の成長に対する見通しや期待をもてるようにします。

【視点４】 家庭や小学校との連携

幼児の生活を豊かにし、健やかな成長を支えるためには、園と家庭との連携が大切です。日常的な子育て支援は、保育全体の充実へとつながります。

５歳児後半の幼児の保護者は、右表のような不安を抱えているようです。

そこで、幼児の就園以来、園が家庭と築いてきた連携関係を小学校などにも引き継ぐことは、保護者の就学に対する不安の軽減につながり、幼児の小学校生活への円滑な適応が図られます。保護者の不安解消への手立てには、次のようなものがあります。

子どもの小学校入学後の生活について保護者が不安に感じていること

※草加市子ども教育の連携に関するアンケート調査報告書（平成２８年）

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 新しい友達との関係 |
| 2 | 登下校の安全 |
| 3 | 勉強についていけるか |
| 4 | 45分間授業を聞いていられるか |
| 5 | 先生との関係 |

(1) 保護者向けリーフレット「もうすぐ一年生」などの活用

※（就学時健康診断時に各小学校から配布）

保護者向けリーフレット「もうすぐ一年生」を活用し、家庭との連携を図り、子どもの育ちについての見通しや現状の課題を共有します。そして、その解決に向けての取組を家庭と共有します。

まずは、保護者の就労状況に合せた登園時刻と、学校の登校時刻（通学班の集合時刻）の違いを見直し、親子で「早寝・早起き、朝ごはん」を徐々に習慣にしていきましょう。

(2) 家庭教育の支援のための講演会や講座、家庭・学校連携シートの活用

草加市の家庭教育充実のための取組を積極的に案内したり、教員・保育士が保護者へするアドバイスの質を高めるために情報を収集したりします。

【子育て講演会】

子どもへの適切な関わり方や生活習慣を見直すきっかけとなる講演会

【家庭・学校連携シート】

子どもの就学に対して不安を抱える保護者と小学校との面談のきっかけとなる連携シート

【保護者向け「親の学習」講座】

小学校入学や中学校進学之机会をとらえて行う、保護者を対象とした家庭教育支援のための講座



(3) 保護者と小学校との連携

保護者会や個人面談などで、保護者に小学校入学までの生活の見通しを伝えます。就学に向けての保護者の不安に対しては、直接、連携先の小学校の管理職や担当者から話を聞く機会を設けたりします。

【視点5】 きまりへの適応と安全への配慮

幼児期には、保育者や友達との集団生活を通して、直接的な体験を重ねながら規範意識や道徳性が形成されていきます。その際、幼児が保育者との信頼関係に支えられ、友達との関わりの中で自分の思いが相手に受入れられた経験や、葛藤を乗り越えたり気持ちに折り合いを付けたりして、気持ちよく遊んだ経験を重ねていくことが大切です。

幼児は遊びの中で、相手に応じてルールをつくり変えたり、仲間と一緒に楽しめるように特別なルールをつくったりするようになります。また、5歳児後半頃になると、それまでの生活を振り返ってきまりをつくるようになります。こうして、自分たちでつくったルールは、その必要性が実感できるので、お互いに声をかけ合いながら守るようになっていきます。

また、使ったものをきれいに洗ったり、拭いたりして元に戻すなど、みんなで使ったものを大切にする行動や、その行動と人から感謝される経験とが重なると、次に使う人の気持ちを考えるなどの道徳性が広がります。

こうした育ちは、義務教育以降の集団生活の中で、相手の気持ちや状況を考えたり、自分の行動を振り返ったりしながら、自分の気持ちを自立的に調整し学校生活を楽しくする姿へとつながっていきます。

さらに、新しい環境に身を置いたとき、そこでの人との関わりから、必要な習慣やルール、きまりなどを理解し、自分の欲求を抑えながら守ったり、よりよく見直したりするようになっていきます。そこで、次の3点を意識しましょう。

（１） 規範意識や道徳性を高める

集団生活の中で、共同で使うものを大切にすることや、順番やきまりなどを守ると楽しく過ごせる経験を積み重ねることで、きまりの必要性や大切さを感じながら身に付けられるようにします。そのためには、一日の園生活を振り返らせ、幼児たち自身でどうすればよいかを考える機会を設けましょう。

（２） 安全に気を付けて生活する

園外保育や遠足などでは交通ルールを守って歩いたり、車や自転車、人の動きなどに注意を払いながら横断歩道を渡ったりする経験をさせましょう。

（３） 道徳性を高める

公共の施設や交通機関を利用する中で、園での生活の仕方と公の場での行動の仕方の違いについてみんなで考えましょう。

【視点 6】 小学校との円滑な接続への工夫

園では、5 歳児後半の幼児が活動する姿から、その内面の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目でとらえるとともに、効果的な支援、関わり方などと一緒に小学校へ伝えることが大切です。

例えば、降園時の活動で担任の話を聞けることを、そのまま「人の話を聞くことができますよ。」と小学校へ伝えると、小学校の先生は帰りの会などで”先生が話し始めると子どもは聞く姿になる”と考えます。しかし、実際には「お口チャック!」「静かにしなさい!」など、声高に注意喚起することになります。

こういったことのないように、幼児期における育ちの過程やそのときの支援や関わり方、働きかけ（環境構成の工夫・配慮など）についても小学校に理解してもらうことが大切です。（詳しくは、P31 を参照）

幼保小における子ども同士の交流は、こういった指導の共有にもつながるので、次の内容も改めて確認してみましょう。



（１） 小学校との組織的な連携（目指す「子どもの姿」の共有）

小学校区内の幼稚園・保育園・認定こども園、小学校で「目指す子ども像」の共通理解を図ります。特に、小学校入学時期の子どもの姿の具体的なイメージとその内面の育ちや支援などについても共有します。

そのためには、組織的・計画的で積極的な連携を行い、幼児の活動する姿と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点でとらえた幼児の内面の育ちを、幼保小の教員・保育士が共有することが大切です。「〇〇中学校区連絡協議会」「〇〇小学校区合同研修会」等への参加は、子どもの育ちを共有するチャンスです。

(2) 小学校の見学

園外保育の際、連携先の小学校に立ち寄り、意図的に施設を利用したり、校庭での授業を見学したりしましょう。子どもたちに、小学校の日常の雰囲気を味わわせることで、小学校入学に対する不安がやわらぐとともに、意識が持続します。

具体的な5歳児の姿を知りたい。⇒ P 8 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

⇒ P 33 3 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？





③改善（Check：12月～3月）

子どもの育ちを確認し、期(5歳児 1・2・3月)の計画を改善しましょう。

「六つの視点」を取り入れながら実践できたら、ここまでの幼児の姿から内面の育ち見つめ直し、保育の成果と課題などを振り返り、それを踏まえて、年度当初に立てた5歳児 1・2・3月の計画を改善しましょう。

保育を振り返る

☐ 保育記録を収集する。

【収集する記録の例】

園内研修の記録、事例、ポートフォリオ、写真・映像など。

☐ 内面の育ちをとらえる。

【内面の育ちの視点】

幼児の遊びや活動の様子から『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を視点に『成長著しいところ』と『成長を期待するところ』をとらえる。

内面の育ちのとらえ方の参考例

⇒ P33[3幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは?]

計画の改善

☐ 卒園・小学校入学当初の具体的な姿のイメージする

【イメージの例】

保育目標から目指す幼児の姿や年度当初の小学校授業参観時、小学校との交流の姿など。

☐ 5歳児(1・2・3月)の計画を見直す。

【保育の改善】

『成長著しいところ』と『成長を期待するところ』をとらえる。その子らしく自己を発揮している場面の中で、成長を期待するところがさらに伸びるよう環境の構成を工夫したり、支援や関わり方を考えたりする。

P.30
④ 検証へ

<保育を工夫する六つの視点>を知りたい。⇒ P 18～24 ②実践



保育の充実に向けて改善を踏まえた期の計画の例①

5 歳（10・11・12 月）

幼児の姿	● 楽しそうな遊びに加わったり、共通の目的をもった友達に関わったりするなど、交友関係の広がりが見られる。 ● 様々な行事に意欲的に取り組む中で、いろいろな意見を出し合いながら遊びを進めていくようになり、自分の力を発揮し、友達と一緒にやり遂げる。 ● 運動会を思い出し、練習などに意欲的に取り組む。チームでの対抗に一喜一憂する。 ● 「なわとびを跳んだ回数」や「逆上がりができる」「うんていを渡る」といった、自分の課題に挑戦したり、友達と順位を競ったり、クラス全員ができるようになるまで応援したりする。
ねらい	● いろいろな遊びや全身を使う運動に興味をもって取り組み、最後までやり通そうとする。 ● 自分の経験したことや考えたことを相手に分かるように言葉で表現する。 ● 絵本や物語、音楽に親しみ、ごっこ遊びや表現遊びを通してイメージや創作活動を豊かにする。 ● 身近な環境や自然に積極的にに関わり、生活に取り入れようとする。
経験させたい内容	● 戸外で友達と一緒に体を動かして遊んだり、危険な場所や行動が分かり、意識して安全に行動したりする。 ● 遊びの場を整えたり、遊びに必要なものを工夫して作ったりする。 ● 友達との関わりや生活を通して、きまりの必要性や大切さが分かり、約束したことを守ろうとする。 ● 自分で必要性を感じながら、園やクラスのものを片付ける。 ● 秋の自然物を積極的に遊びに取り入れたり、物の仕組みに関心をもって使ったりして生活を豊かにする。 ● 絵本や物語などに興味をもち、見たことや聞いたこと、感じたことを友達と話したり、遊びの中に取り入れたりして、心を通わせる。
環境の構成と援助	● 今までの経験をいかして自分なりに目標を見出したり、試したり、工夫したりすることができるような道具や遊びを用意する。 ● 運動会やお楽しみ会などの行事を通して、クラスの友達と話し合い、見通しをもって遊びを進めていく経験ができるようにする。 ● ドッジボールや大なわとびなど、大勢の友達と一緒に全身を動かして遊ぶことへ誘う。 ● 小学校や小学生に親しみの気持ちをもてるよう、積極的に小学校に出かけたり、小学生と交流の機会をもったりする。 ● 木の実や木の葉、砂などを使って遊んだり、紅葉を見たり、落ち葉を拾い集めたりする中で、季節の変化に気付き、自然を楽しめるようにする。 ● 就学に向けて、一人一人の育ちを確かめ、家庭と課題を共有する。



ここにある全ての内容を
“必ずやらなければいけない”
ということではありません。

ぼくたちの園に合わせて必
要な内容を参考にすればいい
んだね。



保育を工夫する六つの視点

見通しをもって生活や遊びを進める	●活動の切替と同時に気持ちの切替もできるように、一つ一つの活動に見通しと、期待をもって取り組めるようにします。 ●カレンダーや模型の時計等を活用し、月・日にち・曜日・時間の流れ、数字や文字に対する興味・関心を高めます。
活動や活動内容の工夫	●就学時健康診断を境に、就学に向けて何事にも意欲的に取り組み、自己を発揮する姿や自己を抑制する姿を支援します。 ●季節ごとの自然の素材やその性質、ものの仕組みを遊びにいかすことができるようにします。 ●友達と互いに表現し合いながら、歌や動き、描画、言葉など様々な表現の面白さを感じることができるようになります。 ●運動会をきっかけに、外で体を動かす気持ちよさや楽しさ、心地よさを味わえるようにします。
人との関わり	●親しい友達と考えを出し合いながら遊びを進め、一緒に心を通わせたり、やり遂げたりする経験を積み、人間関係を深められるようにします。 ●行事などを通して、仲間と協同して目的を達成したり、競ったりする経験を味わわせます。
家庭や小学校との連携	●「もうすぐ1年生」や子育ての目安「3つのめばえ」を活用し、家庭と連携をとり、子どもの育ちについて課題と見通しを共有します。 ●家庭との連携を図り、「家の仕事を任せる」など自己肯定感（自分は大切な存在であると思える心の状態）を味わわせる経験を積み上げます。 ●「子育て講演会」を積極的に案内し、保護者の意識を高めます。
きまりへの適応と安全への配慮	●公共の施設を積極的に利用し、あいさつの仕方や利用マナーについて考えさせます。 ●「良いことと悪いこと」「安全なことと危険なこと」について自分で考えて行動する気持ちを育てます。 ●用具の安全な使い方を身に付けさせます。 ●共同で使うものを大切にすることや、必要性を感じながら進んで整理整頓する気持ちを高めます。
小学校との円滑な接続への工夫	●園外保育の際、連携先の小学校にトイレ休憩に立ち寄ったり、交流の際、積極的に小学校に出かけたりするなど、主体的に小学校に関わるようにします。 ●園の懇談会に小学校教諭を招くなど、保護者と小学校の「顔が見える関係」を築きます。 ●幼保小中情報交換会などで「目指す子ども像」の共通理解を図ります。

保育の充実に向けて改善を踏まえた期の計画の例②

5 歳（1・2・3 月）	
幼児の姿	●友達と一緒に必要なきまりを自分たちで作り、友達と教え合うなどして、それを守って遊ぶようになる。 ●遊びの継続時間が長くなり、じっくりと取り組むようになる。集団遊びの楽しさを感じるようになり、友達の輪の中に自分から入れるようになる。 ●卒園を意識して生活発表会に意欲的に取り組み、自分の意見を出し合って、自分たちで劇の道具を作ったりセリフを変えたりするようになる。 ●クラスみんなで一緒に活動し、力を合わせてやり遂げる喜びを味わえるような生活の中で、集団としての意識が高まる。
ねらい	●保育者や友達と目的を共有し、相談しながら見通しをもって進める。 ●目的や課題に向かい、根気強く取り組んだり、工夫したりしてやり遂げた喜びを味わう。 ●冬の自然現象に興味をもち、見たり試したりする。 ●小学校入学を喜び、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人々への感謝の気持ちを抱く。
経験させたい内容	●友達と一緒に同じ目的に向かって活動に取り組み、保育者や友達と相談したり工夫したりしてものごとをやり遂げる。 ●生活の中で標識や文字の必要性に気付く。 ●音楽に親しみ、イメージを歌・楽器や体の動きなどで表現する。 ●共同で使う遊具や用具を大切にする。 ●生活に必要な物を工夫して描いたり作ったりする。 ●感謝の気持ちを身近な人に伝えようとする。
環境の構成と援助	●1日の生活の流れを意識して、活動できるようにする。 ●生活発表会など、友達とイメージを共有し、見通しをもって取り組むことで、クラス全体でやり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。 ●卒園の記念品づくりや卒園式までの準備などは、各自が思いを込めて取り組めるように計画し、園生活最後の時期を、充実感をもって過ごせるようにする。 ●小学校を見学したり、小学校の先生の話の聞いたりして、小学校入学への期待感と自覚を高める。 ●霜柱や氷、雪など冬の自然事象に気付かせ、触れて遊ぶ中で、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるようにする。 ●就学に向けて、一人一人の育ちを確かめ、家庭や小学校との連携を図る。

保育を工夫する六つの視点

見通しをもって生活や遊びを進める	●卒園の近い時期には、小学校での生活に配慮して、クラス全員で活動することも意識的に取り入れるようにします。 ●登降園時の活動や当番活動、昼食の準備・片付けなど、1日の生活の流れが分かって、自分から進んで行動できるようにします。
活動や活動内容の工夫	●保育者や友達と目的を共有し、役割を分担して一緒に遊ぶ中で、充実感や達成感を味わい、意欲的に生活できるようにします。 ●季節ごとの自然の素材や自然現象などを遊びに取り入れ、自然の不思議さを十分に体験できるようにします。 ●友達と遊ぶ中で、考えたり試したり工夫したりする経験が十分にできるようにします。 ●友達と互いに表現し合いながら、歌や動き、描画、言葉などさまざまな表現の面白さを感じることができるようになります。
人との関わり	●友達と一緒に生活する中で、互いのよさを分かり合い、信頼関係を十分に築くようにします。 ●小中学生と関わる中で、就学への憧れを抱けるようにします。 ●行事などを通して、年少児や地域の人々と関わる企画を設け、いろいろな人に親しみをもてるようにします。
家庭や小学校との連携	●基本的な生活習慣を身に付け、自分でできるように、家庭と連携を取り、子どもの育ちを確かめます。 ●保護者会や個人面談などを行い、保護者に小学校入学までの生活の見通しを伝えます。 ●保護者の不安に対しては、小学校と連絡を取り合って対応できるように園の体制を整えます。
きまりへの適応と安全への配慮	●友達とともに気持ちよく過ごすためにはルールが必要なことが分かり、守ろうとする気持ちを育みます。 ●友達とともに生活する中で、自分の気持ちを伝えたり、時には折り合いをつけ自分の気持ちを調整したりする経験できるようにします。 ●お別れ遠足などの園外保育では、交通ルールを守って行動することや公共の場での行動の仕方などを知らせます。
小学校との円滑な接続への工夫	●小学生と交流することを通して、憧れの気持ちを抱かせ、小学校生活に期待をもてるようにします。 ●学校見学や学校体験を通して、小学校の施設や生活の様子を知り、入学への期待と自覚をもてるようにします。 ●幼児期における指導の経過を要録にまとめ、小学校へ引き継ぎます。「もうすぐ1年生」や子育ての目安「3つのめばえ」を小学校と共有し、子どもの育ちを確かめます。

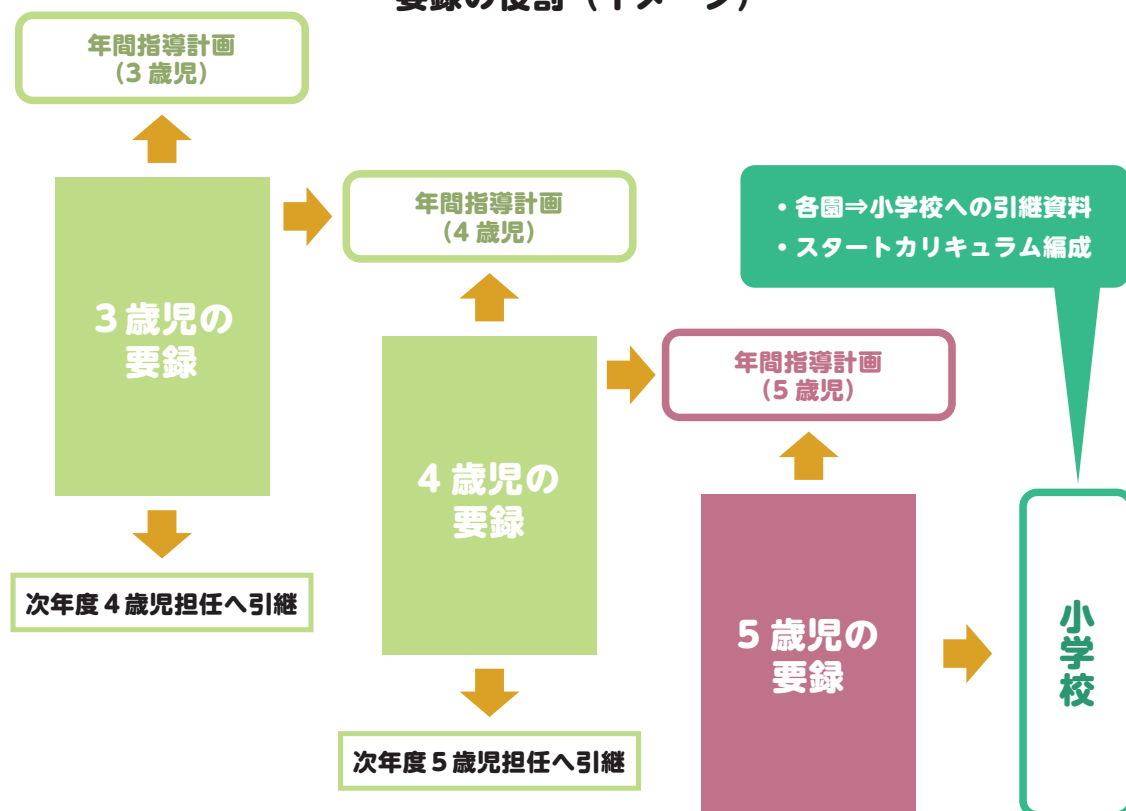


④検証 (Action : 3月)

要録と次年度5歳児の年間計画の作成にいかしましょう。

年度末には、要録を作成します。ここで気を付けたいのが、**3・4歳児の要録と5歳児の要録では、主な役割が異なる**ということです。このことを理解して要録を作成しましょう。

要録の役割 (イメージ)



【3・4歳児の要録の役割】

- ① 次の担任への引き継ぎ資料としての役割
- ② 3歳児又は4歳児の年間計画改善のための参考資料としての役割

主に、園内の教職員同士が、情報を共有するための資料になりますね



【5歳児の要録の役割】

- ① 次年度5歳児の**年間計画**作成の資料としての役割
- ② 園外に出る資料として**5歳児修了を証明する役割**、小学校へ引き継がれる公簿としての役割
- ③ 小学校入学当初の**スタートカリキュラム**編成の際に参考となる資料としての役割

このことから、5歳児修了年度の要録の作成（特に、指導に関する記録や保育に関する記録）に当たり、小学校等の1学年児童の適切な指導にいかせるものとなるよう、次に示す二つのことを記録することが大切です。

- ① 幼児の生活や活動の様子について、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に照らして、内面の育ちを記録すること。
- ② 内面の育ちを支えた指導の過程と方法をあわせて記録すること。

併せて、次の例も参考にしてみましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を視点とした内面の育ち

園では降園時の活動で保育者の話を聞く場面があります。この姿を目の当たりにした小学校の教員は、『先生の話聞く子が育っている』ととらえます。



5歳児後半の幼児たちが、先生話を聞いています。

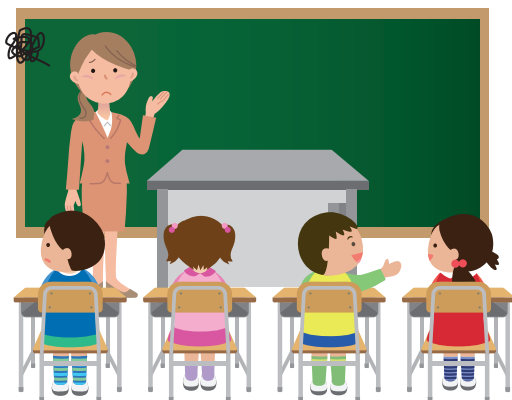


すごい！小学校入学前から、話をよく聞ける子どもたちだなあ。



小学校入学後、担任は、授業や帰りの会で子どもたちに向かって話を始めます。

この子たちには『先生話を聞く力』が育っているから、小学校でも先生話をしっかり聞けるはずだ！



ところが…

子どもたちが落ち着かないな…。就学前の雰囲気と何か違うぞ。



子どもたちは、よそ見をしたり、手いたずらをしたり、近くの友達とおしゃべりをしたり…。なかなか、先生話を聞きくことができません。この違いはいったい何でしょう。

実は、前ページのイラストのように、園生活の中で『先生の話聞く姿』には“**保育者の見えない工夫**”が隠れているのです。主に、次の3点をおさえることが重要です。

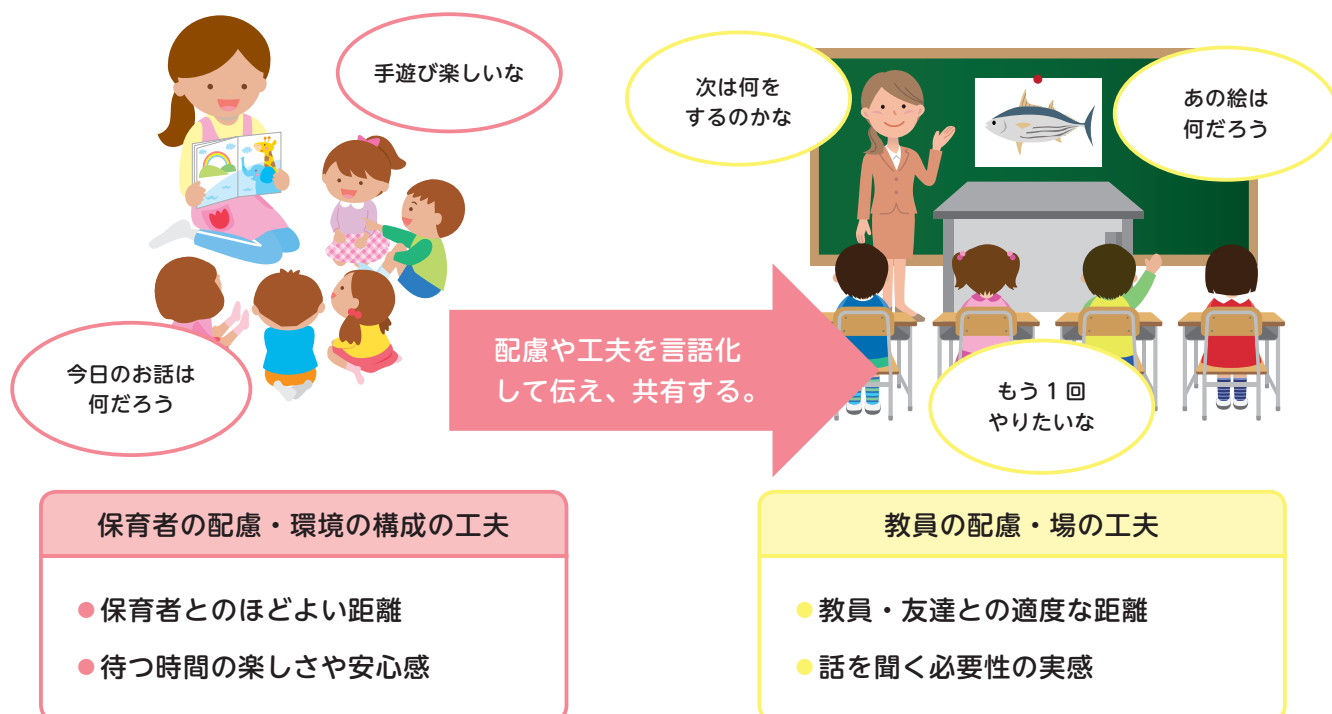


【ここでの“見えない工夫”とは】

- ① 『自立心』や『言葉による伝え合い』に関する5歳児の内面の育ちが『先生の話聞く姿』を支えていること。
- ② 園では、帰りの支度のできた幼児から、保育者と手遊びをしながらみんながそろそろのを待ったり、紙芝居や絵本の読み聞かせをしながら心が落ち着く状況を作ったりしていること。
- ③ 保育者が幼児一人一人の顔を見渡せ、かつ、幼児からは保育者の顔がよく見えるような環境を構成していること。

主にこの三つが揃って『先生の話聞く姿』が実現しているということを、要録などにも記録して小学校の先生に伝えましょう。これだけでも、小学校側の教師のとらえ方のずれは解消していきます。

なるほど。『話を聞く幼児の様子』を**見ただけでは気付かない工夫**があったのですね。こうして教えてもらえると、小学校でもいかせますね。



関係法令では、アプローチカリキュラムの編成と実施に際して、小学校教育との接続に当たっての留意事項が示されています。

関係法令：幼稚園教育要領 第1章 第3節 5 (2)、保育所保育指針 第2章 4 (2)、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章 第2節 1 (5)

3 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？

(前ページまでを踏まえて、市内各園の子どもの様子を見てみましょう。)

対 象：

幼

保

小

中

次ページからの事例の読み方 ※見開きで参照してください。

保護者のねらいや思い…

保育士や教諭が、
どんなねらいをもっ
て遊びや活動を支援
しているか？

どんな育ちがある？

遊びや活動を通じて、
子どもたちにどんな力が
育まれたか。または育ま
れつつあるか。

例えば小学校では…

育まれた力が、小学校の生活や学習の
どんな場面でいかされるか。

アプローチカリキュラム
適用時期の年長児の姿
(遊びや活動)

《幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿》

複数事例記載している場合もあります。

5 年長児事例 2月・3月

保育者のねらい・思い…

- 友達と協力して、自分たちの力だけで探すことを通して、達成感を味わい、自信をもてるようになってほしい。
- ボールを探すという目的に向かって、言葉や文字、絵を活用して思いを伝えられるようになってほしい。

どんな育ちがある?

初めは、ボールがなくなったという事実に困惑するだけだった。友達と思いを共有する中で、次第に、解決策が思い浮かぶようになる。そして、呼びかけによって多くの友達が協力してくれたことや、作成したポスターの前に人だかりができる様子を見て、子どもたちは手応えを感じる。これが自信となっていく。

【②自立心 ③協同性 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現】



▲ドッジボールはみんなで大切に使おう!

(2月)

【クラスのボールがなくなった!】

A児「ドッジボールやろうよ!あれ?クラスのボールがない。」

B児「他の人にも探してもらおうよ。」

近くの友達に声を掛けながら探すが見つからない。

C児「幼稚園のみんなにも探してもらわない?」

D児「ひらがなを書いてお知らせしよう。」

E児「ボールの絵もあるといいんじゃない?」

こうして、一人一人がポスターを作るようになった。



【ポスターを作ろう!】

文字を書ける子は、ペンを持って字を書き始めた。

文字を書くことが苦手な子は、「る」ってどう書くんだ?」

と友達に聞いたり、ひらがな表を引っ張り出して、調べたりしている。

中には、文字の近くに絵を書き足す子もいる。

【ポスターが完成したよ】

B児「先生、窓に貼ってもいい?そうすれば、みんなが見てくれるよ!」

大勢が通る廊下側のガラス窓を使って、横一列に自分たちのポスターを貼り始めた。30枚以上のポスターがずらりと並ぶ。

多くの子が足を止め、保育室の前に人だかりができた。

C児「よし、みんなが見てくれてるぞ。」

【もう、なくさないからね】

結局ボールは見つからなかった。

どこか寂しそうな子どもたちの教室に園長先生がやって来た。

「みんなで力を合わせて、頑張って探しましたね。このボールを使っているんですよ。」

そう言うと、予備のボールを子どもたちに手渡した。

D児「園長先生、ありがとう!」

E児「遊んだあと、どうやって片付けるか決めようよ。」

A児「もうなくさないからね!」



▲ぜったいにボールを見付けるぞ!



▲ポスターをつくろう! ボールの絵があると、つい見ちゃうよね。

例えば小学校では…

教科名・単元名・小単元名 生活「がっこう だいすき」～たんけんでみつけたことをはなそう～

目標

・探検して見つけたことを、友達と伝え合うことを通して、学校施設や人、友達のことが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

① 見つけたことを文字や絵で表現し、友達に伝える。② 感想や意見を友達と伝え合う。

指導・支援

児童の思いを大切に、気づきをまとめる過程や、それを表現しようとする様子を称賛し達成感を味わわせる。





▲いっしょにお話をしていると、心がポカポカしてくるね。

（3月）

【わくわくデイホーム】

今年4回目のデイホーム訪問日が迫ってきた。

F児「おばあちゃん、元気かな。」

G児「どんなお話をしようかな。」

知り合いだった利用者の顔を思い浮かべながら、交流に胸をはずませる。

【おばあちゃんの手って…】

訪問日当日。

久々の再開に、子どもたちも利用者も自然と笑顔があふれ出る。

H児「おばあちゃんの手って、しわしわだね。」

利用者「いっぱい働いたからだよ。」

H児「そうなんだあ。」

K児「おじいちゃんはどうして髪の毛が白いの？」

利用者「おじいちゃんになると、白くなるんだよ。」

K児「え～。ぼくも白くなるのかな。」

子どもの素朴な質問に、にこにこしながら答える利用者。

子どもたちは、その手を愛おしそうそうにさすったり、両手で包み込んでいた。

【また来るからね！】

訪問時間が終わる。

L児「また、会いに来るね。」

M児「かぜ、引かないでね！」

元気にお別れの言葉をかける子どもたちに「小学校でもがんばってね。」「また、会いに来てね。」と、涙ぐみながら言葉を返す利用者。

後日、デイホームを利用して近所の方に手紙を書いて届けたり、買い物中に出会ったおばあさんに自分から挨拶をしたりする子どもの姿があった。

《幼児期の終わりまでに育ってほしい姿》

- ② 自立心 ③ 協同性 ⑤ 社会生活との関わり
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い ⑩ 豊かな感性と表現



どんな育ちがある？

5歳児が6・9・11・2月に近所のデイホームを訪問する。回数を重ねるごとに、互いの距離が縮まり、和やかな時間が過ぎていく。利用者の聞こえ方をうかがいながら、話す速度や声の大きさを変える子も見られるようになる。そうした変化を見て、真似をして会話をする子が出てくる。保育者が言わずとも、子どもたちは人との関わり方を体験を通して見出し、実践していくようになる。

【⑤社会生活との関わり ⑨言葉による伝え合い】

例えば小学校では…

領域名・題材名 総合的な学習の時間「考えよう みんなが生き生き暮らすまち」

目 標

・福祉体験等を通して、さまざまな立場の方から社会を見つめ、課題を見出すとともに、よりよい社会について考えることができるようにする。

- ① まちや施設的环境を見つめ直し、課題を見出す。
- ② 車いす体験やアイマスク体験、高齢者体験等を通して、さまざまな立場から社会を見つめ直す。
- ③ 課題解決に向けて情報を収集・整理し、伝え合う。

指導・支援

各教科との関連性を明らかにし、学習内容を実感を伴う理解につなげる。

4 スタートカリキュラム

対 象： 幼 保 小 中

5 歳児							小学校 1 年生				
4～9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8～3 月
	≪ 接 続 期 ≫ * 小学校就学に際し、特に配慮や工夫が必要な時期										
	アプローチカリキュラムによる指導 リーフレット「もうすぐ1年生」の配布・活用						スタートカリキュラムによる指導 幼児期の学びと育ちを踏まえた指導				
← 草加市幼保小中一貫教育プログラム 実践事例「幼保小をつなぐ取組」(P.70～79) →											

1 スタートカリキュラムって何ですか？

小学校において編成する

「**小学校入学当初の教育課程**」のことです。

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るため、特に、指導の工夫や配慮が必要な、入学当初から一学期終了までのカリキュラムを指します。



関係法令：小学校学習指導要領

・第1章総則 第2の4

「学校段階等間の接続」

・第2章各教科 第5節生活

第3「指導計画の内容の取扱い」1(4)

2 どんな効果があるのでしょうか？

重要

- ・幼児期の教育で身に付いた力を発揮させる。
- ・児童が主体的に小学校の生活や学びを創りだす姿を実現する。

接 続 期

幼児期の教育
5歳児10月～
アプローチ
カリキュラム

小学校教育
～1学期終了
スタート
カリキュラム

幼児期の教育で身に付いた力とは？ ⇒ P 33～43 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？

幼児期の教育において、資質・能力が一体的に育まれる幼児の姿の方向性として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。園ではこれを手掛かりに義務教育以降の子どもの育ちを見通して、5歳児後半の保育の充実が図られることになります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、「生活する力」「人と関わる力」「自ら学ぶ力」が一体的に身に付いて実現する姿でもあり、小学校以降、自立的に生活したり学んだりする力の基盤となるものです。

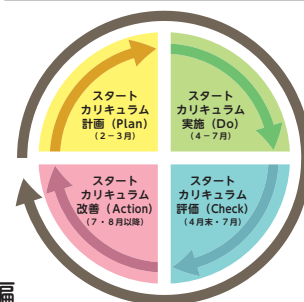
小学校では、児童がこの力を発揮し、主体的に生活や学びを創りだす姿を実現することが求められます。そのためには、教育原理や指導方法の違いを理解・尊重した上でのスタートカリキュラム編成・実施が必要不可欠です。

3 カリキュラムを編成・実施する時に気を付けることは何ですか？

スタートカリキュラム
編成・実施に求められるもの

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫
- 合科的・関連的な指導の積極的な実施
- カリキュラムマネジメントサイクルによる、スタートカリキュラムの質の向上

カリキュラムマネジメントサイクル



平成28年度には市内全ての小学校でスタートカリキュラムの編成と実施が行われています。今後は、学習指導要領等を踏まえて、スタートカリキュラムの質を一層向上させることが大切です。



▲ 年少さんとも優しく遊ぶよ！

▼ 園で獲れた野菜を数えて、みんなで分けよう！



▲ 給食準備もお手のもの！



園や家庭が育んだ、このような力を、小学校では、スタートカリキュラムを使ってどう伸ばして行こう？

4 スタートカリキュラムを編成してみましょう。



①計画（Plan：2月～3月） 準備と編成

幼児と園を知ろう・ねらいをもって編成しよう。

1 準備

校内の組織づくり

相互に意見交換できる組織をつくり、**カリキュラムの意義や考え方、ねらいを共有**しましょう。

- ・管理職
- ・スタートカリキュラム実務者研修会参加者
- ・教務担当
- ・連携担当者
- ・1年生担任
- ・音楽専科
- ・特別支援学級担任
- ・養護教諭 など



1年生に関わる教員の他、多くの目で見守るため、関係する教職員がチームを組むことが望ましいですね。

重要 就学予定児の育ちやこれまでの経験を把握する。

各園では、**遊びや生活を通して**幼児期にふさわしい保育・教育が行われています。特に、5歳児後半の保育では、ねらいを『**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**』を方向性として、**保育を充実させています。**

小学校では、**各園で育まれた力を引き継いで、小学校以降の生活や学習の基盤としていく**ことが求められます。

このことから、スタートカリキュラムの編成・実施に際し、新入児童の幼児期の育ちを的確に把握して反映させることが不可欠です。

知る

『**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**』を確認する。

幼稚園教育要領等に記載された『**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**』は、カリキュラムの編成だけでなく、小学校でも子どもの育ちを把握するために必須の視点です。

必ず、確認するようにしましょう。

見る

各園との交流・連携において、**幼児の実態**を確認する。



▲ 交流給食参観の様子

園と学校が行う交流給食、小学校教員の保育体験、生活科の交流などの機会に子どもの姿をよく観察・把握しましょう。

話し合う

情報交換会などを通じて、**要録に基づき、適切な成長に視点をおいて**幼児の育ちを把握する。



▲ 幼保小情報交換会の様子

幼保小合同研修会や連絡協議会で、保育者と教職員が子どもの実態やその育ちについて要録に基づき対面式で情報交換をすることが肝要です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、子どもの内面の育ちを知りたい。⇒ P 8 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」
⇒ P 31～32 2アプローチカリキュラム④検証
⇒ P 33 **幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？**

関係法令：幼稚園教育要領 第1章 第2節、保育所保育指針 第1章 4 (2)、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章 第1節 3 (2)

2 編成

既存のカリキュラムを見直す

カリキュラム編成の校内組織において、就学予定児の情報を組み込みながら、これまでに作成したカリキュラムや、ここに示す例を参考に、見直しを行います。その際には、下記のチェック項目を確認して行ってください。

スタートカリキュラムは
適応指導では
ありません！

スタートカリキュラムの例 4月 第1週の例

●単元・題材名等
◆学習活動

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	
ねらい	第 1 週 テーマ【 たのしいこと いっぱい ○○しょうがっこう 】(児童に示す) ねらい：友達との生活や活動を通して、きまりの必要性や約束を考えながら楽しく過ごす					
業前	「いきいき タイム」・あいさつ・健康観察					
活動内容		いきいきタイムがはじまるよ ・手遊び、リズム体操 (学年合同) ※教務担当、音楽専科等との関わり	いきいきタイム (学年合同) ・6 年生による校歌 ※ 6 年担任、音楽専科等との関わり	おはなしからばこ (読書活動) ・手遊び歌や読み聞かせ ※学習ボランティアとの関わり	いきいきタイム (学年合同) ・6 年生と一緒に「学校クイズ」 ※ 6 学年担任との関わり	
1		学活 (0.5 時間) (学年合同) ●「なかまづくり」ゲーム ・友達とゲームをする。 ◆ルールを守ってゲームを楽しく活動できることを知る。	音楽 (0.5 時間) (学年合同) ●みんなとうたおう ・友達と歌をうたう。 ◆友達と歌をうたう楽しさを味わう。	体育 (0.5 時間) (学年合同) ●いろいろななびかた (ゲーム) ・先生や友達の出す条件に合わせて遊ぶ。 ◆指示を聞き、友達と協力して並び方を考える。	体育 (0.5 時間) (学年合同) ●いろいろななびかた (ゲーム) ・ゲームをしながら、どう並べばよいか等を工夫する。 ◆学級、小集団でのきれいな並び方等を考える。 ・友達と並んで学校を歩く。	
		生活 (1 時間) ●いちねんせいのはじまるよ ・ロッカー、トイレ、流し等の場所を知る。 ◆個人で管理する場所や共有する場所の使い方を考える。	国語 (0.5 時間) ●みつけたものをはなそう ・登下校途中に会った人や見つけたものを話す。 ◆話し方、発表の仕方、返事の仕方、話の聞き方を学ぶ。	生活 (1 時間) ●ともだちとなかよくなる ・校庭で友達と遊ぶ。 ・友達と仲よく遊ぶためのきまりや約束を考える。 ◆校庭での遊び方を知る。	生活 (1 時間) ●ともだちとがっこうをあるこう ・保健室・校長室・職員室の他、音楽室・体育館など場所を知るとともに、会った先生にあいさつをしたり、話しかけたり、関わったりする。 ◆学校に関わっている人やその仕事に関心をもつ。	
		学校行事 (1 時間) ・靴箱・ロッカー・傘立ての場所を保護者や引率児童と一緒に確認する。	生活 (0.5 時間) ●がっこうに いこう ・自分と関わる人に気付く。 ◆通学路の様子、安全を守っている人に関心をもつ。	道徳 (0.5 時間) ●たのしいしょうがっこう ・学校に関わる人、自分たちに関わる人を知る。 ◆相手の状況に応じて適切な関わり方を振り返り、これからの関わり方を考える。	図工 (0.5 時間) ●いっぱいこう ・好きな食べ物や乗り物などを描く。 ◆色や形など自分のイメージで表現する。	国語 (0.5 時間) ●みつけたものをはなそう ・保健室・校長室・職員室の他、音楽室・体育館などで見つけたものを話す。 ◆話し方、発表の仕方、返事の仕方、話の聞き方を考える。
		学級活動 (1 時間) ・先生の話を聞く。 ・気持ちのよい返事をする。 ・下校の準備をする。 ◆あいさつや返事などの生活習慣を知る。	図工 (0.5 時間) ●いっぱいこう ・楽しかったことや見つけたものなど、描きたいものを想像しながら描く。 ◆クレヨンを大事に使うことを学ぶ。	生活 (0.5 時間) ●みんなでがっこうをあるこう ・保健室、職員室の場所を知る。 ◆クラスで歩くときの廊下や階段の歩き方を学ぶ。	算数 (0.5 時間) ●なかまをつくらう ・図工で描いたものの形や種類などに着目して、仲間分けをする。 ◆ものの形や種類などに着目して、仲間分けをする。	国語 (0.5 時間) ●いってみたいところややってみたいことをはなそう ・クラスや友達と一緒にやってみたいところややってみたいことを話す。 ◆自分の考えたことを発表する声、話し方などを自分なりに考える。
3		生活 (0.5 時間) ●いちねんせいのはじまるよ ・帰りの支度をする。 ◆やるべきことを自覚したり、どうすればよいかを考えたりしながら帰りの支度の仕方を知る。	国語 (0.5 時間) ●おはなしをきこう ・手遊びをする。 ・読み聞かせを聞く。 ◆読み聞かせの内容や感想を話し、友達と交流する。 ・帰りの支度	国語 (0.5 時間) ●じぶんのなまえをかこう ・自分の名前をさまざまな筆具で書く。 ◆鉛筆の持ち方を学ぶ。 ●おはなしをきこう ・読み聞かせを聞く。 ◆文字を使って相手に伝えたいことを考える。 ・帰りの支度	算数 (0.5 時間) ●いくつあるかな ・前日の仲間分けしたものを数えたり、あわせたりする。 ◆ものの個数を数えたり、あわせたりする。 ・帰りの支度	
		通学班編成・一斉下校 ◆安全な登下校の仕方を知る。	学年下校 ◆安全な登下校について学ぶ。◆安全を守ってくれる人を知る。◆保護者との連携を図る。			
4	■家庭との連携					

↓ 項目を確認し、✓を入れながら編成しましょう。

A 園や家庭が育んだ力を発揮できる場を設ける
この時期の子どもの育ちは、生活の安定から人との関わりが広がり、やがて学ぶ意欲が高まるため、小学校においても生活の安定につながる姿からスタートし、徐々に人との関わりに関するねらい、学びに関するねらいへと発展させていきます。 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を伸ばす カリキュラムを編成しましょう。
C 体と心を開放する活動からのスタートを意識する
園の生活では、心を開放したりする「遊び」から一日が始まります。入学当初、一日の生活のスタートに体と心を開放し、満足感や安心感を味わう活動を取り入れることで、落ち着いた気持ちで小学校生活がスタートするようにします。特に4月は担任外の先生を始め、多くの先生との関わりがもてるよう指導体制を工夫します。
E 時間割の弾力的な運用をする(モジュール学習)
生活科の中心に他教科との関連を図る中で、15分を単位として時間割を児童の興味・関心の広がりや高まりに応じて柔軟に対応できるようにします。

B 育てたい資質・能力を「目指す子どもの姿」に具体化し設定する
目指す子どもの姿が週の終わりに実現しなければ、次の週へ引き継ぐ といったように、1週間を単位とする長いスパンで実現を目指します。
D 生活科を中心に、柔軟かつ効果的に教科等の単元の配列を工夫する
児童の育ちや幼児期の経験に応じ、興味関心の高まりによって、さらに強い意志をもって目標の実現に継続していくような、細切れではなく、 ストーリー性のある学習 を取り入れます。 科学的・関連的な指導…次ページ参照
F 学校行事や学年行事などを時間割に組み込む
児童が行事に対して目的意識や必要性を感じながら臨めるよう、学びのストーリーに組み込むようにします。

スタートカリキュラムの編成では、この時期の子どもにふさわしい学び方をいかすために「合科的な指導・関連的な指導」を取り入れることが重要です。

合科的な指導

合科的な指導とは？

各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元などで、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するものである。

ポイント

- (1) 幼児期の遊びや生活経験を踏まえる。
- (2) 児童の思いや願いから出発し、活動を組織する。
- (3) ねらいの実現に向けた活動にストーリー性をもたせる。
- (4) ゆったりとした時間の中で学習を展開する。

留意点

- (1) 学校全体へ学習活動と学習内容を周知し、学習活動への協力と安全上の配慮について依頼をする。
 - ・特別教室の訪問や使用の承諾(活動のねらいを共有しておく)
 - ・休み時間の活動に対する他学年児童への注意喚起
- (2) 児童が主体的に安心して活動できるようにする。
 - ・子ども自身による目標の設定
 - ・一人一人の活動時間の確保
 - ・実態に応じた学習形態の工夫
 - ・教師の関わり方の工夫(共感的理解と意欲の喚起)

合科的な指導計画作成の手順

①

・児童の実態を把握する。

【実態把握の手掛かり】

経験してきた内容や児童の思いを発言などから把握する。(目指す「草加っ子」p28-35)

②

・合科的な活動を組織化する。

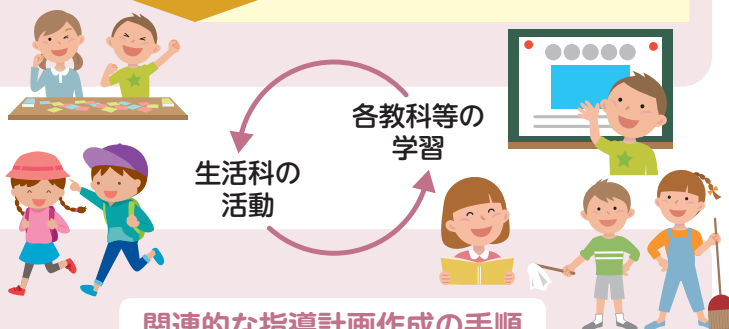
【組織化する要素】

児童の思いや願いの把握
単元のねらいと、それに迫るために必要な資質や態度複数の教科等の目標や学習内容をいかす。

③

・学習活動の時間の柔軟かつ効果的に配分する。

児童の興味・関心や活動の広がりを予測し、ゆったりとした活動にするための時間配分する。



関連的な指導

関連的な指導とは？

教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するものである。

ポイント

- (1) 幼児期の遊びや生活の経験を踏まえる。
- (2) 児童の思いや願いから活動を出発し、組織する。
- (3) 各教科等で学んだことを生活科の学びにいかす活動にする。
- (4) 生活科で学んだことを各教科等の学びにいかす活動にする。

留意点

- (1) 学校全体へ学習活動・内容を周知し、教職員に協力を依頼する。
 - ・時間割の変更などの調整
- (2) 子どもが見通しのもてる活動となるようにする。
 - ・子ども自身による目標の設定
 - ・各教科等の活動や評価との関連
 - ・教師の関わり方の工夫
 - (他教科への意欲の喚起、見通しをもたせる工夫)

関連的な指導計画作成の手順

①

・児童の実態を把握する。

幼児期の経験
小学校の各教科等で学んだ内容

②

・関連的な活動を組織化する。

児童の実態から児童の思いや願い
単元のねらいと、それに迫るために必要な資質や態度
複数の教科等の学習の成果と生活科の単元の目標との関連

③

・生活科で学んだことを他の教科にいかす計画を立てる。

4 実際のカリキュラムを見直してみましょう

市内の学校で、これまで実際に編成・実施されたカリキュラムを見直しながら、合科的・関連的な指導などについて考えてみましょう。



改善が必要なカリキュラムの例①（A小学校 4月第1週 スタートカリキュラム）

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
行事	入学式	特別日課④ 通学班会議・一斉下校	短縮②	短縮③	短縮③
ねらい	第1週 テーマ【 がっこうだいすき たのしい ○○しょうがっこう 】 ●1年生になったことを喜び、学校生活を不安なく過ごせる。				
1	行事（1時間） ●入学式 改善が必要①	国語（0.5時間） ●あさ ・あいさつや返事の仕方 ・話の聞き方 生活（0.5時間） ●学校のことが知りたいな ・トイレ、ロッカー、靴箱の場所と使い方 ・教室たんけん	行事（0.5時間） ●発育測定 国語（0.5時間） ●どうぞよろしく ・自己紹介 ・話し方 ・友達の名前を知る。	道徳（0.5時間） ●たのしいがっこう ・学校に関わる人々に関心を持つ。 ・道具の入れ方、学習の準備の仕方	生活（1時間） ●みんなでがっこうをあるこう ・廊下の歩き方 ・防災頭巾の使い方 ・保健室、職員室の場所を知る。
2	学活（1時間） ・返事の仕方 ・学校名・クラス・担任の名前を知る。 改善が必要②	体育（1時間） ●いろいろなならびかた ・着替える仕方 ・並び方（番号順・男女別） 生活（0.5時間） ●学校のことが知りたいな ・帰りの支度、手紙の折り方、しまい方	学活（0.5時間） ●あんな登下校 ・下校コースの並び方 ・安全な登下校の仕方 ・防犯ブザーの使い方 国語（0.5時間） ●みつけたものをはなす ・みつけたものを発表する。	書写（1時間） ●はじめに ・書く姿勢、鉛筆の持ち方 ・運筆練習、色塗り 改善が必要③	音楽（1時間） ●うたでなかよしになろう（一年生を迎える会の練習） ・楽しく歌を歌う。
3			グループ別下校	算数（0.5時間） ●なかまづくり ・観点や条件が同じ集合をつくる。	書写（1時間） ●はじめに ・自分の名前を書く。（はじめての名前）
4		行事（1時間） ●通学班会議・一斉下校		グループ別下校	グループ別下校 改善が必要④

改善が必要①

「○○の仕方」と、規律に関する指導に主眼が置かれています。入学2日目からこのような授業内容では、緊張が張りつめた生活のスタートとなってしまう、子どもは小学校生活に対して萎縮してしまい、自分らしく活動することができません。入学して間もない段階であることを教師が認識し、子どもの思いや願いを想像して、落ち着いた学校生活をスタートするきっかけとなる活動を取り入れる必要があります。

改善が必要②

この時期の子どもは園や家庭での生活で、ある程度、排泄に関する自立した姿があります。
子ども自身が分かっていることや、すでに身に付けていることを改めて指導する必要はありません。
園や家庭とのトイレの環境による違いを、子ども自身の力で乗り越えられるよう、教師は環境を整える必要があります。

改善が必要③

この時期の子どもの集中力は、活動する目的や学ぶ意味を感じるか否かが影響するものです。入学当初の子どもたちが知りたいこと、楽しみにしていることなど、心動かされていることをとらえ、子どもの思いに沿ったストーリー性のある学習活動にする必要があります。

改善が必要④

教師側の都合に合わせた活動するのではなく、子どもが必要感をもちような学びの機会にすることが大切です。
この場合、名前を書くことの意味や、自分の名前が書けることの必要性を実感する授業内容になっていません。



見直しをしたカリキュラムの例①（A小学校 4月第1週 スタートカリキュラム）

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
行事	入学式	特別日課④ 通学班会議・一斉下校	短縮②	短縮③	短縮③
ねらい	第1週 テーマ【 がっこうだいすき たのしい ○○しょうがっこう 】 ●1年生なったことを喜び、学校生活を不安なく過ごせる。				
1	行事（1時間） ●入学式 ・靴箱やロッカー、傘立ての位置などを6年生と一緒に確認する。	■がっこうのことがしりたいな 国語（0.5時間） ●どうぞよろしく ・自己紹介をする。 ・友達の自己紹介を聞く。 ◆声の大きさに気を付ける。	行事（0.5時間） ●身体測定 ・衣服の着替えをする。 ・保健室に移動する。	■がっこうのことがしりたいな 書写（1時間） ●はじめに ・すきなもののいっぱいの作品カードをつくる。 ・自分の名前を丁寧に書く。 ◆姿勢や鉛筆の持ち方を知る。 ◆学習の準備の仕方を考える。	■がっこうのことがしりたいな 音楽（1時間） 生活（1.5時間） 書写（0.5時間） ●うたでなかよしになろう ・一年生を迎える会の準備をする。 ◆みんなで楽しく歌を歌う。 ●みんなががっこうをあるこう ・廊下の歩き方を考える。 ・保健室や体育館などこれまでいったところのあるところ以外の場所に行く。 ・訪れた場所で見付けたものや出会った人等について話す。 ◆声の大きさに気を付けて話す。 ◆興味をもって友達の話聞く。 ◆もう一度、行ってみたい場所やあってみたい人、必要なものなどについて考える。
2	学活（1時間） ・返事の仕方 ・学校名・クラス・担任の名前を知る。	■がっこうのことがしりたいな 道徳（1時間） 体育（0.5時間） ●あかるいあいさつ ・あいさつリレーをする。 ◆気持ちのよいあいさつや声の大きさを考える。 ●いろいろならびかた ・ボール送りなどいろいろなゲームをしながら並び方を工夫する。 ◆まっすぐに並ぶことのよさに気付く。 ◆いろいろな並び方があることに気付く。 ※トイレに行く。	■がっこうのことがしりたいな 図工（0.5時間） 国語（0.5時間） ●すきなもののいっぱい ●この大きさをどうするの ・登下校中に見付けたものやあいさつを交わした人のことを描いたり話したりする。 ◆相手の話に興味をもって聞く。 ◆身近な用具に慣れる。	■がっこうのことがしりたいな 算数（1時間） ●かぞえてあそぼう ●なかまづくり ・観点や条件（先生の指示や拍）に合わせてグループをつくる。 ◆観点や条件が同じ集合をつくる。	●はじめに ・自分の名前の入った名刺を作る。 ●あんぜんに登下校 ・帰りの支度をする。 ・来週の予定を聞く。 ◆次の週の活動に期待をもつ。
3		生活（0.5時間） ●学校のことが知りたいな ・下校時の活動をする。 ・一日の活動をふり返る。 ◆帰りの支度を知る。	生活（0.5時間） ●あんぜんに登下校 ・帰りの支度をする。 ・前日の下校の振り返りをする。 ◆安全な登下校には交通ルールを守ることが大切であることを知る。	生活（0.5時間） 音楽（0.5時間） ●うたでなかよしになろう ●あんぜんに登下校 ・帰りの支度をする。 ・歌を歌う。 ・前日の下校の振り返りをする。 ◆下校時の活動を知る。 ◆一年生を迎える会の見通しをもつ。 ◆交通ルールを意識しながら安全に下校する。	
4		行事（1時間） ●通学班会議・一斉下校	グループ別下校	グループ別下校	グループ別下校

見直し①

心の安定＝落ち着いた学校生活のスタート

入学間もない児童は、「先生のことを知りたい」「友達のことが知りたい」「自分のことを知ってほしい」という思いをもっていることが予測されます。このことから、自己紹介のあと「○○さん、おはよう」「◆◆が好きな○○さんおはよう」等あいさつリレーを通して、子どもの思いに応える活動を取り入れます。

見直し②

適応指導から自己を発揮できる場づくりへ

トイレに花を飾ったり、用便の際の足の位置をペイントしたりするなど、環境を整えたり、汚したときには、園でどうしていたかを児童自身にそつと確認することで、児童自身がどうすればよいかに気付かせます。

見直し③

ストーリー性のある学習活動へ

子どもたちは、人との出会いや物との出会いなど、心動かされる出来事をさまざまな表現の仕方で伝え、共有する経験を積み重ねています。子ども一人一人が、自分なりに言葉や絵・動作を伴いながら先生や友達と思いを共有する場を設けます。

見直し④

学びをいかす

書写の時間に書いた自分の名前が作品カードになったり、学校探検で名刺として使ったりすることが分かったり、子どもたち自身で「間違えないように書かなきゃ」「きれいに書こう」と声を掛け合いながら学習を進めるようになります。このように、学んだことが実生活や次の学習にいかされる実感に伴うように工夫します。



改善が必要なカリキュラムの例②（B小学校 4月第2週 スタートカリキュラム）

ねらい 行事業前	第2週 テーマ【 せんせいだいすき たのしい ○○しょうがっこう 】 ●学校の施設やそれに携わるひとの様子が少しずつ分かりながら、小学校生活を楽しく過ごす				
	朝自習	体育朝会	こんにちは1年生の会	読書活動	朝自習
	改善が必要①				
1	国語 ●どうぞ よろしく ・相手に知ってもらいたいことを考え、自己紹介することができる。 2年生との対面式 ※2学年担任との関わり 改善が必要②	行事(0.5時間) ●じぶんのからだをしろ(身体測定) ・体操服に着替える。 ・名前を呼ばれたら、元気よく返事をする。 生活(0.5時間) ●こうていを あるいてみよう ・校庭を歩く。 ・固定遊具の使い方	行事 ●こんにちは1ねんせいのかい ・名前を呼ばれたら、元気よく返事をする。 ・プレゼント(アサガオの種)を受け取り、お礼を言う。	国語 ●どんなおはなしかな ・読んでくれた本を、写真や挿絵を見ながら、想像を膨らませて聞くことができる。 改善が必要④	生活 ●ともだちとがっこうをたんけんしよう ●こうていをたんけんしよう ・もう一度、学校で行ってみたい場所について話し合う。 ・探検の計画を立てる。
2	生活 ●ともだちと がっこうをたんけんしよう ・2年生とペアで学校探検をする。	国語 ●あさ ・「あさ」の詩を、教師の読みに合わせて音読する。	算数 ●なかまづくりとかず ・1個から5個までのものの数を数えることができる。	体育 ●遊具遊び「忍者になろう」 ・固定遊具の安全な使い方を知る。 ●かけっこ・リレー遊び ・かけっこやリレーを楽しむ。	国語 ●なんていおうかな ・相手に応じたあいさつの仕方や名前を呼ばれた時の返事の仕方を考える。 ●どうぞよろしく ・自分を紹介する名刺をつくる。
3	音楽 ●うたでなかよしになろう ・「うたでさんば」「ぞうさんのさんば」など友達と一緒に歌ったり、体を動かしたりする楽しさを味わう。	算数 ●なかまづくりとかず ・集合の要素の個数の多少を1対1対応の方法で比べる。	図工 ●しぜんとなかよし ・学校の校庭やビオトープなどの自然を利用し、自然の材料と関わりを深めて楽しむ。 ・施設の使い方(砂場の使い方やビオトープの観察の仕方)を知る。	図工 ●しぜんと なかよし ・学校の校庭やビオトープなどの自然を利用し、自然の材料と関わりを深めて楽しむ。 ※作品をデジタルカメラで撮影。	国語 学級活動(1時間) ・廊下の歩き方や、職員室の入り方を考えよう。
4	学年下校 ◆安全な登下校について学ぶ。 ◆安全を守ってくれる人へのあいさつの仕方を学ぶ。 ◆出迎えの保護者と連携を図る。 改善が必要③		学級活動 ●楽しい給食 ・給食の準備の仕方を知る。 ・配膳の仕方を知る。 ・食事のマナーを知る。	音楽【授業参観】 ●うたでなかよしになろう 学級活動 ●楽しい給食	生活(1時間) ●ともだちとがっこうをたんけんしよう
			給食開始	給食2日目	給食3日目

改善が必要①

子どもの視点に立つと、教師に一方向的に与えられた活動ばかりで、自発的・積極的に取り組むことができない時間割の編成となっています。園の生活同様に体や心を開放し、満足感や充実感を味わわせる活動から一日の生活をスタートする必要があります。

改善が必要②

子どもの興味・関心は、教師の予測を超えて、広がったり停滞したりするものです。このことから、45分間の授業時間にとらわれ過ぎていると、子どもの興味や関心、意欲などが低下し、効果的な学びの結実につながらない恐れがあります。

改善が必要③

初めから、「小学校の給食の準備の仕方」を説明したり、マナーについて一つ一つ確認をしたりするのではなく、まずは小学校の給食が楽しい時間だと思えるようにする必要があります。給食の時間を楽しいものとするための第一歩として、園や家庭での子ども自身の経験をいかすようにすることが大切です。

改善が必要④

学校探検自体が好奇心や探求心の湧く活動です。しかし、自分たちで「未知の何か」を見付け出す前に学校を案内されてしまうと、好奇心や探求心も半減されます。

「たんけん」の意味を子どもの視点でとらえ直し、子どもの立場に立ってどんな活動にすると、子どものよさが発揮され、学びの可能性が広がるかを考える必要があります。



見直しをしたカリキュラムの例②（B小学校 4月第2週 スタートカリキュラム）

第2週 テーマ【 せんせいだいすき たのしい ○○しょうがっこう 】					
●学校の施設やそれに携わるひとの様子が少しずつ分かりながら、小学校生活を楽しく過ごす					
いきいきタイム「あいさつ、健康観察、登校時（ランドセルの片付け方、傘のしまい方、連絡帳の提出場所の確認等）の活動」					
見直し①					
1	◆週の初めの支度を学ぶ 2年生との対面 ■がっこうのことがし りたいな ●なかよしゲーム ・ペアで自己紹介をする。 ・なかよしゲームをする。 ・手遊び歌をする。 2ねんせいと なかよしになろう 生活（1時間） 国語（1時間） 音楽（0.5時間） 道徳（0.5時間） ●どうぞ よろしく ・相手に知ってもらいたい ことを考え、自己紹介す ることができる。 ・自己紹介カードをつくる。 ●うたでなかよしになろう ・「うたでさんぽ」「ぞうさ んのさんぽ」など友達と 一緒に歌ったり、体を動 かしたりする楽しさを味 わう。 ●ともだちと がっこう を たんけんしよう ●はりきりいちねんせい ・2年生とペアで廊下を歩 いたり、職員室の前を歩 いたり、階段を下りたり する。 ・出会った人に興味をもっ ち、どうあいさつ知れば よいかわかる。 ・2年生と歩いて気付いた ことや、出会った人につ いて話す。	体育朝会 ・体操服に着替える。 ・静かに話を聞く。 ◆みんなの集まる場所では 静かにする。 行事（0.5時間） ●じぶんのからだをし ろ（身体測定） ・名前を呼ばれたら、元気 よく返事をする。 ■がっこうのことがし りたいな 生活（0.5時間） 国語（1時間） 算数（1時間） ●こうていを あるいて みよう ●あさ ・校庭と挿絵を比べて、見 付けたことや気付いたこ とを話したり、挿絵の人 物になって話したりする。 ・「あさ」の詩を、教師の読 みに合わせて音読する。 見付けたものの 塗り絵をする。 ※下絵を準備しておく。 ●なかまづくりとかず ・集合の要素の個数の多少 を1対1対応の方法で比 べる。	■がっこうのことがし りたいな 6年生との対面式 ・登校時の活動をする。 ・ペアで自己紹介をする。 行事（1時間） ●こんにちは1ねんせい のかい ・名前を呼ばれたら、元気 よく返事をする。 ・他学年と交流する。 ・プレゼント（アサガオの種） を受け取り、お礼を言う。 ◆出席番号順の並び方を学 ぶ。 見直し② 算数（1時間） ●なかまづくりとかず ・数量の大きさを表す数詞 と数字が対応し、1～5 個のものの数を数えるこ とができる。 ※業間に6年生と遊ぶ。 図工（1時間） ●しぜんとなかよし ・学校の校庭やビオトープ などの自然を利用し、自然 の材料と関わりを深め て楽しむ。 ・施設の使い方（砂場の使 い方やビオトープの観察の 仕方）を知る。	おはなしの森 ・手遊び歌をする。 ・紙芝居を観る。 ・読み聞かせを聞く。 ・想像を膨らませながら聞 く。 国語（1時間） ●どんなおはなしかな ・読んでくれた本を、写真 や挿絵を見ながら、想像 を膨らませて聞くことが できる。 見直し④ 体育（1時間） ●遊具遊び「にんじやに なろう」 ・固定遊具の安全な使い 方を知る。 ●かけっこ・リレー遊び ・かけっこやリレーを楽しむ。 ※業間に6年生と遊ぶ。 図工（1時間） ●しぜんとなかよし ・学校の校庭やビオトープ などの自然を利用し、自然 の材料と関わりを深め て楽しむ。 ※作品をデジタルカメラで 撮る。	がっこうを たんけんしよう ●好きなものを描く ●健康観察をする ●描いたカードを数える ・学級、小集団での並び方 や歩き方を知る。 生活（1時間） 国語（1時間） ●ともだちとがっこうを たんけんしよう ●こうていをたんけんし よう ・もう一度、学校で行って みたい場所について話し 合う。 ・探検の計画を立てる。 ●なんて いおうかな ・相手に応じたあいさつの 仕方や名前を呼ばれた時 の返事の仕方を考える。 学級活動（0.5時間） ・廊下の歩き方や、職員室 の入り方を考えよう。 国語（0.5時間） ●どうぞよろしく ・自分を紹介する名刺をつ くる。 生活（1時間） ●ともだちとがっこうを たんけんしよう 国語（0.5時間） ●なんていおうかな ・学校を探検する。 ・教室に戻り見付けたこと や、気付いたことを伝え 合う。 ・活動を振り返る。
	2	グループ別下校 ◆安全な登下校について学ぶ。 ◆安全を守ってくれる人へのあいさつの仕方を学ぶ。 ◆出迎えの保護者と連携を図る。 見直し③ 学級活動 ●楽しい給食 ・給食の準備の仕方を考え る。 ・力を合せて配膳をする。 ◆力を合せて給食の準備を する。 給食開始	音楽【授業参観】 ●うたでなかよしになろう 学級活動 ●楽しい給食 ・食事のマナーを知る。 給食2日目	給食3日目	

見直し① 体や心を開放する活動

園の生活では「好きな遊び」などの動的活動から一日が始まります。なぜなら、体と心を開放し、満足感や充実感が心が安定し、生活全体が落ち着くからです。第2週目でも、この視点を取り入れ、業前の時間を利用して、リズム遊びをしたり、歌を歌ったりするなど動的な活動を取り入れます。

見直し③ 交流・連携の成果をいかす

幼保小連絡協議会で、園の生活で取り入れていたことなどを把握し、子ども自身の力でできることは、任せ、見守り、見届けるようにします。6年生には全て配膳してもらうのではなく、1年生に任せたことを見守り、励まし、必要に応じてサポートしてもらうようにします。

見直し② モジュール学習

子どもの興味・関心の広がりや学びのストーリーを予測して時間割を弾力的に運用できるようにしておきます。

見直し④ 合科的な指導

2年生と学校探検を行うのではなく、2年生と一緒に活動していた場所から教室に戻るとき、少し遠回りをさせます。その際、子どもたちの廊下や階段の歩き方などから子どもの興味や関心がどこにあるかなど実態を把握します。これをもとに、金曜日に行ってみたい場所について話し合うなど、次の週に自分たちの力だけで学校探検する期待感をもたせながら準備をします。

合科的な指導とは？ ⇒ P 49 3 合科的な指導・関連的な指導



改善が必要なカリキュラムの例③（C小学校 5月第○週 スタートカリキュラム）

	月	火	水	木	金
業前	朝自習	生活朝会	運動会全体練習	読書活動	チャレンジタイム
1	図工 ●みてみていっぱい くったよ ・粘土の心地よい感触を味わいながら表現したいものをつくる。	国語 ●はなのみち ・教師の範読を聞き、大体的な内容をつかむ	体育（1.5 時間） ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。	算数 ●いくつといくつ ・7の構成を理解する。	■がっこうのことがしりたいな 生活（3 時間） ●みんなでつうがくろをあるこう ・通学路を歩き、その途中の自然や安全のための施設、人々の様子に関心をもち、安全に登下校ができるようにする。
2	音楽 ●はくをかんじてあそぼう ・「さんぽ」などの曲を聴いたり、歌ったり、体を動かしたりしながら、拍の流れを感じ取る。	学校行事（2 時間） ●交通安全教室 ・登校中の危険について話し合う。 ・安全に歩いて学校に行く道（通学路）を覚える。 ・登下校する時の歩き方を知る。 ・模擬道路を使って、安全な歩き方を練習する。	※運動会学年練習 音楽（0.5 時間） ●はくをかんじてあそぼう ・「運動会の歌など、拍の流れにのって、体を動かしながら歌う。	体育 ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。 ※運動会学年練習	【児童の予想される反応】 ◆田んぼにオタマジャクシがたくさんいるよ。 ◆ここにツバメの巣があるよ。 ◆大きな犬がいて、ちょっと怖いよ。 ◆信号がすぐ変わるから、急いでわたらないとダメだよ。 ◆私の通学路よりも、車がたくさん通って怖いね。
3	国語 ●はなのみち ・挿絵を手掛かりに場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。		道徳 ●じゃんけんぽん ・みんなで使う場で、気持ちよく活動し、約束やまわりを守ろうとする態度を育てる。	算数 ●いくつといくつ ・8の構成を理解する。	
4	算数 ●いくつといくつ ・5の構成を理解する。	国語 ●はなのみち ・教師の後に続いて、全文を音読する。 ・お話の内容を確かめる。	国語 ●はなのみち ・教師の後に続いて、全文を音読する。 ・お話の内容を確かめる。	国語 ●はなのみち ・好きな挿絵の場面を音読する。 ・みんなの前で自分の好きな挿絵（場面）のところに音読する。	国語 ●わけをはなそう ・探検カードをもとにわけを話す。
5	体育 ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。 ※運動会学年練習	算数 ●いくつといくつ ・6の構成を理解する。	体育 ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。 ※運動会学年練習	音楽 ●はくをかんじてあそぼう ・「さんぽ」「なまえあそび」など、拍の流れにのって、体を動かしながら歌う。 ・拍の流れを感じながら、なまえあそびをする。	算数 ●いくつといくつ ・9の構成を理解する。

改善が必要

改善が必要

この時期は、外部の指導者を招いての学校行事や、運動会に向けた学年練習のため、子どもの興味・関心、意欲に応じてある一定の活動時間を確保する時間割を編成することが難しくなります。

しかし、入学してまだ一か月であることから、引き続き十分な指導の工夫や配慮が必要な時期です。

この場合、局所的に行う運動会の練習自体は、幼児期の経験をもとに、運動会のイメージを共有し、意欲的に取り組むことができると思います。

それ以外の時間割では、例えば、算数「いくつといくつ」国語「はなのみち」など、それぞれの学習内容が子どもの思いや願いに直接つながっているとは思えません。

このような時間割を機械的に実行していくと、子どもの意欲を伴わない「受け身の学習」になり、学ぶ楽しさを実感しにくくなります。

生活科を中心とした指導の工夫には、「関連的な指導」があります。

例えば、この時期の生活科「みんなで つうがくろを あるこう」（以下、通学路探検）を中心に据えて、それと関連する内容を学級教科等を組み合わせて時間割を編成することで、45 分単位の授業でありながらも、子どもたちの学習意欲を維持することができます。



見直しをしたカリキュラムの例③（C小学校 5月第○週 スタートカリキュラム）

	月	火	水	木	金
業前	朝自習	生活朝会	運動会全体練習	読書活動	チャレンジタイム
1	図工 ●みてみていっぱいつくったよ ・粘土の心地よい感触を味わいながら表したいものをつくる。	国語 ●はなのみち ・教師の範読を聞き、大体的内容をつかむ。	体育（1.5時間） 音楽（0.5時間） ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。 ※運動会学年練習	●出発式 生活（3時間） 学級活動（1時間） ●みんなであそぶ ・通学路を歩き、その途中の自然や安全のための施設、人々の様子に関心をもち、安全に登下校ができるようにする。 【児童の予想される反応】 ◆田んぼにオタマジャクシがたくさんいるよ。 ◆ここにツバメの巣があるよ。 ◆大きな犬がいて、ちょっと怖いよ。 ◆信号がすぐ変わるから、急いでわたらないとダメだよ。 ◆私の通学路よりも、車がたくさん通って怖いね。 ●みんなでこうえんであそぼう ◆公園でお休みしよう。 ◆僕がよく遊ぶ公園だよ。 ◆ここで、バッタを捕まえたよ。 ◆このスーパーにお母さんと来るよ。 ●到着式	生活（1.5時間） ●たんけんでみつけたことをはなそう ・通学路を探索して見つけたものを絵にしたり、言葉に表したりする。 (探検カードの作成) 国語 ●わけをはなそう ・カードをもとにわけを話す。 国語（1.5時間） ●わけをはなそう ・探検カードをもとにわけを話す。 ・教科書をもとにできごととそのわけの話し方をまとめる。
2	音楽 ●はくをかんじてあそぼう ・「さんぽ」などの曲を聴いたり、歌ったり、体を動かしたりしながら、拍の流れを感じ取る。	学校行事（2時間） ●交通安全教室 ・登校中の危険について話し合う。 ・安全に歩いて学校に行く道（通学路）を覚える。 ・登下校する時の歩き方を知る。 ・模擬道路を使って、安全な歩き方を練習する。	生活（0.5時間） 道徳（0.5時間） ●カルタ遊びやなぞなぞ大会をしよう ・みんなで使う場所、気持ちよく活動するための、約束やきまりを考える	●みんなであそぼう ◆公園でお休みしよう。 ◆僕がよく遊ぶ公園だよ。 ◆ここで、バッタを捕まえたよ。 ◆このスーパーにお母さんと来るよ。 ●到着式	体育 ●表現・リズム遊び ・いろいろな動きづくり遊びをする。 ●かけっこ・リレー ・並び方、遊びの約束を知る。 ※運動会学年練習
3	国語 ●はなのみち ・挿絵を手掛かりに場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。				
4	算数 ●いくつといくつ ・5の構成を理解する。	生活（1時間） 道徳（1時間） ●おかしくないかな ・みんなで使う場で、気持ちよく活動し、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。	算数 ●いくつといくつ ・7の構成を理解する。		
5	学級活動 ●はなしあいのしかた ・話し合い「公園でみんなで遊ぶ遊びをきめよう。」	●つうがくろたんけん・こうえんあそび ・みんなで使う場で、気持ちよく活動し、約束やきまりをかるたやなぞなぞにする。	国語 ●はなのみち ・教師の後にについて、全文を音読する。 ・話の内容を確認する。	生活（1時間） ●たんけんでみつけたことをはなそう ・カードに見つけたものを書く	国語 ●はなのみち ・好きな挿絵の場面を音読する。 ・みんなの前で自分の好きな挿絵（場面）のところを音読する。

見直し

各教科の学びを、生活科の活動に

まず、通学路探検を中心に捉えます。校外学習は子どもにとって楽しく、うれしいもので、学習意欲の継続につながり、粘り強く取り組むものになります。次に学校行事です。校内で調整が可能なものは、他学年の理解を得ながら調整しておきます。（ここでは、木曜日に入っていた運動会の練習を移動させています。）交通安全教室は通学路の安全な歩き方につながるもので、行事への参加意欲が湧く活動になります。最後に、通学路探検のねらいを見通して、それと関連する内容の学習する教科を洗い出します。それらを、探検前後に組み入れ時間割を編成します。

生活科の活動を、各教科の学びに

探検後の振り返りの時間ですが、連休を挟むと興奮が冷めてしまうこともあります。天候などによる順延等は仕方ないところですが、なるべく、日を空けずに実施することが重要です。



②実践 (Do : 4月～7月)

「六つの視点」で工夫や配慮をしましょう。

編成したスタートカリキュラムを実践する際や、5月以降のスタートカリキュラム編成の際、次の六つの工夫や配慮を取り入れます。

〔視点1〕見通しをもって生活や学習を進める

幼稚園や保育園の一日から、小学校の一日へ、児童の気持ちをどう切り替える？

一日の生活を見通すための工夫

一日の生活の流れなどは、言葉による説明に加え、絵や写真などで視覚的に表したり、やっていることの続きがいつできるかを予告するなど、児童の理解と気持ちの切り替えを助けるようにします。

また、できている児童を評価することで、戸惑っている児童が誰をモデルとして行動すればよいかを分かるようにし、友達同士で声を掛け合えるよう支援します。

時間割の弾力的な運用

習熟に向けて繰り返して行う内容のものや午後の授業などは、学習内容や単元の特性だけでなく、児童の体調、気候、行事などを考慮に入れて、時間の区切りを15分程度の短い時間を単位とします。これにより、児童は活動に対して見通しをもち、集中して取り組むようになります。計画された時間にとらわれることなく、児童の様子を見ながら柔軟に対応していきます。



下記は、年長児が園で生活する中で見られた姿です。1つの遊びや活動の中に、たくさんの育ち（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等）が見とれますね。園からの要録も参考にして、この育ちをカリキュラムでも取り入れ、小学校の活動でも実践してみましょう！



みんなで飼ってるダンゴムシ、なんだか最近元気がない…
大きく元気に育ってほしいなあ…
どうしたら元気になってくれるかな？
(思いや願いの発露、思考力の芽生え、自然との関わり)



クラスのみんなも心配そうになって集まってきた！
エサが足りないそうだから、僕は葉っぱをあげよう！
お水が足りないからだと思う。僕は露吹きしてみるよ。
毎日みんなが交代で観察すれば、心配ないね！早く大きくなってね！
(協調性、言葉による伝え合い、生命尊重)

〔視点2〕授業や授業内容

刺激の多い小学校生活スタート。
新入児童の意欲や学び方を今後にかすには？

きめ細やかな支援・指導体制を築く

特に年度当初は、学級担任だけでなく、学習補助員や専科教諭等が学習補助に入ること、児童一人一人にきめ細やかな対応ができる体制を整えます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が発揮されている場面を評価

「自分でできることを自分でしようとしている姿」や「情報を取り入れ、解決に向けて様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出そうとしている姿」など、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を発揮している場面を特に評価します。

これは、「できないこと」「身に付いていないこと」などを個別に指導すること以上に重要です。自信をもたせることで「苦手なことにも挑戦しよう。」という意欲につながり、小学校の生活や学習に主体的に取り組むようになります。

体験的、経験的な学び方を重視

児童は、身の回りにあるものの性質やその面白さ、季節の自然物の性質や自然現象などの美しさ、不思議さに触れたり、それを遊びや生活に取り入れたりする経験が豊富です。異なる園から児童が集まった小学校では、この経験を振り返りながら児童同士が意見を交わす中で、新しい考えを生み出し、工夫したりして新たな学びをつくり出していく可能性を秘めています。

このことから、小学校は幼児期の教育の経験を把握し、各教科の学びに取り入れていくようにします。

【視点3】きまりへの適応と安全への配慮

幼児期には、体験や経験を通じて、必要感からルールや約束を決めたりする。小学校でもこの姿をいかすには？

規範意識を高める

園で身に付けてきたきまりやルールを守る姿を認めるようにし、さらに必要なものを児童自ら考えられるようにします。その際、特別活動や帰りの会などで児童が一日の生活や出来事を振り返る機会を設け、児童の思いや葛藤を把握したり、児童の生活を観察し必要に応じて話題を提供したりします。

安全指導の徹底

登下校や生活科等での校外に出での学習は、児童同士で互いに声を掛け合いながら自分たちの力で危険を予測し、安全に行動することが求められます。事前に、児童と安全な行動や交通安全教室などで学んだことを振り返ったり、確認したりします。

特に、きまりやルールは、命にかかわることや大きなケガにつながることを優先的に指導します。中・高学年の児童にも校庭での遊びなど安全に関する注意喚起を行います。

道徳性を高める

幼児期の道徳性をより確かなものにするために、友達と楽しく過ごす中で葛藤があったことを振り返ったりすることで自立心を育みます。

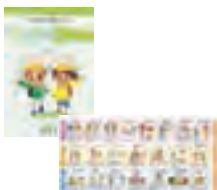
また、公共の施設や交通機関を利用し、公の場での行動の仕方や自立的に気持ちを調整する場面などを学校生活と比べて考えたり、考えたことを学校生活に取り入れたりします。

【視点5】家庭や園との連携

園の生活から大きく環境が変わる中で、保護者も大きな不安がある。家庭教育支援の方法は？

保護者向けリーフレット「もうすぐ1年生」などの活用

保護者向けリーフレット「もうすぐ1年生」をもとに、園は家庭との連携を図っています。このことから、懇談会や学級だより等の各種たよりを通じて、児童の育ちをとらえ、成長していることについて家庭へ知らせていきます。



子育て講演会、家庭・学校連携シート、保護者向け「親の学習」講座の活用

家庭・学校連携シートや保護者との面談をもとに行った支援や配慮が、小学校生活への適応につながっているかを確認し、その様子を保護者と共有することで、保護者への安心につながります。また、子育て講演会、保護者向け「親の学習」講座の実施など草加市の家庭教育充実の支援の取組を積極的に案内したり、教員も保護者へのアドバイスの質を高めるために内容について情報収集したりします。

幼保小連絡協議会の開催

小学校入学後、幼保小連絡協議会を開催します。幼稚園・保育園・認定こども園の教員・保育士等に授業を公開し、スタートカリキュラムの成果と課題や、前年度末の園からの引継いだことが、小学校教員の児童への関わり方などにいかされているかを確認する機会を設けます。

【視点4】人との関わり

複数園からの新入児童。小学校でも友達との活動を通じて互いを認め合う関係性になるには？

担任との円滑な人間関係の構築

登校時や健康観察時、下校時など、児童に個別に声を掛けたり、話し掛けてくる児童とやり取りをしたりしながら、担任と児童との信頼関係を築きます。それを軸にしながら、人間関係を広げられるようにします。

例えば、出身園が同じ児童同士でグループになって活動したり、リズム遊びを伴ったゲームで一緒に楽しむなど、共に活動する楽しさや、工夫し協力するよさを味わわせます。

友達と目標を共有して学ぶ

新しい環境で目にするものなどは、児童にとって、魅力的なもので、登下校で見つけたもの、挨拶を交わした人、学校施設のいずれも『もっと知りたい』などの好奇心をかき立てます。この気持ちを学習のきっかけとして、新しい友達と目標を共有したり、達成までの過程で互いに話し合い、認め合いながら学ぶ姿にすることが大切です。その際、児童自らの力で達成できるよう、時間の確保や、指導体制・学習環境の工夫を図ります。

他学年児童との交流や地域との交流

他学年との交流の際、一年生も主体的に活動したり、他学年との共同な活動にすることで、年長者に憧れの気持ちをもって関わるができるよう配慮します。また、学校応援団を活用し、地域の方との直接的な交流を行うとともに、学習後のお礼の手紙をきっかけにさらに関わりを深めていきます。

【視点6】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導

幼児期の教育から小学校教育へと移行していく中で、子どもの育ちは連続している。
小学校教育に引き継ぐとは？

重要

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を発揮して目標の達成に向かう活動

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫の一例を挙げると次のようなことです。入学当初に誕生日列車を目にした児童はこれまでの経験から、完成のイメージを友達と共有し必要なものや作る手順などを話し合いながら活動できます。描いた自画像の下に自分の名前を書くことにしたり、誕生日ごとに集まったり、誕生日順に並べたりするでしょう。これは健康な心と体や自立心といった育ちがあるから実現する姿です。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活動の中にいかにすることが大切です。

児童の思いや願いの実現に向けたストーリーを踏まえた学習

人やもの、自然などとの関わりを通して総合的に学ぶこの時期の児童の発達特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を積極的に取り入れるようにします。児童の思いや願いの実現に向け、活動の広がりや予測し、必要な教材や教具を準備したり、児童の願いの実現に向けて作業ができるよう特別教室の利用や余裕教室の環境を整備するなど、教室の外に出て活動する機会を設定したりします。ここでも、児童の興味・関心、活動の状況に時間割を柔軟に対応できるようにします。

指導要録・保育要録をいかす

入学後、児童にこれまで育まれた幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を最も把握できる資料は、園から提出された指導要録・保育要録です。

児童のこれまでの育ちを1年以上見守り記録してきた内容がまとめられていますので、入学後の児童の生活や学習の安定を目指した指導に十分いかします。



③評価（Check：4月末～7月）

実践を振り返り、児童の育ちを確かめましょう。

実施したスタートカリキュラムの検証を行いましょう。検証・評価した点を、学年全体で共有し、2学期からの指導につなげることが重要です。

誰が行うの？

5月以降、1学年担当で編成・実施したカリキュラムは、週ごとに検証し、翌週に検証結果を反映させます。

それに加え、1学期のスタートカリキュラム全体は、カリキュラム編成時に作った組織で検討しましょう。

1年生の担任だけでなく、多くの教職員の目で様々な視点から検討することが望ましいです。

①計画 1準備 校内の組織作りを参考にしましょう。⇒P 47



どんな視点で評価するの？

評価の 視点（例）

育てたい子どもの姿の状況

- ・学級全体、学年全体で設定した目指す子どもの姿に照らし、スタートカリキュラムの成果と課題をとらえる。
- ・校内組織の他、他学年の先生や保護者からの感想なども参考にする。

育てたい子どもの姿に沿った学習や場の工夫

- ・児童が幼児期の経験をいかす活動の展開になっていたかをとらえる。
- ・思いや願いに沿って、児童の力で学習課題などを解決し達成感や満足感を味わっていたかをとらえる。（2学期以降のカリキュラムにいかす。）
- ・必要な教材・教具の配置を始めとする学習環境等を見直す。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に照らした児童の内面の育ち

- ・運動会や授業参観（幼保小連絡協議会）などで保育者から児童への支援や関わり方についての情報を収集する。
- ・園から送付された要録に照らし、児童の育ちを確かめる。



④改善（Action：7月～8月以降）

2 学期以降の活動の充実と次年度のスタートカリキュラム編成

検証・評価したカリキュラムの成果について、具体的にどのように2学期の指導につなげるか検討します。併せて、次年度のカリキュラムの編成・実施に役立つよう改善し、次年度へ引き継ぎます。

1 学期までのカリキュラムの成果を2学期以降にいかす

交流・連携等に いかす

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点とした子どもの内面の育ちに関して、園と小学校との間で誤解や齟齬なく共有できるよう、情報収集や・意見交換をするポイントを整理しておきます。

小学校の生活や学習の様子について、幼児期の教育の成果としてとらえられるものを伝えます。



▲ 幼児と小学生が交流する様子

生活科を中心とした合科的・ 関連的な指導計画を立てる

2 学期以降、生活科を中心として教科等や単元の特性に合わせて、合科的・関連的な指導の計画を立てます。

さらに、立てた計画を関係する教科等の年間指導計画に反映させます。



▲ 校内の組織で指導計画を立てる様子

カリキュラムの改善点を次年度の編成にいかす

スタートカリキュラム評価を改善にいかすため、成果とともにデータベース化し、次年度に確実に引き継ぎます。

【データベース化する要素】

- スタートカリキュラム
- 1年生の年間指導計画
- 学習環境
- 学習の成果物

改善点を踏まえて、スタートカリキュラムを編成しましょう。⇒P 47 ①計画

5 幼保小中を一貫した教育の取組

対 象：

幼

保

小

中

1 - 1

一貫教育にふさわしい組織づくりに関する取組 中学校区幼保小中連絡協議会

時 期

毎月及び每学期初め

場 所

中学校 校長室、会議室

対 象

各園・各校の管理職、幼保小中一貫教育担当者等

ね ら い

- (1) 各園・各校の子どもの実態等をつかむ。
- (2) 「目指す子ども像」の共有と、指導等の方向性を共有する。

事前準備

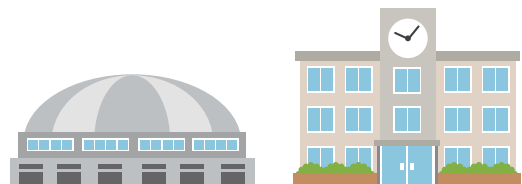
- (1) 課題等の実態を把握しておく。
【課題等を把握するための資料例】
学校評価、体力テスト結果等
- (2) 協議内容、交流・連携の計画
 - ①開催日程、交流内容について検討する。
 - ②検討事項は、事前に各校教職員に説明しておく。
- (3) 出席者・会場・役割分担を計画する。
- (4) 当日の配布資料を準備する。
- (5) 参加者への派遣文書を作成する。

当日の流れ

- (1) 開会・会場校長挨拶 (5 分)
- (2) 協議内容の確認 (5 分)
- (3) 協議① (30 分)
- (4) 協議② (30 分)
- (5) まとめ (10 分)
- (6) 事務連絡・閉会 (10 分) 【計 90 分】



▲管理職や実務者による今後の活動に向けた打合せ



内 容

- (1) 顔合わせ・自己紹介（年度初め）
- (2) 協議 1
 - ①各園・各校の保育・教育について情報を伝え合い、相互理解を深める。
 - ②目指す子ども像の実現に向けて、共通取組事項を検討する。
- 協議 2
 - ①既存の組織体制を見直し、各部会の部長会開催日を決める。
 - ②交流・連携の日程を確認し、具体的な打合せを進める。
- (3) まとめ
 - ①各園・各校の教職員に伝達することを確認する。
 - ②今後の連絡窓口、連絡手段を確認する。（年度初め）

効 果

- (1) 初回を年度初めに設定することで、年間の交流・連携の見通しがもてるようになる。
- (2) 中学校区としての課題をとらえることができ、各園・各校の交流・連携の充実につながる。
- (3) 子ども像を共有しておくことで、指導の方向性が定まる。
- (4) 定期的に開催することで、共通理解が図れる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 新年度に入ってからの日調整は難しいため、前年度中に管理職や担当者間で日時を決定しておく。
- (2) 5月中旬に開催される、「子ども教育連絡協議会全体協議会」で、前年度に行った日程調整の確認を行う。（市内全中学校区の幼保小中の代表者が集まるので）また、配付される資料で連絡先を確認する。
- (3) 第1回目の会議で、年間の会議の日程を組むと見通しがもて、計画的に会議が実施できる。

【計画事例】

前年度の連絡協議会等で、次学年の乗り入れ授業についての教科や連絡方法の確認、スタートカリキュラムの確認を行っておく。

日 時	場 所	参加者	備 考
5月11日（金）	記念体育館	園長・校長	子ども教育連絡協議会にて顔合わせ・自己紹介等
6月8日（金）	〇〇中学校	園長・校長	今後の会議の日程調整 目指す子ども像の確認
7月6日（金）	〇〇小学校	一貫担当	スタートカリキュラムの見直し、反省等 乗り入れ授業の実施状況の確認
9月7日（金）	〇〇小学校	園長・校長	2学期の交流・連携の確認
12月7日（金）	〇〇中学校	園長・校長	2学期の交流・連携の反省
2月12日（火）	高砂コミュニティセンター	園長・校長	子ども教育連絡協議会にて今年度の交流・ 連携の反省、来年度の日程調整等

1 - 2

一貫教育にふさわしい組織づくりに関する取組 幼保小中教職員合同研修会

時 期

夏季休業中

場 所

各教室、特別教室、体育館等

対 象

各園・各校の管理職、教職員

ね ら い

- (1) 教職員間の交流を図り、お互いの学校で行われている教育（教育方針・生徒指導の方針等）についての理解を深め、連携を図る。
- (2) 15年間を見通した、保育・教育の在り方を共通理解する。
- (3) 幼保小中の円滑な接続を目指すため、具体的な取組について協議する。
- (4) 園児、児童、生徒の実態や様子を把握し、よりよい指導の工夫につなげる。

事前準備

【会場・役割分担等の準備】

- ①日程、研修内容の概要について、各校の幼保小中一貫担当で検討する。
- ②具体的な研修内容について、各校の各部会担当で検討する。
- ③担当で検討したことを教職員に説明する。
- ④参加する全教職員が入ることのできる会場（体育館や多目的室など）を準備する。
- ⑤各分科会を行う会場（3部会の場合3教室）を準備する。
- ⑥全体会及び分科会の司会進行等の役割分担をする。
- ⑦式次第及び司会進行原稿を作成する。
- ⑧協議会の記録用紙を作成する。
- ⑨幼保へ連絡する。
- ⑩幼保の先生方、教員が、どの専門部会に所属するかを学校ごとに決めておく。



▲各園、各学校の教職員が研修へ参加

当日の流れ

【3時間で実施する場合】

- (1) 全体会（15分程度） ①校長挨拶 ②本日の研修についての確認
- (2) 分科会（70分程度）※移動5分
 - ①出席者自己紹介 ②各校の取組と課題について
 - ③今後の取組について（担当者より提案・質疑応答・協議）
- (3) 全体会（20分程度）※移動10分 ①各分科会から報告 ②指導・講評
- (4) 幼保小中を一貫した教育に関する講演、幼保小中の教職員の交流会（60分程度）

内 容

- (1) 組織
- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 校長 | 責任者として指導 |
| 教頭 | 各担当者への指導、校内、学校間の連絡調整 |
| 幼保小中連携担当者 | 主幹教諭又は教務主任、日程や内容の連絡調整 |
| 各部会担当者 | 各校の取組・課題をまとめる、
分科会での提案・運営・資料準備 |
| 各教職員 | 取組内容の実践 |
- 



▲部会に分かれて、テーマに関する協議

- (2) 各部会

【参考例】

例①

学び部会（学習）……主に授業等、学習面について検討する。

こころ部会（生活）…主に生活のきまりなどの生徒指導に関することについて検討する。

きずな部会（連携）…主に連携行事や園児、児童生徒の交流の場・行事の検討を行う。

例②

学力部会……………主に授業などの学習について検討する。

規律ある態度部会……主に生活のきまりなどの生徒指導関係について検討する。

体力部会……………主に体育的行事の連携や体育の学習について検討を行う。

效 果

- (1) 学校行事や生徒指導上の問題が生じた際、スムーズに連携することができる。
- (2) 交流を通して子どもの成長が分かり、生徒指導や教育相談等にいかすことができる。
- (3) 幼保小中が、お互いの課題を共有し、具体的な取組について話し合うことができる。
- (4) 幼保小中が発達段階に応じた子ども達への関わりを知ることで、小1プロブレムや中1ギャップ等の予防につながる。
- (5) 現状や課題について共通理解を図り、中学校区内の各園・各校の連携を進めることができる。
- (6) 各校種の違い（時間・担任・教科担任制・児童生徒の成長発達）と、共通点（子ども理解や育成すべき姿、内面の育ち）について共有することができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 前年度に研修会の日程を年間行事計画に位置付けておく。
- (2) 講演会や教育委員会の支援・指導を予定している場合は、事前に講師等へ連絡し、派遣文書を用意する。
- (3) 目的意識をもって研修会に参加できるように、打合せの内容についてあらかじめ校内で共通理解を図る。(各専門部会の取組・課題等を各部会担当者はまとめておく。)
- (4) 昨年度までの取組については、年度当初に校内で共通理解を図り、継続して取り組めるようにする。
- (5) 昼食交流等も含めて開催することで、職員同士の連携をより深めることができる。

1 - 3

一貫教育にふさわしい組織づくりに関する取組 幼保小連絡協議会

時 期

3 月

場 所

1 年生教室及び会議室等

対 象

- (1) 就学予定児が在籍する幼稚園・保育園等の園長及び 5 歳児担当教職員
- (2) 小学校長、1 年生担任及び担任外の教諭

ね ら い

- (1) 幼稚園・保育園等の教職員に、1 年生の授業を参観してもらうことで、小学校教育への理解を深めってもらう。
- (2) スタートカリキュラムの編成や実施、小学校入学当初の準備や正しい児童理解等のため就学予定児の情報交換を行う。入学予定の新 1 年生について情報を交換することで、新 1 年生が円滑に小学校生活へ慣れることができるようにする。

事前準備

- 12 月 中学校区内の幼稚園・保育園等へ幼保小連絡協議会開催の案内を送付する。
- 2 月 中学校区内の幼稚園・保育園等に参加者を確認する。

当日の流れ

- 13 : 30 幼稚園・保育園等の教職員が、来校する。
- 13 : 50 幼稚園・保育園等の教職員が、1 年生の授業を参観する。
- 14 : 35 幼稚園・保育園等の教職員と担任外の教諭が、入学予定の新 1 年生について情報を交換する。
- 15 : 30 1 年生担任も合流し、翌年度に向けて編成中のスタートカリキュラムと、各園の要録の読み取り方について協議を行う。
- 16 : 30 閉会

内 容

- (1) 幼稚園・保育園等の教職員に1年生の5時間目の授業を参観してもらう。参観の際に生じた疑問については、後の協議の時間で答える。
- (2) 5時間目終了後、1年生担任が下校指導をしている間に、担任外の教諭が幼稚園・保育園等の教職員と情報交換を行う。1園につき、教諭が1～2名ずつ担当し、園毎に分かれて行う。
- (3) 協議には1年生担任も参加する。まず、翌年度に向けて編成中のスタートカリキュラムについて、幼稚園・保育園等の教職員の立場から改善のアドバイスをもらう。
- (4) 次に、幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園園児指導要録に基づき、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目に照らし、就学予定児の育ちの様相や成長著しい点、保育者が特に大切にしてきた意欲を高めるなどの支援や関わり方等の情報交換をする。

効 果

- (1) 卒園から1年後の子どもたちの成長した姿を幼稚園・保育園等の教職員が見ることで自園の保育の見直しにつながる。
- (2) 入学予定の新1年生の情報交換を学級編制や入学後の指導にいかすことができる。
- (3) スタートカリキュラムについてアドバイスしてもらうことで、よりよいスタートカリキュラムへと改善することができる。
- (4) 小学校の教職員が適切に児童理解する力を高めることや、お互いの教育に対する理解を深めることができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 中学校区の連絡協議会等において幼保小連絡協議会の日程を決定しておく。
- (2) 当日までに、1年生担任及び教務主任等で翌年度のスタートカリキュラムの検討を行っておき、課題を明らかにしておく、有意義な協議につながる。
- (3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園園児指導要録の概要について、校内研修等で取り上げて、全教職員が基本的な知識をもてるようにする。
- (4) 幼保小、それぞれの担任者が対面式で情報交換を行うようにする。
- (5) 「個人情報保護」の観点から交換する情報の取扱いには十分注意する。



1 - 4

一貫教育にふさわしい組織づくりに関する取組 入学予定児童の引き継ぎを目的とした 小中連絡協議会

時 期

2月～3月（入学前）、6月（入学後）

場 所

会議室、学校図書館等

対 象

中学校長、中学校教員、関係小学管理職、関係小学校6年担当者

ね ら い

- 【入学前】入学予定児童の生活や学習の様子を知り、生徒理解を図り、入学当初の落ち着いた中学校生活を実現する。
- 【入学後】小学校教員が中学校1年生の授業を参観することで、前年度末の引き継ぎの成果等をもとに中学校での生活や学習指導の工夫・改善につなげる。

事前準備

- 【中学校】
 - (1) 入学予定児童の引き継ぎを目的とした小中連絡協議会開催案内を送付する。
 - (2) 小学校へ連絡協議会での協議事項、引き継ぎのポイントなどを伝える。
 - (3) 中学1年生に出し物（合唱）の指導を行う。
 - (4) 国語と算数のテスト問題を作成する。
- 【小学校】
 - (1) 連絡協議会での協議事項、引き継ぎのポイントをもとに情報を整理する。
 - (2) 当日の心構えや持ち物などについて事前指導を行う。

当日の流れ

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 14:05～14:15 | 受付 |
| 14:15～14:50 | 全体会
①学年合唱 ②学校長の話 ③学校紹介 ④1日担任紹介 |
| 14:50～15:55 | 【児童】国数テスト・校舎見学
【教員】連絡協議会 |
| 15:55～16:05 | 全体会
①入学準備について ②諸連絡 |
| 16:10 | 帰校 |

内 容

- (1) 小学生は体育館に集まり、中学 1 年生が合唱の発表、生徒会から学校の紹介を聞く。
- (2) 小学生が学力テストを受けている間に、教員間で児童の引き継ぎを行い、クラス編制に活用する。

効 果

【入学前】

- (1) 引き継ぎで児童一人一人について詳しく話を聞くことで、中学校でも個に応じた指導を行えるようになる。
- (2) 児童は中学生の合唱の発表を聞き、中学生の凄さを感じることができる。

【入学後】

- (1) 中学校は、生徒の小学校での様子との違いを聞くことで、生徒の理解にいかすことができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 一日入学では、小学生が在校生や中学校の先生と小学生が関わることで、中学校入学の不安を軽減できるようにする。
- (2) 児童の情報についてはあらかじめ、小学校側がまとめておくことよい。



▲中学校教員から中学校生活に関する講話を聞く小学生



▲中学校の授業を小学校教員が参観し様子を把握

2-1

幼保小をつなぐ取組

幼保小の交流①「なかよし交流会」 ～できることを発表し合おう～

時 期

2 学期後半～ 3 学期前半

場 所

教室、学年室や生活科室

対 象

校長、1 年生担任、各幼稚園・保育園等 5 歳児クラス担任、1 年生児童、幼稚園・保育園等 5 歳児

ね ら い

【幼稚園・保育園等】

- (1) 小学校の生活科の学習に参加して、園児が交流を楽しむことにより、小学校生活への興味と期待感をもたせる。

【小学校】

- (1) 園児を迎えることで、上級生としての自覚をもたせる。
- (2) 自分の役割を果たすことで、自身の成長を感じ、進級への期待と意欲をもたせる。

事前準備

- 2 ヶ月前 小学校から幼稚園・保育園等に、交流の実施について打診し、日程を調整する。
- 1 ヶ月前 小学校内関係職員で、実施の詳細について打合せを行う。
- 2 週間前 幼稚園・保育園等の担当者と事前の打合せを行う。
各園・各学校で、参加方法について事前指導を行う。

当日の流れ

- 10:00 園児が小学校へ到着する。
- 10:10 園児はトイレ休憩等を済ませる。
- 10:30 交流を開始する。(3 時間目の授業時間に実施)
- 11:15 交流を終了する。



▲園児に寄り添う 1 年生児童

内 容

プログラム（例）

- (1) はじめの言葉
- (2) 校長先生の話
- (3) 小学校発表 音読劇 「おむすびころりん」 等
- (4) 幼稚園発表（歌・楽器の演奏）
- (5) 保育園発表（歌・楽器の演奏）
- (6) 校内探検 ・1年生の座席につく。 ・空のランドセルを背負う。
- (7) 終わりの言葉

効 果

【幼稚園・保育園等】

- (1) 園児が小学校生活に興味をもち、入学に対する期待感をもつことにつながる。
- (2) 小学生の発表に刺激を受け、その後の園での遊びや生活に取り入れるなどする。

【小学校】

- (1) 自分たちの計画したことが成功するという体験を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を高めることができる。
- (2) 地域との交流や絆の大切さを理解できる。
- (3) 自分自身の成長に気づき、進級に対する期待感と意欲をもつことができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 園児は、各園から小学校までの移動があるので、時間にゆとりをもって計画を立てる。
- (2) 司会、進行などの役割は、可能な限り児童に任せることで、より達成感を味わわせることができる。
- (3) 交流の前後に、招待状を届けたり、お礼の手紙を交換したりする活動を入れると、親睦が一層深まる。
- (4) 他の行事と日程を調整することで、活動の時間を十分に確保することができる。



▲ 1年生の考えた遊びを通して園児と交流



2-2

幼保小をつなぐ取組

幼保小の交流②「わくわく交流会」 ～○○小学校を知ってもらおう～

時 期

10月～11月

場 所

多目的ルーム

対 象

校長、5年生担任、各幼稚園・保育園等5歳児クラス担任、5年生児童、幼稚園・保育園等5歳児

ね ら い

【幼稚園・保育園】

- (1) 小学校へ行き、学校紹介の発表を聞き、ゲームをしながら小学生と交流することにより、入学への期待感を高める。

【小学校】

- (1) 園児への発表準備を通して、相手に応じた分かりやすい発表の仕方について理解を深める。
- (2) ゲームでの交流を通して思いやりの心を育てる。

事前準備

- 6月 小学校から幼稚園・保育園等に交流の実施について打診し、日程を調整する。
- 7月 発表までの授業計画や、指導内容について、小学校内で打合せを行う。
- 9月 発表に向けて児童を指導し、交流の準備を進める。
- 10月 幼稚園・保育園等の担当者と事前の打合せを行う。各園・各学校で、当日の参加の仕方について、事前指導を行う。

当日の流れ

- 9:30 園児が小学校へ到着する。
- 9:35 園児は、活動前に用便を済ませる。
- 9:40 交流を開始する。(2時間目の授業時間に実施)
- 10:25 交流を終了する。

内 容

- (1) 児童による学校紹介
 - ・小グループを作って、学校施設を探検する。
 - ・行事紹介新聞を作って紹介する。
 - ・学校紹介番組を作って園児に見せる。(5 年社会科)
- (2) ゲームを企画し、親睦を深める。
 - ・輪くぐりゲーム
 - ・輪投げ
 - ・缶つま
 - ・魚釣り
 - ・的当て 等

効 果

【幼稚園・保育園等】

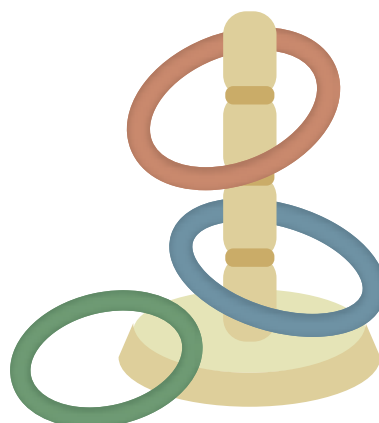
- (1) 小学生と交流することにより、入学に対する期待感が高まる。
- (2) 小学校に慣れ親しむとともに、入学に向けて自覚をもつことができる。

【小学校】

- (1) 幼児にも分かりやすい発表をしようという思いが、発表の目的意識につながる。
- (2) 5 年生で実施することで、就学時健康診断で補助する幼児との交流が深まる。
- (3) 最上級生として、園児たちを迎えるという自覚をもつことができ、意識が高まる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 5 年生児童へは、来年度入学してくる園児に向けての取組であることを考えさせ、最高学年として迎える新入生であることを十分に意識させる。
- (2) 園児も児童も楽しめるゲームを考えさせる。
- (3) 学校紹介番組を作成する場合、時期は 3 学期に実施することで、交流給食のときに放送することも考えられる。



2 - 4

幼保小をつなぐ取組 小学校体験入学

時 期

1月下旬（6年生校外学習日）

場 所

体育館、1・2・6学年教室、多目的室

対 象

教頭、主幹教諭（教務主任）、1年生担任、各園5歳児クラス担任

ね ら い

【幼稚園・保育園等】

- (1) 小学校の授業見学や授業参加、施設利用を通して、園児の就学に対する不安感を解消し、入学への期待感をもたせる。

【小学校】

- (1) 園の先生方や園児に授業を見学してもらうことで、自分の成長を実感させたり、進級への期待感を高めさせたりする。（1・2年生児童）
- (2) 新入生を迎える準備や交流を通して、4月から最高学年になるという自覚と下級生への思いやりの心を育てる。（5年生児童）

事前準備

- | | |
|-----|---|
| 11月 | 小学校が幼稚園・保育園等に実施を打診し、日程を調整する。 |
| 12月 | 幼稚園・保育園等と小学校で日程・持ち物・アレルギーに関する情報・費用について打合せを行う。 |
| 1月 | 園児の体験入学を行う。 |

当日の流れ

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 11:30 | 園児が小学校へ到着する。 |
| 11:40 | 体育館ではじめの会を行う。 |
| 11:50 | 学校案内と1・2年生の教室へ行き、授業見学や授業参加を行う。（4校時） |
| 12:25 | 多目的室や6学年教室等を使って給食を食べる。 |
| 13:10 | 園児が小学校を出発する。 |

内 容

- 11：30 園バスや徒歩で来校し、体育館に集合する。（冬期は道路の凍結に気を付ける。）
昇降口で上履きに履き替える。
- 11：40 体育館ではじめの会を行う。（三角コーン等で整列の案内を表示しておく。）
司会 教務主任
① あいさつ（教頭）
② 本日の流れの確認（教務主任）
③ 見学ルートの確認（いくつかのグループに分かれて見学する。）
- 11：50 学校案内と授業見学
・1年生、2年生の各学級を順番に見学したり、参加したりする。
・教頭、教務主任が見学の誘導や調整を行う。
・途中でトイレも使用させる。
- 12：25 給食を食べる。（多目的室や6年生教室等にて）
・給食準備、挨拶（歓迎の言葉）、交流給食、片づけ等は、可能な限り園児に経験させることが望ましいが、実情に応じて、5年生が担当することも考えられる。
- 13：10 体育館に集合 挨拶をして学校を出発

効 果

【幼稚園・保育園等】

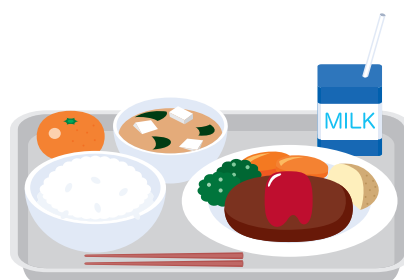
- (1) 1年生のクラスで交流するほか、入学前に教室、授業の雰囲気やトイレなどの学校施設を体験することができ、入学に対して、あこがれや期待感が高まる。
- (2) 園児が小学校の先生に対して親しみをもつことができる。

【小学校】

- (1) 2年生の児童は園児に小学校の授業の様子を知ってもらうために、よい態度で授業に臨むことで自分の成長を感じたり、進級への期待感を高められたりする。（1・2年生児童）
- (2) 新入生を迎える準備や交流を通して自分の役割を果たすことで、4月から最高学年になるという自覚が高まり、低年齢の児童への思いやりの心も育つ。（5年生児童）

取組を充実させるためのポイント

- (1) 複数園と交流する場合には、同日に実施できるよう計画すると、園児同士の交流や、授業時数の確保につながる。
- (2) 実施時期の調整は、前年度末に各園・各校の担当者間で計画的に行うとよい。
- (3) 天候による延期の可能性も考えて日程を組むとよい。
- (4) 低学年の授業内容は、園児が体験・参加できる内容であることが望ましい。



3 - 1

小中をつなぐ取組

中学校教員による乗り入れ授業（体育）

時 期

4月下旬から3月上旬まで

場 所

各教室、校庭、体育館等

対 象

6年生の児童 ※学校規模によって他学年に広げること可

ね ら い

- (1) 中学校教員による専門的な観点からの指導・支援を行うことで、体育の楽しさを伝える。
- (2) 中学校教員と関わることで、児童の中学校入学の不安感を軽減させる。
- (3) 小学校での指導を通して、新入生の様子を知り、入学後の生徒理解にいかす。

事前準備

- (1) 乗り入れ授業を行う曜日を打ち合わせし、日課表を交換したり、児童の様子を聞いたりする。
- (2) 乗り入れ授業に関わる小中学校の教員で、打ち合わせの方法、授業の進め方等について決めておく。

当日の流れ

- (1) 中学校の給食（12：40～13：20）終了後、昼休みに小学校へ移動。
- (2) 小学校5時間目（13：50～14：35）に乗り入れ授業を行う。



内 容

- (1) はじめ中学校教員は、小学校の授業の流れや児童の様子を把握するため、チームティーチングとして授業に入り、学級担任が中心となって授業を行う。
- (2) 水泳の学習では技能別に三つのコースに分かれて授業を展開する。中学校教員は最も技能の高いコースを担当し、指導を行う。
- (3) 器械運動（マット、跳び箱）では、技能の習得につまずいている児童に専門的な立場から支援した。

効 果

- (1) 児童は複数の教員がいることで、個に応じた指導を受けることができ、技能を習得することができるようになる。
- (2) 小学校教員は、中学校教員との関わりを通して、専門的な立場・知識からの指導方法を学ぶことができる。
- (3) 中学校教員は、小学校での指導方法を知ることができ、それを中学校授業にいかすことで、児童が中学校に入学した後もギャップが少なく、安心して授業に参加することができるようになる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 中学校教員の授業内での立ち位置を明確にし、専門的な指導を行う場・時間を設ける。
- (2) 小中学校教員間での打ち合わせ・連携を密にし、指導計画の交換などを行う。
- (3) 小学校教員（6年生の担任）、中学校教員2名で指導をする。



▲中学校教員による小学生への跳び箱指導



▲小中学校教員による小学生への水泳指導



▲技のポイントを説明する中学校教員

3 - 2

小中をつなぐ取組

中学校教員による乗り入れ授業（算数）

時 期

4月下旬から3月上旬まで

場 所

各教室、少人数教室等

対 象

6年生の児童 ※学校規模によって他学年に広げること可

ね ら い

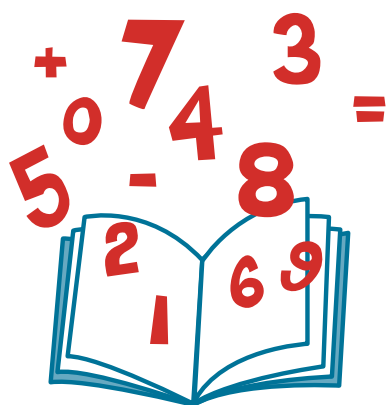
- (1) 中学校教員による専門的な観点からの指導・支援を行うことで、算数・数学の楽しさを伝える。
- (2) 中学校教員と関わることで、児童の中学校入学の不安感を軽減させる。
- (3) 小学校での指導を通して、新入生の様子を知り、入学後の生徒理解にいかす。

事前準備

- (1) 乗り入れ授業を行う曜日を打ち合わせし、日課表を交換したり、児童の様子を聞いたりする。
- (2) 乗り入れ授業に関わる小中学校の教員で、打ち合わせの方法、授業の進め方等について決めておく。
- (3) 来校する日の給食の食数の確認をする。

当日の流れ

- (1) 1限目（9：05～9：55）終了後、小学校へ移動。
- (2) 小学校3・4時間目（10：50～11：35・11：40～12：25）に乗り入れる。
- (3) 給食を食べる。（職員室や6年生の教室）
- (4) 5時間目（13：50～14：35）に乗り入れ授業を行う。



内 容

- (1) 1 学期の間、中学校教員は小学校の授業の流れや児童の様子を把握するため、チームティーチングとして授業に入り、小学校の学級担任が中心となって授業を行う。
- (2) 2 学期からは T1 で授業を行ったり、習熟度別学習では最も習熟度の高いコース等を担当したりして単独で授業を行う。

効 果

- (1) 児童は複数の教員がいることで、個に応じた指導を受けることができ、知識及び技能等を高めることができる。
- (2) 小学校教員は、中学校教員との関わりを通して、専門的な立場・知識からの指導方法を学ぶことができる。
- (3) 中学校教員は、小学校での指導方法を知ることができ、それを中学校授業にいかすことで、児童が中学校に入学した後もギャップが少なく、安心して授業を受けることができるようになる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 中学校教員の授業内での立ち位置を明確にし、専門的な指導を行う場・時間を設ける。
- (2) 小中学校教員間での打ち合わせ・連携を密にし、指導計画の交換などを行う。（電話や書面での連絡が困難な場合は校内共有等も活用する。）
- (3) 1 学期の途中や 2 学期以降は中学校教員が T1 となって指導するようにする。



▲中学校教員と小学校教員によるチームティーチングによる指導



▲中学校教員による小学校算数科指導

3 - 3

小中をつなぐ取組 児童生徒合同授業

時期・対象

- ※小学校、中学校の年間指導計画を踏まえて実施時期を決める。
- ・小学校高学年児童及び中学校生徒
- ・小学校の実施学級担任教諭及び中学校の実施教科担任教諭

場 所

- ・多目的室等の大型の特別教室又は複数の普通教室
- ※小中合わせて2学級の児童生徒に対し、全員一斉に指導する場合は、体育館など十分なスペースのある特別教室で実施する。複数のグループに分けて指導する場合は、複数の普通教室で実施する。

ね ら い

【小学生】

- (1) 中学校の授業を兼ねた授業を受けることで、中学校の学習への見通しをもち、中学校入学への期待感をもてるようにする。
- (2) 中学生と交流しながら学ぶことで、中学生へのあこがれをもち、自己の成長に対する意欲をもてるようにする。

【中学生】

- (1) 小学校の授業を兼ねた授業を受け、小学生を支援することで、これまでの学習と現在の学習とのつながりを把握し、理解を深めることができる。
- (2) 小学生と交流しながら学ぶことで、自分の成長を実感し、自己肯定感を高められるようにする。

当日の流れ

【小学校6年生外国語と中学校1年生英語の合同授業の例】

- 10:25 合同授業を実施する学級の児童が小学校を出発する。学級担任が引率する。
- 10:40 児童及び学級担任が中学校へ到着する。
児童は、あらかじめ決められた教室へ移動し、授業の準備をする。
- 10:50 授業開始
1年1組では、小学校教諭及び中学校ALTが指導する。
1年2組では、中学校教諭及び小学校ALTが指導する。
- 11:40 授業終了。小学生は中学生へ簡単なお別れの挨拶をしてから、中学校を出発する。
- 11:55 児童及び学級担任が小学校へ到着する。



▲小学校6年生と中学1年生を対象とした合同授業



▲交流しながら学ぶことで、憧れや成長を実感

事前準備

- (1) 小学校と中学校の教諭で、次の観点に基づいて、合同授業が実施可能な単元及び時間を検討する。
 - ①小学校の学習内容と中学校の学習内容に強い関連性があり、一つの授業として実施することが可能であるか。
 - ②合同授業を実施することで、活動の機会が増えるなど、単独で授業を行うよりも学習の効果を高めることが期待できるか。
 - ③必要に応じて他の単元と実施時期を入れ替えることで、小学校、中学校とも同時期に実施することが可能であるか。
- (2) 小学校と中学校の教諭で打ち合わせて、次のことを検討する。
 - ①合同授業を位置付けた単元計画をそれぞれで立案する。
 - ②学級の児童生徒が全員一斉で行うか、複数に分割して行うか決め、それに基づき、場所を決める。
 - ③児童生徒を引率する学校は、移動時間も含めた当日の流れを作成する。
 - ④合同授業の指導の詳細を決め、必要に応じて指導案を作成する。
 - ⑤合同授業に関するお知らせを作成し、それぞれの学校で保護者へ配布する。

内 容

【小学校 6 年生外国語と中学校 1 年生英語の合同授業の例】

- (1) 小学校外国語と中学校英語で共通している「メニューづくり」の活動を軸として合同授業を実施する。
- (2) 小学生と中学生がペアになり、会話の練習をするなど、交流の機会が多く生まれるよう配慮する。
- (3) 授業後半では、店員と客のロールプレイを取り入れ、楽しみながら自然と児童生徒が英語で会話できるようにする。

効 果

【小学生】

- (1) 小学生は、中学生や中学校の教員に親しみをもち、進学への期待感をもつようになる。
- (2) 小学生は、合同授業以降、外国語の学習の見通しがもて、意欲が高まる。

【中学生】

- (1) 中学生は、小学生の手本になろうと、日常の授業よりも積極的に学習に取り組もうとする。
- (2) 中学生は、小学生をリードしながら合同授業に取り組むことにより、自身の英語力に対して自信を深め、合同授業以降の英語学習への意欲が高まる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 小学校の教科としての目標と、中学校の教科としての目標を明確にし、それぞれの目標を達成できるよう、合同授業を計画することが重要である。
- (2) 小学校と中学校の日課が違うため十分に確認するとともに、移動時間も考慮して当日のスケジュールを決める必要がある。
- (3) 小学校と中学校では、授業の一単位時間が異なるが、中学校の 50 分に揃えた方が計画しやすい。

3 - 4

小中をつなぐ取組

小学校における一部教科担任制の充実

時期・対象

通年・小学校 6 年生等

場 所

各教室、特別教室、校庭、体育館等

ね ら い

- (1) 「学力向上」：教師の専門性や持ち味をいかせる教科の授業を行うことで、授業の質を高め、児童の学力を向上できるようにする。
- (2) 「生徒指導」：より多くの教師が児童に関わることで、きめ細やかな指導を実現させるとともに、多くの視点から児童の様子を把握できるようにする。
- (3) 「中学校への橋渡し」：第 6 学年で一部の教科担任制を実施することで、学級担任制から教科担任制というシステムの変化をスムーズに行い、学習への不安などのいわゆる「中 1 ギャップ」を予防する。

事前準備

【導入前の取組】

- (1) 職員会議で全教職員に周知を行い、協力体制をつくる。
- (2) 「期待される効果」や「指導体制・時間割」等について検討し、共通理解を図る。
- (3) 各教員の担当する教科を決定し、学年で各学級の時間割を設定する。
- (4) 児童や保護者へ、実施の意義を含めた概要を説明する。

【導入後の取組】

学級担任と教科担任が連携・協力するために、学年会等を定期的に行い、以下について打ち合わせる。

- (1) 翌週からの時間割の確認と決定を行う。
- (2) 各教科の指導内容・方法や授業進度の報告と確認をする。
- (3) 児童理解に向けての情報交換をする。
→児童の授業での様子や雰囲気の情報交換を行うことが大切
- (4) 学級・学年の諸問題の解決に向けての話し合いを行う。

当日の流れ

時間割の中で、教科担任を行う曜日と時間を設定し、学級担任はそれぞれ担当の教科を受け持ち、複数の学級指導を行う。



▲他学級で授業をすることにより、児童の実態を把握する。

内 容

【6年生（3学級）で実施する例】

A先生	理科	理科	年間
6-1 担任	6-1	6-2	315時間
B先生	図工	図工	年間
6-2 担任	6-2	6-3	315時間
C先生	社会	社会	年間
6-3 担任	6-1	6-2	315時間

※国語の書写と言語事項は教科担任が、それ以外の内容は担任が受け持つ

6-1	月	火	水	木	金	6-2	月	火	水	木	金	6-3	月	火	水	木	金
1					理	1					図	1					社
2					理	2					図	2					社
3	図	社			国	3	社	理			社	3	理	図			理
4	図	社			社	4	社	理			理	4	理	図			国
5		理				5		国				5		社			
6						6						6					

【6年生（2学級）で実施する例 1】

A先生	理科	理科	年間
6-1 担任	6-1	6-2	210時間
B先生	社会	社会	年間
6-2 担任	6-1	6-2	210時間

6-1	月	火	水	木	金	6-2	月	火	水	木	金
1						1					
2						2					
3		社	理		理	3		理	社		社
4		社	理		社	4		理	社		理
5						5					
6						6					

【6年生（2学級）で実施する例 2】

A先生	算数	算数	年間
6-1 担任	6-1	6-2	350時間
B先生	国語	国語	年間
6-2 担任	6-1	6-2	350時間

6-1	月	火	水	木	金	6-2	月	火	水	木	金
1						1					
2						2					
3		算	算		算	3		国	国		算
4	算	国	国			4	国	算	算		
5	国					5	算				
6				算		6				算	

【その他の例】

学年が2学級の場合

（パターン1）A先生 書写×2学級（年間70時間） B先生 外国語活動×2学級（年間70時間）

（パターン2）A先生 書写×2学級、社会又は理科×2学級（年間280時間）

B先生 国語（書写を除く）×2学級（年間280時間）

学年が3学級の場合

（パターン1）A先生 社会×3学級（年間315時間） B先生 理科×3学級（年間315時間）

C先生 家庭×3学級、図画工作×3学級（年間315時間）

（パターン2）A先生 国語（書写を除く）×3学級（年間420時間）

B先生 社会×3学級、書写×3学級（年間420時間）

C先生 理科×3学級、外国語活動×3学級（年間420時間）

学年が4学級の場合

・学年を、2学級×2グループに分け、「学年が2学級の場合」を組み合わせる。

学年が5学級の場合

・学年を、2学級と3学級の2グループに分け、「学年が2学級の場合」と「学年が3学級の場合」を組み合わせる。

効 果

- （1）教科担任は自分の専門性をいかし、教材研究や教材開発に時間をかけることができるため、指導方法や指導内容の充実を図ることができる。
- （2）児童の学習や生活の様子を複数の教師で共有できるようになり、教師の児童理解が深まる。
- （3）学年全体を同じ基準で学習評価を行うことができる。
- （4）教科ごとに教師や教室が変わるので、児童が適度な緊張感をもって授業に取り組むことができる。
- （5）保護者が、複数の教師に関わってもらっていることに安心感をもつ。

取組を充実させるためのポイント

- （1）1校時は、児童の健康と心理状態の観察把握の必要があるため、学級担任の指導を基本とする。
- （2）教科担任の授業はできる限り3・4校時に行う。（午後の出張等も考慮）
- （3）教科担任を受け持つ教員は、担任と進んでコミュニケーションをとるようにし、複数の目で児童理解に努めたり、指導観を共有したりすることで、協働して児童を指導する。
- （4）運動会や学習発表会等の練習のため、時間割が変更になる場合は、調整が難しいので時期によっては、一時的に教科担任ではなく、学級担任が授業を行う。

終 末	7 みんなで決めた解決方法の中から、自分の課題にあった方法を選び、目標をたてる。	・ みんなで考えた解決方法を基に、自らの改善していくことに対して意欲的に取り組めるようにする。 ■ 自分の家庭学習で改善したいことを考え、その解決方法など理解し、継続して取り組めるようにしている。	目標が書ける用紙
	8 自らが立てた目標について交流を行う。	・ 感想発表を通して、実践化にむけた意欲付けを図る。	

効 果

中学校生活を知り、入学までのめあてをもつことで、意欲をもって小学校生活を送ることができるとともに、安心して進学に臨むことができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 各学期末などに小中連携プログラムの「生活のめあて」「学習のめあて」のワークシート例等を用いて、児童生徒が自分自身の生活の様子や学習への取組方を定期的に振り返ることができるようにする。
- (2) 児童生徒が振り返りの際に記入したワークシートを、保護者との面談等で活用することで、家庭と連携して生活規律・学習規律の確立を図ることができる。



▲よりよい中学校生活の実現に向けたグループワーク



▲中学校生活に対して小学生が感じていることをグラフで紹介



3 - 6

小中をつなぐ取組

生活・学習指導の連携 ～進学後の生活を見通した指導～

時 期

学期に1回、夏季休業中

場 所

各教室、特別教室、体育館等

対 象

小学校・中学校教職員

ね ら い

小中学校9年間を見通した生活規律・学習規律を確立することで、児童生徒が円滑に中学校の生活に慣れることができるようにする。

事前準備

小学校によっては、卒業生が複数の中学校に進学する場合がある。全ての中学校の校則と生活のきまり・授業のきまりを、完全に調整することは難しいので、きまりのうち特に重要だと考える点に絞り、整理する。

当日の流れ

中学校区の連絡協議会や、生徒指導委員会の日時を設定し、それぞれの学校の生活のきまりや授業のきまり、校則を共有し、調整・連携を図る。



内 容

- (1) 中学校区内の小中学校で、生活のきまり・授業のきまりや、校則をお互いに交換する。
- (2) 交換した生活・授業のきまりや校則を比較し、見直していく。
- (3) きまりや校則の内容の過不足や、表現の違いなど、児童が中学校に進学した際に戸惑うと予想されるきまりや校則については、可能な範囲で調整する。

効 果

児童が中学校へ進学したときに、小学校の生活のきまり・学習のきまりと校則の違いに戸惑わず、円滑に中学校生活や授業に慣れることができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 情報交換会や、長期休業中等の幼保小中合同研修会を利用して交換するとよい。
- (2) お互いの子ども達の実態と照らし合わせて、調整することが適当でない内容については、無理に統一しようとししない。（発達段階に応じて系統的に）
- (3) 調整の際は、P104、105の「生活のめあて」「学習のめあて」等を参考にするとよい。
- (4) 他園、他校との話し合いをもとに、自校の生活・授業のきまりや校則を整理したりする。その結果を職員会議等で、教職員に周知する。生活・授業のきまりや校則を単に伝えるだけでなく、どういった意図で、どのような話し合いを経て整理されたのかも伝え、共通理解を図りやすい。
- (5) 見直したり整理したりした生活・授業のきまりや校則は、子どもたちにその意義や必要性を考えさせたり、子どもたちにつくり直すことを認めるなど工夫して指導する。



▲生活のきまりや学びのつながりについて小中の教員が協議



▲指導の方向性を中学校区として確認

3 - 7

小中をつなぐ取組 部活動体験

時 期

7月下旬～8月上旬

場 所

各部活の活動場所

対 象

6年生児童及び保護者

ね ら い

中学校の部活動の体験・見学を通し、中学校生活に期待や楽しみをもたせる。

事前準備

- (1) 対象となる中学校区の小学校6年生に案内文書を配布するよう依頼する。
- (2) 中学校は参加申込書を回収する。
- (3) 感想用紙（小学生は中学生へお礼の手紙、中学生は感想）を書く。

当日の流れ

【例 女子バスケットボール部】

12:50 新入生登校

13:00～15:00 自己紹介

(新入生、中学生、顧問)、部活動体験

15:00～ 新入生はお礼の手紙を記入。

記入後、各自解散



内 容



テニス部



サッカー部



科学部



陸上部



バスケットボール部



吹奏楽部

効 果

- (1) 部活動体験を通して、中学校の部活の雰囲気を味わうことができ、小学生は中学校生活に楽しみを感じることができる。
- (2) 小学生は中学生と関わることで、中学生の様子や親しみを感じることができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 中学生と小学生でペアやグループを組むようにし、教え合いや関わり合いを増やす。
- (2) 児童一人につき体験入部は1部活、見学は複数部活可とし、できるだけ多くの部活を見られるようにする。
- (3) 体育館・校庭・マルチルームなどで行う。
- (4) 各部活10人前後で計画する。

4-2

家庭教育への支援の取組

「家庭・学校連携シート」の活用

時 期

新入生保護者説明会（2月ごろ）から1学期終了まで

場 所

進学先小学校へ提出

対 象

新小学校1年生、新小学校1年生の保護者、新小学校1年生の担任教諭、管理職

▲家庭・学校連携シート

ね ら い

- 「家庭・学校連携シート」を活用し、子どもの入学前から保護者と学校の信頼関係を築くことで、子どもの小学校入学に対する保護者の不安を解消する。
- 「家庭・学校連携シート」を活用することで、新小学校1年生が入学後に適切な支援を受けられるように配慮することができる。

事前準備

新入生保護者説明会で、「家庭・学校連携シート」の活用を希望する保護者がシートを提出しやすいよう、シートの提出を促すアナウンスや提出方法を検討しておく。

当日の流れ

- 新入生保護者説明会の最後に、「家庭・学校連携シート」を持ってきた保護者は教頭へ提出し、後日提出する保護者は事前に連絡してから提出するよう、アナウンスする。
- 提出された「家庭・学校連携シート」に目を通し、面談を希望している場合は、可能な限り、その場で保護者と日程調整を行う。
- 管理職が保護者と面談を行う。
- 面談後、関係する職員と打合せを行って情報を共有し、実施可能な支援策を検討する。

内 容

- (1) 面談では、保護者の感じている不安を聞き取るようにする。合わせて、これまで保護者や園の教職員が、どのようなことに配慮しながら対応してきたかを聞き取るようにする。
- (2) 具体的な支援策については、面談後に校内で検討することを保護者に伝える。
- (3) 面談後の関係職員との打合せでは、面談で得られた情報を基に、実施可能な支援策を検討する。
- (4) 打合せの内容を基に、関係職員は、新1年生の学級編制を行う。
- (5) 打合せの内容を基に、教頭は、連携が必要な関係機関と連絡をとる。
- (6) 新年度当初、新1年生の担任が決定したら、管理職及び関係職員から担任へ、実施する支援策や、具体的な配慮事項について伝達する。
- (7) 1学期末の保護者会で、「家庭・学校連携シート」を保護者に返却する。

効 果

- (1) 面談での情報を基に、学級編制に配慮したり、指示の出し方を工夫したり、座席の位置に配慮したりすることで、新1年生が円滑に小学校生活に慣れることができる。
- (2) 新1年生の入学後も、「家庭・学校連携シート」を読み直し、保護者の不安や児童の課題を知ることで、児童理解を深めることができる。
- (3) 児童へ適切に対応し、円滑に小学校生活へ慣れられるよう支援することで、保護者との信頼関係を築くことができる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 必要に応じて、教育支援室や子育て支援センターなどと連携し、早期に対応する。
- (2) 補助員の配置など、保護者が希望する支援策の全てが実施できるわけではないことを明確にしておく。
- (3) 「家庭・学校連携シート」が長く活用されることに不安を覚える保護者もいるので、1学期の終わりに確実に保護者へ返却する。



4-3

家庭教育への支援の取組 保護者向け「親の学習」講座

時 期

10月下旬（小学校就学時健康診断時）
2月頃（中学校新入生保護者説明時）

場 所

体育館

対 象

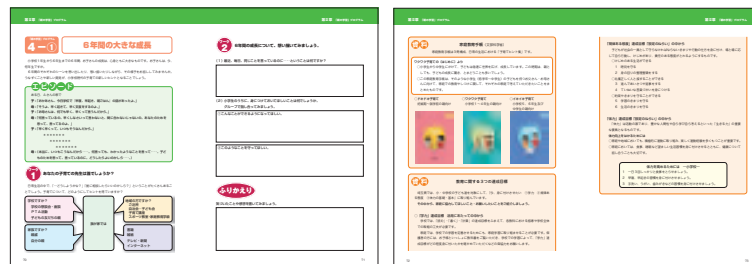
埼玉県家庭教育アドバイザー、校長、教頭、主幹教諭（教務主任）、入学予定児童生徒保護者

ね ら い

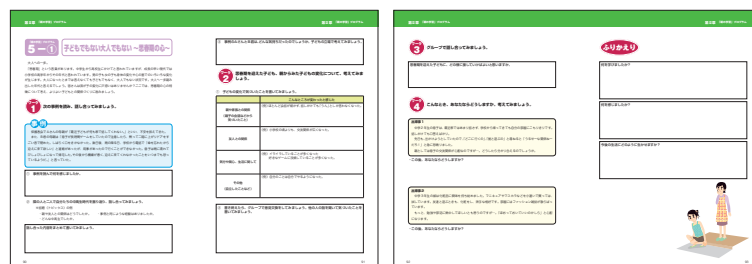
- ・ 保護者が、これまでの自分の子育てを振り返り、就学や進学に向けて家庭で取り組むべきことが分かり、入学までに準備ができるようにする。
- ・ 子どもの就学や進学に対する保護者の不安を解消し、親子ともに安心して円滑に新しい学校生活を迎えられるようにする。
- ・ 保護者同士のネットワークづくりのきっかけとし、入学後の円滑なコミュニケーションにつなげる。
- ・ 子どもの発達段階を踏まえた、家庭における教育力の向上を図る。

事前準備

- （1） 草加市教育委員会と日程の確認をする。
- （2） 家庭教育アドバイザーと打合せを行い、実施までのスケジュール、準備物等を確認する。
- （3） 職員会議等で準備・実施内容を周知し、会場準備等の分担を行う。
- （4） 新入生保護者説明会の案内に「親の学習」講座を実施する旨を記載する。
（就学時健康診断内で行うものについては、教育委員会が保護者に送付する案内に記載する。）



▲実際の講座で使用する資料の例（小学校保護者向け）【埼玉県「親の学習」講座プログラム集より】



▲実際の講座で使用する資料の例（中学校保護者向け）【埼玉県「親の学習」講座プログラム集より】

当日の流れ

小学校		中学校	
13:00	就学時健康診断受付開始	14:00	新入生保護者説明会受付開始
13:10	講師実施校へ到着、 控室等へ移動	14:10	講師実施校へ到着、 控室等へ移動
13:30	就学時健康診断開始、 学校長あいさつなど	14:30	新入生保護者説明会開始、 学校長あいさつなど
13:35	教育委員会からの説明（5分程度）	14:35	「親の学習」講座開始（45分）
13:40	「親の学習」講座開始（45分） 講話＋グループトーク形式 （家庭教育アドバイザーによる）		講話＋グループトーク形式 （家庭教育アドバイザーによる）
14:25	学校からの説明	15:20	学校からの説明開始
14:45	終了	16:20	終了

内 容

- (1) 講座開始
- (2) アイスブレーキング
保護者で輪を作って座り、緊張をほぐす活動をする。
- (3) 子育て、家庭教育に関する講演
- (4) グループでの交流・意見交換
4～6人程度で小グループを作り、交流を深める。
- (5) 質疑応答
- (6) 講座終了



▲家庭教育アドバイザーの講演を聞く参会者

効 果

- (1) 4月から同じ学校に子を通わせる保護者同士が顔を合わせることで、入学に向けての安心感が高まる。
- (2) 保護者は、子育ての悩みや不安を講師に質問することができ、安心することができる。
- (3) 保護者同士で話し合う場面を設定することで、子育ての工夫や悩みを共有できる。

取組を充実させるためのポイント

- (1) 初めて顔を合わせる保護者の緊張を解くために、アイスブレーキングを取り入れることで、グループ活動の場面で一人になってしまう方が出にくくなる。
- (2) 保護者同士が子育ての工夫や悩み等を共有できるよう、交流の場面を設ける。

6 幼保小中を一貫した教育の参考指導資料

対 象：

幼

保

小

中

1 草加市小中学校「生活・学習のめあて」

そうかし 草加市 小中連携 せいかつ 生活のめあて					
		しょうがっこう わんせい 小学校1・2年生	しょうがっこう わんせい 小学校3・4年生	しょうがっこう わんせい 小学校5・6年生 ちゅうがっこう わんせい 中学校1年生	ちゅうがっこう わんせい 中学校2・3年生
家 庭	生活リズム	早ね早おきをし ちょうしよくをとる	早ね早おきをし、朝食をとり 毎日の生活リズムをととのえる		早ね早起きをし 3食きちんととり 毎日規則正しい生活をする
	身じたく	しっかりとすいみんをとる (めやすとして9じかん)	しっかりとすいみんをとる (目安として8時間)		健康に生活するための すいみん時間を確保する (目安として6～8時間)
	メディア とのかかわり	かていできめたやくそくやルールをまもってつかうことができる	正しい使い方を理かいし 相手へのえいきょうを考えて 使うことができる		情報モラルを守り メディアと適切に かかわることができる
学 校	自分を大切に 思う心	がくしゅうやうんどうを たのしんでおこない じぶんのことをすきだと おもふことができる	自分のとくちように気づき よいところをいかし のぼさうと思うことができる	得意なことを学習や 運動などに生かし 自分が必要とされていると 思うことができる	長所・短所をふくめ、自分を 大切な存在だと思ふことができ 自信をもって学習や運動に 取り組むことができる
	思いやりの心	みづかにいる人に あたたかい心でせし しんせつにすることができる	あい手のことを思いやり すすんで親切にすることが できる	だれに対しても思いやりの心 をもち、相手の立場に立って 親切にすることができる	自分が多くの人々に支えられて きたことを自覚し、他の人々に 対し、思いやりの心をもって 親切にすることができる
	自分で考えて 行動する力	わがままをしないで クラスのみなといっしょに せいにかつすることができる	よく考えて行どうし せつどのある生活をするこ とができる	自ら考え行動し 節度とせきにんのある生活 をすることができる	自分の行いがよぼす結果に についても深く考え 責任ある行動がとれる
	命の大切さ	いのちのたいせつさがわかる	いのちのとうとさをかんじとり いのちあるものを 大切にすることができる	生命がかけがえのないもので あることを知り、自他の生命を そん重できる	生命の尊さを理解し かけがえのない自他の生命を 尊重できる
	食べることを 通して健康に 生活する力	すききらいせずたべようとする たべものにかんしんをもち いろいろなたべもの なまえがわかる	けんこうにすこすことを いしきて、いろいろな 食べものをすききらいせず 食べようとする	食事が体におよぼすえいきょうや 食品をバランスよく組み合わせ て食べることの大切さを理かいし 1食分の食事が考えられる	1日分の献立をふまえ 簡単な日常食の調理ができる
	時刻を守る	つうがくはんのしゅうごうじこくや じゅぎょうのはじまるじこくをまも ることができる	登校時こくやじゅ業や活動の 始まる時こくを守るこ とができる		見通しをもって 5分前行動ができる
	整理整頓	つくえやロッカーのせいり せいとんができる	つくえ、ロッカーの せいりせいとんやきょう力して 教室内のせいりせいとんが できる	つくえ、ロッカー、カバンなど 身の回りの整理整とんや 協力して校内の整理整とんが できる	身の回りのものを使いやすい ように整理整とんできる 協力して校内の整理整とんを 責任をもってできる
	掃除	ようぐ(ほうき、ちりとり、 ぞうきんなど)をたたく つかってそうじをすることが できる	すすんでそうじをし 自分のたん当する場しよを きれいにすることができる	進んでそうじをし、学校を きれいにすることができる	進んで掃除や美化活動に取り 組み、学校や公共の場所を きれいにすることができる
	あいさつ 返事	じぶんからすすんで めをみてげんきよく あいさつやへんじができる	自分からすすんで 目を見てはっきりと あいさつやへんじができる	自分から進んで 目を見て気持ち良い あいさつや返事ができる	自分から進んで 時と場に応じた気持ち良い あいさつや返事ができる
	ありがとう ごめんなさい	すなおにいうことができる	あい手の気もちを考えて 言うことができる	気持ちが相手に伝わるように 言うことができる	相手の気持ちや場に応じた言葉で 言うことができる
	言葉づかい	「です」「ます」をつかうことが できる	「です」「ます」をはっきりと 言うことができる	ていねいな言葉づかいができる	時と場に応じた丁寧な言葉や 敬語をつかうことができる
	運動	けんこうやあんげんにきをつけて たのしくうんどうすることが できる	けんこうやあんげんにきをつけて 楽しく、さい後までど力して うんどうすることができる	健康や安全にりゅう意し 自この最ぜんをつくして 運動をすることができる	健康や安全に留意し、自らの 課題に応じて工夫して 体力の向上を図ることができる
	ねばり強く ものごとに 取り組む	じぶんがやらなければならない ことをしっかりとこなう	自分がやらなければならない ことに気づき、しっかり行う	自分でやろうと決めたことを 最後までやりとげる	責任をもって物事に取り組み 最後までやりとげる
	しまりを 守る	がっこうのしまりを まもることができる	学校や社会のしまりのいぎを 理かいしまもることができる	学校や社会のしまりの意ぎを 理かいし守り、自他のけん利を 大切に、進んできむを果たす ことができる	学校のしまりや法の意義を 理解し守り、自他の権利を 重んじ義務を確実に果たす ことができる

そうかし しょうちゅうれんけい
草加市 小中連携
がくしゅう
学習のめあて

	しょうがっこう 小学校1・2年生	しょうがっこう 小学校3・4年生	しょうがっこう 小学校5・6年生 中学校1年生	ちゅうがっこう 中学校2・3年生	
家の 庭	じゅんび 準備	いえのひとつといっしょに じかんわりをみて がくしゅうのよういをする	自分で時間わりをかくにんし、学しゅう用ぐをじゅんびする	自分で明日の学習用具を 準備する	
	しゅくだい 宿題	しゅくだいやていしゅつづつを きめられたひまでに ていしゅつする	しゅくだいやていしゅつづつをきめられたひまでにていしゅつする	宿題や提出物を決められた日 までに提出する	
	あひくしゅう 復習・予習 自主学習	まなんだことを ふくしゅうしてみる	ふくしゅうをしゅうかんにする	学習計画を立て 予習・復習・自主学習を 工夫して積極的に行う	
学 校	じゅんび 準備	つぎのじかんのじゅんびをして、やすみじかにする	つくえの上に学習のじゅんびを整え じゅ業の内ようをかくにんし、先生が来るのを待つ		
	あいさつ	しせいをただして 「おねがいします」 「ありがとうございました」 などのあいさつを げんきよくする	しせいを正して 「おねがいします」 「ありがとうございました」 などのあいさつを はっきりとする	「起立」「礼」の号令に合わせて、「お願いします」 「ありがとうございました」などのあいさつを正しくする	
	きそてき 基礎的・ 基本的な 知識や技能	よみ・かき・けいさんのきそ・きほんの ないようをみにつけることができる	きそてき・基本的な知しきや ぎのうを活用することができる	基そてき・基本的な知識や技能を 必要に応じてじゅうなんに 活用することができる	
	いよく 意欲	きょうみ・かんしんをもって いろいろなものにかかわること ができる	きょうみ・かんしんをもったものに じゅくとりと組むことができる	自分で課題をもうけ 学習や運動に取り組むことが できる	自ら目標を定め 意欲的に学習や運動などに 取り組むことができる
	きこく 聞く	あしはベッタン おなかとせなかは グーひとつ	正しいしせいで聞く	正しいしせいで聞く 必要におうじてメモを取る	
	きこく 聞く	きょうみをもって だいじなことを しっかりとくことができる	話の中心に気をつけて聞き しつもんをしたりかんそうを のべたりすることができる	話し手の意図をとらえながら 聞き、自分の意見とくらべる ことができる	目的や場面に応じ、考えを 比べたり評価して聞いたりして 考えを広げ深めることができる
	つた 伝える	「です」「ます」をつけて はっぴょうする	つたわりやすい内ようで 「です」「ます」まではっきりと はっぴょうする	発表する内ようを考え 伝わりやすい内ようで 「です」「ます」まではっきりと 発表する	「私は～だと思います。 理由は～だからです。」と 最後まではっきりと話す
	つた 伝える	あいてにおうじて はなすことがらをじゅんじょ よく、ていねいなことばで はなすことができる	あい手などにおうじて 理ゆうやじれいなどをあげながら すじ道をたててき切な 言ばづかいで話すことができる	目的や場におうじて 事ながら明かくに伝わるように 話の内ようを工夫しながら てき切な言葉づかいで 話すことができる	目的や場面に応じ 立場や考えの違いに応じて 話すことができる 相手の立場を尊重し 考えを広げ深めて課題の解決に 向けて話し合うことができる
	か 書く	せすじをのばして ただしくすわり マスのなかにていねいなもじで おおきく、つよくかく	しせいを正して ていねいな文字で書き 大じなところには しるしをつける	正しいしせいで 板書の内ようをていねいに 記入し、文字の大きさや色分け を工夫して見やすいように書く	正しい姿勢で丁寧に書く 板書を書き写すだけでなく 大事なところは色分けしたり メモを書き加えたりするなど ノートを自分なりに 工夫して書く

小学校１・２年生用ワークシート

それぞれの しつもんについて、あてはまると おもう ところに ○ を かきましよう。

【がくしゅうについて】

	しつかりできる	だいたいできる	あまりできない	まったくできない
① いえの ひとと いっしょに じかんわりを みて、 がくしゅうの よういをする				
② しゅくだいや ていしゅつづつを きめられた ひまでに だす				
③ しゅくだいを わすれずに する				
④ まなんだことを ふくしゅう している				
⑤ つぎの じかんの じゅんぴを してから、 やすみじかんに する				
⑥ しせいを ただして 「おねがいします」 「ありがとうございしました」 などの あいざつを げんきよく する				
⑦ よみ・かき・けいさんの きそ・きほんの ないようを みにつけている				
⑧ きょうみ・かんしんを もって いろいろな ものに かかわる				
⑨ 「あしは ペッタン、おなかと せなかは グーひとつ」の しせいで はなしを きく				
⑩ きょうみを もって だいいじなことを しつかりと きく				
⑪ 「です」「ます」をつけて はっぴようする				
⑫ あいてに あわせて、 はなす ことを じゅんじょよく、 ていねいな ことばではなす				
⑬ せすじを のばして ただしく すわり、 マスの なかに ていねいな もじで、 おおきく、 つよく かく				

あなたは () がつきに、 まいにちの せいかつ で、 どんな ことを がんばり しましたか。	() がつきは、 まいにちの せいかつ なにを がんばりたい ですか。
あなたは () がつきに、 がくしゅうで、 どんな ことを がんばり しましたか。	() がつきは、 がくしゅうで、 なにを がんばりたい ですか。

せいかつや がくしゅうを ふりかえって みましよう

がつ うち ねん ぐみ なまえ

それぞれの しつもんについて、あてはまると おもう ところに ○ を かきましよう。

【せいかつについて】

	しつかりできる	だいたいできる	あまりできない	まったくできない
① はやね はやおきをして、 あさごはんを たべる				
② しつかり ねる(だいたい 9 じかん)				
③ がくしゅう しやすい あんぜんで せいけつな ふくそうをする				
④ いえで きめた やくそくや ルールを まもって テレビなどをみる				
⑤ がくしゅうや うんどうを たのしんで おこない、 じぶんのことを すきだと おもう				
⑥ みぢかなひとに あたかかいところ で せつし、 しんせつにする				
⑦ わがままを しないで クラスの みんなと いっしょに せいかつする				
⑧ いのちの たいせつさが わかる				
⑨ すききらい せつに たべようと する たべものに かんしんを もち、 いろいろ なたべもの の なまえが わかる				
⑩ つうがくはんの しゅうごうじこくや じゅぎょうの はじまる じこくを まもる				
⑪ つくえや ロッカーを せいりせいとんする				
⑫ くつばこの くつの かかとを そろえる				
⑬ ほうき、 ちりと、 ぞうきんなどを ただしく つかって そうじをする				
⑭ じぶんから すすんで、 めを みて げんきよく あいざつや へんじをする				
⑮ すなおに 「ありがとう」 や 「ごめんなさい」 を いう				
⑯ 「です」「ます」を つかって はなす				
⑰ けんこうや あんぜんに きをつけて たのしく うんどうする				
⑱ じぶんが やらなければ ならないことを しつかり おこなう				
⑲ がっこうの きまりを まもる				

生活や学習をふり返ってみましょう

月 日 年 組 名前

それぞれのしつもんについて、当てはまるところに○を書きましょう。

【生活について】

	しつかりできてる	だいたいできてる	あまりできてる	まったくできてない
① 早ね早おきをし、朝食をとり、毎日の生活リズムをととのえる				
② しつかりすいみんをとる(めやすとして9じかん)				
③ 学しゅうしやすいあんぜんでせいけつなふくそうをする				
④ 家できめたやくそくやルールをまもって、テレビなどをみる				
⑤ 自分のとくちように気づき、よいところをいかしのばそうとしている				
⑥ あい手のことを思いやり、すんで親切にする				
⑦ よく考えて行どうし、友だちとなか良くきょう力して生活する				
⑧ いのちのとうとさをかんじとり、いのちあるものを大切にする				
⑨ けんこうにすぐすことをいしきして、いろいろな食べものをすきらいせいに食べようとする				
⑩ 通学はんのしゅう合時こくやじゅぎょうのはじまる時こくをまもる				
⑪ つくえ、ロッカーのせい理せいといんやきょう力して教室内のせい理せいといんをする				
⑫ ぬいだはきもののかかとをそろえる				
⑬ すすんでそうじをし、自分のたん当する場しよをきれいにする				
⑭ 自分からすすんで、目を見てはつきりとあいざつやへんじをする				
⑮ あい手の気もちを考えて「ありがとう」「ごめんなさい」を言う				
⑯ 「です」「ます」をはつきりとつけて話す				
⑰ けんこうやあんぜんに氣をつけて、楽しく、さい後までど力してうんどうする				
⑱ 自分がやらなければならないことに気づき、しつかり行う				
⑲ 学校や社会のきまりの大切さを理かいし、まもる				

それぞれのしつもんについて、当てはまるところに○を書きましょう。

【学習について】

	しつかりできてる	だいたいできてる	あまりできてる	まったくできてない
① 自分で時間わりをかくにんし、学しゅう用ぐをじゅんびする				
② しゅくだいやてい出ぶつをきめられた日までにてい出する				
③ しゅくだいをわすれずに、かくじつに行う				
④ 毎日ふくしゅうをする				
⑤ つぎの時間のじゅんびをしてから、休み時間にする				
⑥ しせいを正して「おねがいします」「ありがとうごさいました」などと、はっきりとあいざつする				
⑦ 読み・書き・計算のきそ・きほんのいようをみにつけている				
⑧ きょうみ・かん心をもったものに、じゅくとりと組むことができる				
⑨ 正しいせいで話を聞く				
⑩ 話の大じなところに氣をつけて聞き、しつもんをしたりかんそうをのべたりする				
⑪ つたわりやすい内ようで、「です」「ます」をはつきりつけてはつきりする				
⑫ あい手などにあわせて、理ゆうやれいをあげながらすじ道をたてて、ふさわしい言ばつかいで話す				
⑬ しせいを正して、ていねいな文字で書き、大じなところにはしるしをつける				

あなたは()学きに、毎日の生活で、 どんなことをがんばりましたか。	()学きは、毎日の生活で、 何をがんばりたいですか。
あなたは()学きに、学習で、 どんなことをがんばりましたか。	()学きは、学習で、何をがんばりたいですか。

生活や学習をふり返ってみましょう

月 日 年 組 名前

それぞれのしつ間について、当てはまるところに○を書きましょう。

【生活について】

	しっかりできる	だいたいできる	あまりできない	まったくできない
① 早ね早おきをし、朝食をとり、毎日の生活リズムをととのえる				
② しっかりすいみんをとる(目安として8時間)				
③ 学校生活にふさわしい安全で滑らかな身だしなみを整える				
④ インターネットやけい・携帯電話などの正しい使い方を理かいし、相手へのえいきょうを考えて使う				
⑤ 得意なことを学習や運動などに生かし、自分が必要とされていると思う				
⑥ だれに対しても思いやりやりの心もち、相手の立場に立って親切にする				
⑦ 自ら考え行動し、節度とせきにんのある生活をする				
⑧ 生命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命をそん重する				
⑨ 食事や体におよぼすえいきょうや食品をバランスよく組み合わせて食べることの大切さを理かいし、1食分の食事を考える				
⑩ 登校時こくやじゅ業や活動の始まる時こくを守る				
⑪ つくえ、ロッカー、カバンなど身の回りの整理整とんや協力して校内の整理整とんをする				
⑫ 自他のはき物のかかとをそろえる				
⑬ 進んでそうじをし、学校をきれいにする				
⑭ 自分から進んで、目を見て気持ち良いあいさつや返事をする				
⑮ 気持ち相手が相手に伝わるように「ありがとう」「ごめんなさい」を言う				
⑯ ていねいな言葉づかいをする				
⑰ 健康や安全に気を付け、自分の最ぜんをつくして運動をする				
⑱ 自分でやろうと決めたことを最後までやりとげる				
⑲ 学校や社会のきまりの意を理かいして守り、自他のけん利を大切にし、進んでぎむを果たす				

小学校5・6年生、中学校1年生用ワークシート

それぞれのしつ間について、当てはまるところに○を書きましょう。

【学習について】

	しっかりできる	だいたいできる	あまりできない	まったくできない
① 自分で明日の学習用具を確実に準備する				
② 宿題や提出物を決められた日までに確実に提出する				
③ 工夫しながら宿題に進んで取り組む				
④ 学習計画を立て、予習、ふく習をかく実に行うやるべき課題をかくにんし、自主学習を行う				
⑤ つくえの上に学習のじゅんぎを整え、じゅ業の内ようをかくにんし、先生が来るのを待つ				
⑥ 「起立」「礼」の号令に合わせて、「お願いします」「ありがとうございます」などのあいさつを正しくする				
⑦ きそめ・き基本的な知しきやぎのうを活用する				
⑧ 自分で課題をもつけ、学習や運動に取り組む				
⑨ 正しいしいで話を聞き、必要におうじてメモを取る				
⑩ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見とくらべる				
⑪ 発表する内ようを考え、伝わりやすい内ようで「です」「ます」まではっきりと発表する				
⑫ 目的や場におうじて、事ながら明かくに伝わるように話の内ようを工夫しながら、てき切な言葉づかいで話す				
⑬ 正しいしいで、板書の内ようをていねいに記入し、文字の大きさや色分けを工夫して見やすいように書く				
あなたは()学期に、毎日の生活で、どんな事をがんばりましたか。	()学期は、毎日の生活で、何をがんばりたいですか。			
あなたは()学期に、学習で、どんな事をがんばりましたか。	()学期は、学習で、何をがんばりたいですか。			

生活や学習を振り返ってみましょう

年 月 日 年 組 名前

それぞれの質問について、当てはまるところに○を書きましょう。

【生活について】

	まったくでない	あまりでない	だいたいである	しっかりである
① 早ね早起きをし、3食きちんととり、毎日規則正しい生活をする				
② 健康に生活するためのすいみん時間を確保する(目安として6～8時間)				
③ 自らルールを守り、時と場に応じた身だしなみを整える				
④ 情報モラルを守り、インターネットや携帯電話などと適切にかかわる				
⑤ 長所・短所をふくめ、自分を大切な存在だと思ふことができ、自信をもって学習や運動に取り組む				
⑥ 自分が多くの人々に支えられてきたことを自覚し、他の人々に対し、思いやりの心をもって親切にする				
⑦ 自分の行いがよぶ結果についても深く考え、責任ある行動をとる				
⑧ 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する				
⑨ 1日分の献立をふまえ、簡単な日常食の調理をする				
⑩ 見通しをもって、5分前行動をする				
⑪ 身の回りのものを使いやすいように整理整頓とする				
⑫ 協力して校内の整理整頓を責任をもってする				
⑬ 自他のはき物のかかとをそろえる				
⑭ 進んで掃除や美化活動に取り組む、学校や公共の場所をきれいにする				
⑮ 自分から進んで、時と場に応じた気持ち良いあいさつや返事をする				
⑯ 相手の気持ちや場に応じた言葉で「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う				
⑰ 時と場に応じた丁寧な言葉や敬語をつかう				
⑱ 健康や安全に留意し、自らの課題に応じて工夫して体力の向上を図る				
⑲ 責任をもって物事に取り組む、最後までやりとげる				
⑳ 学校のきまりや法の意義を理解し守り、自他の権利を重んじ義務を確実に果たす				

それぞれの質問について、当てはまるところに○を書きましょう。
【学習について】

	まったくでない	あまりでない	だいたいである	しっかりである
① 自分で明日の学習用具を確実に準備する				
② 宿題や提出物を決められた日までに確実に提出する				
③ 工夫しながら宿題に進んで取り組む				
④ 学習計画を立て、予習・復習・自主学習を工夫して積極的にを行う				
⑤ 机の上に学習の準備を整え、授業の内容を確認し、先生が来るのを待つ				
⑥ 「起立」「礼」の号令に合わせて、「お願いします」「ありがとうございます」などのあいさつを正しくする				
⑦ 基所的・基本的な知識や技能を必要に応じてじゅうなんに活用する				
⑧ 自ら目標を定め、意欲的に学習や運動などに取り組む				
⑨ 正しい姿勢で話を聞き、必要に応じてメモを取る				
⑩ 目的や場面に応じ、考えを比べたり評価して聞いたりして、考えを広げ深める				
⑪ 私は～だと思います。理由は～だからです。」と最後まではっきりと話す				
⑫ 目的や場面に応じ、立場や考えの違いに応じて話す				
⑬ 相手の立場を尊重し、考えを広げ深めて課題の解決に向けて話し合う				
正しい姿勢で丁寧に書く				
⑭ 板書を書き写すだけでなく、大事なところは色分けしたり、メモを書き加えたりするなど、ノートを自分なりに工夫して書く				

あなたは()学期に、毎日の生活で、 どんな事をがんばりましたか。	()学期は、毎日の生活で、 何をがんばりたいですか。
あなたは()学期に、学習で、 どんな事をがんばりましたか。	()学期は、学習で、何をがんばりたいですか。

2 親子で考えようケータイ・スマホ



親子で考えよう ケータイ・スマホ



ケータイやスマホはとても便利な道具です。一方で、使い方を間違えると、様々なトラブルにあう危険性もあります。親子で話し合って、ケータイ・スマホと上手に付き合えるようになりましょう。

考えよう その1 ケータイ・スマホは本当に必要？

Aさん親子

友達がみんなケータイ・スマホでやり取りをしているらしい。うちもケータイ・スマホを持たせないと仲間外れにされてしまうのではないかと心配。

子どもたちがケータイ・スマホを欲しが一番の理由は、「ケータイ・スマホで友達と連絡を取りたい」です。でも、ケータイ・スマホを持っていない子どもであっても、友達の輪に入っています。ケータイ・スマホを持っても、持っていなくても、結局大事になるのは、顔を合わせてコミュニケーションをとる力です。

Bさん親子

中学校に上がると、部活の連絡はケータイ・スマホでするらしいから、その時にどうせ買うなら、今、持たせよう。

そんなことはありません。部員どうしがケータイ・スマホで連絡を取り合うことはあるようですが、顧問の先生がケータイを持つよう指導することはありません。大事な連絡は、直接話したり、連絡網で回したりします。

Cさん親子

習い事で帰りが遅くなるときや、子どもが放課後に遊びに行ったときに、緊急で連絡をとったり、どこにいるか調べたりできるようにしたい。

安心して習い事や遊びに行かせるために、ケータイ・スマホを持たせる保護者もいます。その場合でも、遊びに行くときのルールを決めたり、子ども達自身の危険を避ける力を育むようにしたりして、ケータイ・スマホを過信しないようにしましょう。



考えよう その2 ケータイ・スマホにはどんな危険性があるの？

ケータイ・スマホを子どもに持たせた親子には、こんな悩みがあるそうです。ケータイ・スマホの便利さと危険性を比べて、本当に必要なか、親子でよく考えましょう。

子どもの悩み

- 知らない間に、自分のメールアドレスが他人に伝わっていた(11才男子)
- 占いサイトで自分の情報を送ったら、迷惑なメールが届くようになった(12才女子)
- 変なサイトをクリックしたら、5万円の利用料金を3日以内に支払えという請求が来た(14才男子)
- メル友募集サイトで知り合った人が、女の子かと思ったら男の人だった(14才女子)
- 掲示板に自分のメールアドレスや写真が掲載されていた(16才女子)

親の悩み

- ゲームに夢中になって、何を言ってもやめようとしな(9才男子の父親)
- ひんぱんに着メロをダウンロードしている。料金が加算されている自覚がない(11才女子の父親)
- せっかくパケット通信料を定額にしたのに、逆にメール漬けになった(13才男子の母親)
- フィルタリングをかけたのに、子どもにはずしてほしいと頼まれた(14才女子の母親)
- お風呂の中で、ケータイをビニール袋に入れて着信を待っている(14才女子の父親)

(出典：「ちょっと待って！はじめてのケータイ」ネット安全安心全国推進会議)

考えよう その3 もし買うなら、どんなケータイ・スマホを選べばいいの？

お店に行くと、たくさんのケータイ(従来型携帯電話)やスマホ(スマートフォン、高機能型携帯電話)があります。どんなケータイ・スマホを選べばいいのでしょうか？

	 ケータイ	 スマホ
利点	・料金が安い	・アプリを追加して、色々な機能をもたせることができる。
安全性	・携帯電話会社が意図した機能しか使えないので、保護者は、子どもの使い方を把握しやすい。また、悪意をもった人にケータイを悪用されづらい。	・誰でもアプリの提供者になれるので、子どもが勝手にスマホの制限を破ったり、悪意のある提供者のアプリによって、ウイルスの感染や個人情報流出等の被害にあったりすることがある。

キッズケータイ・キッズスマートフォン

携帯電話会社各社では、キッズケータイ、キッズスマートフォンといった、子どもの安心・安全機能を強化した機種も用意しているので、目的に応じて検討してみましょう。

考えよう その4 買うとき・買った後に、どんなことに注意すればいいの？

- ①使い方を考えて、料金コースを決めましょう。どんなことをすると、料金がかかるのか、しっかり教えることが大切です。
- ②**フィルタリング**(違法・有害情報の閲覧を防ぐ機能)を**必ず設定**しましょう。
- ③スマホの場合は、携帯電話会社のフィルタリングのほかに、web(ブラウザ)用のフィルタリングと、アプリ用のフィルタリングも必ず導入・設定しましょう。購入時に販売店やメーカー、ホームページで確認しましょう。
- ④特にスマホでは、ウイルスや悪意をもってつくられたアプリによる被害が増えています。ウイルス等への対策をしっかり行い、定期的に見直すようにしましょう。
- ⑤意図せずに、電話帳情報や位置情報(GPS)などの利用者情報が送信されないように、ケータイ・スマホやアプリのプライバシー設定を、適切に設定しましょう。
- ⑥子どもが安全にケータイ・スマホを利用するために、**保護者の役割を確認**しましょう。
- ⑦ケータイ・スマホの使い方について、**親子で話し合い、ルールを決め**ましょう。

保護者の役割チェックシート

子どもを見守りましょう

- ☐使い始めは子どもと一緒にケータイ・スマホを利用して、適切に利用するための知識・技術・マナーやコミュニケーション能力をそれぞれ身に付けさせましょう。
- ☐日頃の子どもの行動や判断能力などから、ケータイ・スマホを「使いこなす力」がどの程度身に付いているのか見極めましょう。
- ☐保護者の心配な点を伝え、子ども自身に考えさせてみましょう。

子どもと会話をしましょう

- ☐子どもと顔を合わせて、普段の出来事やケータイ・スマホの使い方について会話をしましょう。
- ☐時と場に応じた利用とマナーについて話し合いましょう。
- ☐表情を見ながら会話をし、過度の利用で寝不足になっている、トラブルに巻き込まれて落ち込んでいるなど、子どもの「サイン」を見逃さないようにしましょう。

利用情報や課金などについて

- ☐迷惑メールや架空請求メールなど、不審なメールが届いたら、すぐに相談するように伝えましょう。
- ☐フィルタリングなどの設定に必要なパスワードは保護者が確実に管理しましょう。
- ☐保護者のクレジットカードを無断で使うことはできません。ゲームなどの課金について、子どもと話し合いましょう。

(参考：「お子様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができること」内閣府等)

家のケータイ・スマホルール

1. 食事中やお風呂では使わない
2. 夜()時をすぎたら使わない
3. 使っていいのは1日()分まで
4. 充電器はリビングに置く
5. フィルタリングや()の設定は勝手に変えない
6. 個人情報や悪口は書かない
7. 知らない人とやり取りしたり、迷惑メールに返信したりしない
8. 勝手に会員登録やダウンロードをしない
9. 料金が()円を超えた分はおこづかいで払う
10. 以上が守れない時は、保護者がケータイ・スマホの中を確認する

その他のルール

イエローカード(1回守れなかったら)

レッドカード(2回守れなかったら)

※無理のない内容で、親子で話し合って書くとよいでしょう。

(例)ケータイ・スマホを保護者に1日あずける。

年 月 日 子どものサイン

保護者のサイン

(参考：「ちょっと待って！はじめてのケータイ」ネット安全安心全国推進会議)

家庭学習のすすめ

～家庭と学校の学びをつなげるために～

学ぶことの意味や楽しさに気付くことは、生涯にわたり自ら学ぶ意欲につながります。
小・中学校で十分に力を付けるためには、学校と家庭が協力して、家庭学習と学校の学習をつなげることが必要です。

このリーフレットを参考に、家庭学習をふり返ってみましょう。

家庭学習で確かな学力を身に付けるためには…

時間を確保する

- 早寝・早起きをする
- 朝ごはんを食べる
- 本・新聞を読む

生活をコントロールする力は、学力を伸ばすことにつながるとともに、将来、自立するための基盤になります。

質を高める

- 整理整頓をする
- 目標を立てる
- 宿題・復習・予習をする

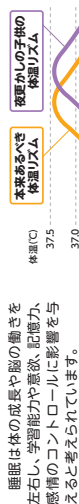
目標に向かって挑戦し、学ぶことは、主体的・意欲的に学び続けるための基盤になります。



草加市

早寝・早起きをする

- **早起きの習慣を身に付け、学校生活に合わせて脳が活発に働くようにしましょう。**



睡眠の目安
小学生…9時間
中学生…8時間

朝ごはんを食べる

- **糖質を含んだ朝食を食べましょう。**
- **食事の時間など、家族で一緒に過ごす時間を大切にしましょう。**



忙しい朝でも簡単に用意できる
タンパク質・糖質を含む朝ごはんの例

朝、起きたばかりの脳は、エネルギーとなるブドウ糖が足りない状態で十分に働けません。糖質（炭水化物・ブドウ糖、果糖など）を含む朝食を食べると、脳の働きが活発になり、集中力や記憶力がアップします。また、ビタミンは、脳がブドウ糖を吸収する働きを高めます。

本・新聞を読む

- **親子で読書をする時間をつくりましょう。**
- **家族で新聞記事やニュースなどを話題にして、会話をする時間をつくりましょう。**



学習する場の整理整とんをする

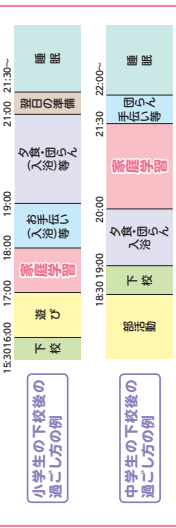
- **テレビ等を消し、教科書やノートなど必要なものを用意して、学習に集中できるようにしましょう。**
- **前の日のうちに、連絡帳や学習予定表で確認しながら、次の日の準備をすませましょう。**

小学校低学年…おうちのひとと一緒に用意しましょう。
小学校高学年…自分で用意しましょう。おうちの人は、時々声をかけて、様子を見守りましょう。
中学生…自分で用意をしましょう。おうちの人は、時々声をかけて、様子を見守りましょう。

計画 家庭学習の計画を立てる

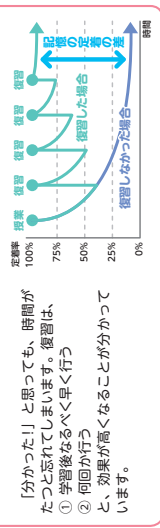
- **家庭学習をする時間等を決めましょう。**
- **家庭学習の目標や内容を考えましょう。**

努力すれば達成できそうな目標を立て、達成に必要な学習内容を考え、計画を立てます。学年に応じて、計画する期間を1日分、1週間分、1ヶ月分と伸ばしていきます。



実行・評価 宿題・復習をする

- **まず、宿題をやりましょう。**
- **復習は、授業のあった日のうちにやりましょう。**
- **教科書やノート、テスト、プリントを見直し、大切なところを見直しましょう。**



集中 授業に積極的に取り組む

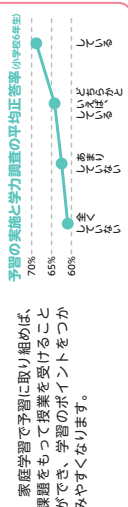
- **大切なところはどこかを確認しましょう。**
- **理解が十分でないところをふり返りましょう。**
- **分からなかったところは、先生やおうちのの人に質問しましょう。**

「問題を解いたあとに、ほかの解き方を考える」「丸付けのあとに、解き方や考え方を確かめる」など、学習内容をふり返ることが理解を深めることにつながります。また、自分の学習の状況をふり返り、「苦手克服に必要な時間」を家庭学習で確保する「家庭学習で取り組む内容の順番を考える」ことで、より質の高い家庭学習の計画に生かすことができます。



挑戦 予習や自主学習をする

- **小学校5年生以上になったら…**
- **次に学ぶ教科書のページを読み、大切なところや分らないところに印を付けたりしましょう。**
- **興味・関心のある課題や自分に必要な課題を自分で、積極的に取り組みましょう。**



小・中学校9年間の家庭学習の見通し

	しょうがっこう 小学校 1年生	しょうがっこう 小学校 2年生	しょうがっこう 小学校 3年生	しょうがっこう 小学校 4年生	しょうがっこう 小学校 5年生	しょうがっこう 小学校 6年生	ちゅうがっこう 中学校 1年生	ちゅうがっこう 中学校 2年生	ちゅうがっこう 中学校 3年生
1日の家庭学習 時間の目安	10分 以上	20分 以上	30分 以上	40分 以上	50分 以上	60分 以上	1.5時間 以上	2時間 以上	2.5時間 以上
家庭学習の ポイント	● 学習する場所を片付けて、学習用具をそろえる。 ● テレビや音楽を消して集中できる環境をつくる。						● 学習計画を立て、見通しをもって学習する。		
家庭学習の 内容	保護者のサポート						自分の得意・不得意に合わせた学習		
							自主学習		
							予習		
							復習		
							宿題		

保護者の方の役割

小学校1・2年生	小学校3・4年生	小学校5年生～中学校3年生
● 一緒に家庭学習に取り組みながら、子どもの学習に対する興味・関心、理解の様子を把握しましょう。 ● できる限り一緒に家庭学習に取り組む、学習習慣づくりをサポートしましょう。	● 家庭学習の習慣を身に付けるために、まだサポートが必要な時期です。積極的に声をかけ、点検をしましょう。 ● できる限り、目の届く範囲で家庭学習に取り組ませましょう。 ● 分からないところがあったら、一緒に考えて学習に協力しましょう。	● 自主性を伸ばす時期です。自主的に学習する姿を積極的にほめてあげましょう。 ● 親子の日常会話や、通知表、授業参観などの話題をとらえて子どもの悩みを知り、自分の経験に基づくアドバイスで、子どもが自分の意思で答えを出す手助けをすることが大切です。
● できていることを認め、できるようになったことを誉め、もうすぐできそうなことを励まし、自ら学ぶ意欲を育てましょう。 ● 子どもとの会話を大切に、学校の様子や学習の悩みなどについて話し合う時間をとりましょう。 ● 家族の一員として家庭での役割を与え、仕事を任せることで責任感や達成感、継続力を身に付けるとともに、家族を大切にできる気持ちを育てましょう。 ● 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣を身に付けさせ、子どもが学習に集中して取り組み、もてる力を十分に発揮できる環境を整えましょう。		

コラム 歴史に学ぶよい教育

江戸幕府を開いた徳川家康は幼い頃（当時、竹千代）、今川義元に人質として差し出されました。竹千代を人質とした今川義元は、一目見て、竹千代の素質を見抜き、このまま成長すれば、将来、必ず自分を脅かす存在になるだろうと思いました。そこで、義元は家来に対し、「竹千代にはむごい教育をせよ。」と命じました。家来たちは、竹千代に早寝早起き、三食（粗食）、学問（勉強）、水練・剣術・馬術を厳しく強いたそうです。

その報告を受けた義元は、家来たちに「それは、むご

い教育とは言わん。本人の望むとおりに何でも与え、好きなことを好きなだけやらせ、どんなわがままも聞いてやれ。」家来たちが、義元の言葉に驚いていると、「そうすれば、たいていの人間はダメになる。」といいました。

義元は、竹千代を必要以上に甘やかし、ダメな人間にしようと考えていたのです。

よい教育とは、早寝・早起き、食事などの規則正しい生活を送り、学習や運動に励むことなのは、今も昔も変わっていません。

平成 30 年度 草加市子ども教育連携推進委員会 専門部会委員名簿

(委員)

◎	首 しゅ	藤 とう	敏 とし	元 もと	埼玉大学教育学部教授
○	田 た	村 むら		学 まなぶ	國學院大學人間開発学部教授
	木 き	村 むら	治 はる	生 お	ベネッセ教育総合研究所主席研究員
	小 お	野 の	真 ま	理 り	私立ルミ幼稚園長
	小 お	澤 ざわ	理 り	加 か	私立谷塚おざわ幼稚園副園長
	照 てる	井 い	幾 いく	子 こ	草加市立あずま保育園長
	福 ふく	田 だ	樹 な	々 な	私立ひかり幼稚舎保育士
	中 なか	村 むら	俊 とし	臣 おみ	草加市立草加小学校長
◎	輿 こし	水 みず		功 いさお	草加市立新田小学校長
○	車 くるま			浩 ひろし	草加市立川柳中学校長
	春 かす	日 が	和 かず	久 ひさ	草加市立清門小学校教頭
	森 もり		太 た	郎 ろう	草加市立松原小学校主幹教諭
	渡 わた	邊 なべ	雅 まさ	士 し	草加市立草加中学校教諭
	羽 は	鳥 とり	恵 けい	輔 すけ	草加市立松江中学校教諭

(事務局)

草加市教育委員会教育総務部子ども教育連携推進室

(オブザーバー)

草加市教育委員会教育総務部指導課

◎：座長 ○：副座長

(平成 31 年 3 月現在、敬称略)

平成 30 年度 草加市子ども教育連携推進委員会 専門部会 審議経緯

<第 1 回> 平成 30 年 5 月 31 日

- 専門部会の年間開催予定について
- 平成 30 年度第 1 回草加市子ども教育連携推進委員会の報告
- (仮) 幼保小中一貫教育プログラム及び草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムの改定について

<第 2 回> 平成 30 年 7 月 4 日

- 草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム (案) について
- (仮) 幼保小中一貫教育プログラム作業分担について

<第 3 回> 平成 30 年 9 月 20 日

- 平成 31 年度版草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム (案) について
- (仮) 幼保小中一貫教育プログラム (案) について

<第 4 回> 平成 30 年 10 月 25 日

- 2019 年度版草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム (案) について
- (仮) 草加市幼保小中一貫教育プログラム (案) について

草加市幼保小中一貫教育プログラム

目指す「草加っ子」を育む 幼保小中を一貫した草加の教育

平成 31 年 3 月発行

草加市教育委員会

〒 340 - 8550 埼玉県草加市高砂 1 - 1 - 1

電話：048 - 922 - 3494

